第一章　京都祇園祭の山鉾行事の近代資料

『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』解説

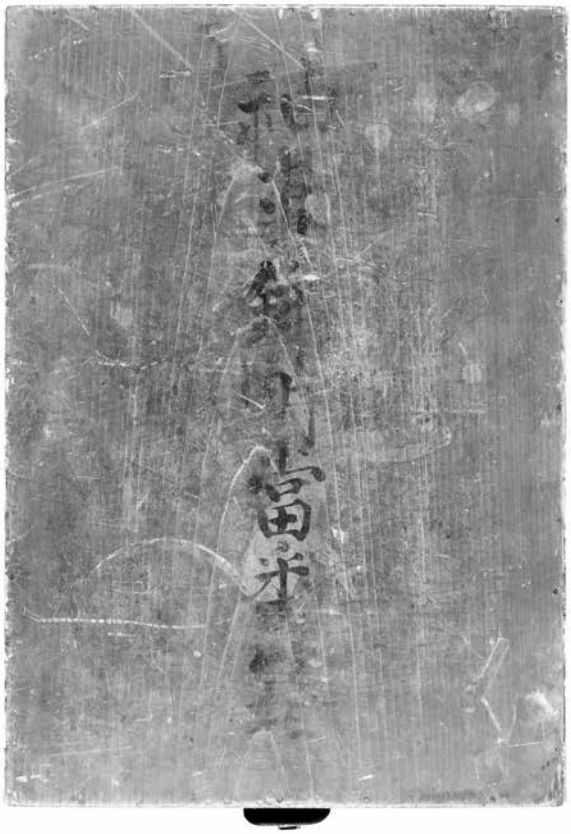
村山弘太郎

「明治九年鉾町々神事諸用記載帳」の概要

「明治九年鉾町々神事諸用記載帳」と題された本史料は、明治九年（一八七六）から明治三十年（一八九七）にかけて、各年の鉾当番がその年の祇園祭山鉾巡行に関わる事務的な事項を記録したものである。

形態は冊子で、法量は縦二三・四センチ、横一五・八センチ。丁数は九八丁あり、すべて「下京第十一區」と印刷された罫紙が使用されていて、そこに表紙と裏表紙が付けられている。途中二二丁目から九丁分と最終丁は白紙である。また明治十二年（一八七九）と明治二十四年（一八九一）の記述が無い。

起筆が明治九年である理由は定かではないが、この年に本史料とそれを収納する木箱を新調し、以後、他の関連書類とともに祇園祭山鉾巡行終了後に次の鉾当番へと送られていた。なおこの時に製作された木箱も現存している（下掲写真）。「祇園祭山鉾連合会所蔵文書目録（暫定版）」（公益財団法人祇園祭山鉾連合会　二〇二一）にある「箱番号A」は同箱に収蔵された史料群であり、本史料を含め、どのような性格の書類が当番山鉾町の間で申し送られたのかを知ることができる。なお木箱の蓋には表に「神事鉾町当番箱」、裏に「明治第九年丙子七月　長刀鉾町、函谷鉾町、月鉾町、鶏鉾町、放下鉾町、岩戸山町」と墨書されている。



鉾当番

鉾当番を構成する山鉾町は、当初は箱蓋裏や本史料裏表紙に記される長刀鉾町、放下鉾町（小結棚町）、函谷鉾町、月鉾町、鶏鉾町、岩戸山町の六町で(二)、明治二十四年（一八九一）に船鉾町、明治二十六年（一八九三）に北観音山町（六角町）、明治二十七年（一八九四）に南観音山町（百足屋町）が、それぞれ鉾当番を担当し、以後の輪番に加わったと考えられる。いずれも囃子をともなう山鉾で、「車附山鉾」とも表記される。先に指摘した二二丁目からの記述欠落は船鉾が担当した明治二十四年に該当するが(二)、何らかの事情により別に作成され、本史料に収録されなかったものであると考えられる。該当する史料の発見が俟たれる。

鉾当番を担当する順番は固定されており、明治九年を起点にすると、函谷鉾町、長刀鉾町、岩戸山町、月鉾町(三)、放下鉾町、鶏鉾町の順で函谷鉾町に戻る。ここに明治二十四年以降、船鉾、北観音山、南観音山が加わるのであるが、その順番を確認するために明治二一年を起点に見ると、函谷鉾町、長刀鉾町、岩戸山町、船鉾町、月鉾町、北観音山町、南観音山町、放下鉾町、鶏鉾の順となっている。この順番がどのような論理で決められたのか、また船鉾町、北観音山町、南観音山の三山鉾町が、なぜ既存の順番に割り込む形で鉾当番を勤めるようになったのかについては、現段階ではあきらかにすることはできない(四)。

鉾当番の業務

「明治九年鉾町々神事諸用記載帳」に記述される内容は、対外的な交渉や諸手続き、また鉾町間での情報周知、意見集約などである。これらが鉾当番の主な役務であったとすることができる。特に定まった書式などはないが、概ね記されるのは、祭日の日割確認、囃子温習日時および許可申請、車両通行止札下付申請、山鉾巡行許可申請、補助金交付日時の周知、順番鬮取願および順番鬮下付願などである。しかしこれらすべてが常に記述されるわけではないため、年度により記述量の多寡が生じている。これらに加え突発的な事案が発生した年には、その議論のために集会が増えることから、必然的に記述量は増えることとなる。

当該期は次々と異例の事案が発生していたのであるが、ここでは特に、かつての祇園祭と山鉾巡行が経験した流行病である「コレラ」について、その対応などを概観したい。

コレラの影響

コレラが日本へと初めて侵入したのは、文政五年（一八二二）であったとされる。以後、複数回の流行を経験しながら明治維新を迎えるのだが（京都府医師会医学史編纂室編　一九八〇）、明治に入っても克服することはできなかった。コレラという未曾有の流行病は、祇園祭山鉾巡行にも大きな影響を与えたのだが、その様子の一端を本史料から窺い知ることができる。

明治十年（一八七七）、西南戦争から帰京した兵士から感染拡大が始まり、一時は収まるものの、再拡大の兆しがあったために京都府は「本府予防法」を布達した。しかし明治十二年（一八七九）には全国的な流行となり（京都府医師会医学史編纂室編　一九八〇）、それを受けて次の布告が出された。

第二百三十五號

虎列刺病流行四國西國九洲地方ヨリシテ大阪府下兵庫縣下ハ彌盛ニテ

當府下ニヲイテモ傳染之徴候日々多クカヽル時諸人雑沓羣集スルハ病勢ヲ蔓延セシムル基ニシテ甚以危嶮之事ニ付追而相達スル迄ハ左之通

一　神社佛寺祭禮開帳等諸人ヲ集ムル事都テ延引申付候事

一　説教一切停止之事

一　講テレマイ等ニテ人集メスル事停止之事

一　諸興業一切停止之事

右之通管内無洩至急相達者也

明治十二年六月廿四日　　京都府知事槇村正直

（京都府立総合資料館編　一九七二）

明治十二年の祇園祭山鉾巡行はこのコレラ流行の影響により、布告にもある「神社佛寺祭禮開帳等諸人ヲ集ムル事都テ延引」を受けて日程変更されたのである。先に指摘したようにこの年の記述が無いことは、コレラ流行による日程変更と関係していると考えられる。

次に影響を受けるのは明治十九年（一八八六）であるが、「五月ヨリ虎列刺病流行ニ付私祭停止ニ付本年ニ限リ左ニ致定候事」と、一一月に延期された日程を記すのみで、そこに至る経緯などはわからない。翌二十年（一八八七）も同様に「明治弐拾年當年私祭五月中ニ執行可致旨御告諭」と、五月に前倒しされた日程を記しているが、日程変更は自発的なものではなく「告諭」によるものであることが判明するのみであり、前年と同様その経緯はあきらかにできない。

日程変更に至る経緯が比較的あきらかになるのは明治二十八年（一八九五）である。同年は例年通りの予定で準備が進められており、念願であった補助金増額も認められたことから、前途洋々とした山鉾巡行になる予定であった。祭日日程の確認や囃子温習届、車両通行止札下付願および山鉾通行願、順番闃下付願の提出、補助金の受け取り、電灯会社への連絡などを行っていた矢先、鉾建を始めていた七月十日の午後三時過ぎに、五条・堀川両警察署から同時に即刻呼状が届いた。出頭したところ、コレラ流行のため「私祭差止メ鉾取崩し車止メ返戻」すようにとのお達しであった。時を同じくして八坂神社宮司、区役所からも、「當分之内官国幣社私祭及府社以下祭禮等人民群集ヲ差止」る府令が届いた。

この対応のため「各町集會」を持つが意見がまとまらず、翌十一日に再び集会を持ち、「車止札」の返還猶予と、おそらくは山鉾巡行の実施請願だと考えられる「京都府へ請願」を決定し、八坂神社宮司と「取締役杉浦氏」へもこの旨を伝えたうえで請願書を整えた。また清々講社からも府令に従うことと、補助金の返金についての通達があった。

十二日には区役所からの認可を受け、京都府へと出頭して請願するが認められず、「至急鉾取崩し」の命令を受けた。そのため為す術もなく京都府による決定に従い、鉾を解体して「車止札」も返還したのであるが、鉾建の必要経費に関しては後日、給付を受けることができた。

九月に入ると、清々講社から補助金に関する依願があった。それは補助金増額をしたにもかかわらず、たとえコレラ流行のためとはいえ山鉾巡行を実施しなかったことで、次年度の氏子からの神事費出金が見込めなくなるため、今年度補助金で山鉾巡行してほしいというものであった。鉾町もその依頼を拒否することはできなかったのであろう。協議の上、宵山を二日間減らして対応することにした。

九月二十九日には、延引していた祇園祭山鉾巡行の日程調整が行われた。八坂神社宮司と清々講社幹事が京都府より十一月執行の指示を受けていたのであるが、元来夏祭りである山鉾巡行を十一月に執行することは不都合

であると拒否をした。しかしこれは「紀念祭掛リ」、つまり平安遷都千百年紀念祭担当からの依頼であると告げられたため、直接「紀念協賛會委員」と協議したものの、最終的には平安遷都千百年紀念祭に合わせて十月執行に決定した。

明治二十八年の祇園祭山鉾巡行は、コレラ流行とその対応を知ることができる事例というだけではない。祇園祭山鉾巡行が、当事者たる山鉾町や八坂神社、清々講社の意向だけではなく、京都府の意向も加味しつつ、氏神祭礼から京都を代表する伝統行事へとの二面性を獲得していく過程についての示唆も得られる事例であろう。

むすびに

本稿では「明治九年鉾町々神事諸用記載帳」について、特にコレラ流行下の山鉾巡行に焦点を当てながら概観をした。勿論これ以外にも、補助金増額嘆願や、新暦導入に伴う祭日の固定、博物館による調査とその対応、琵琶湖疏水起工式への参加、招魂祭への囃子奉納など、多くの興味深い論点を提供するものである。

本史料をはじめ、神事鉾町当番箱に残された史料群が、近代祇園祭山鉾巡行を検討する際にその中核となる史料であることは間違いない。

〔注釈〕

（一）山鉾町の記載順が箱蓋裏と本史料の裏表紙では異なっている。ここでは本史料裏表紙の記載順を採用した。

（二）明治二十三年の末尾に「次當番船鉾御町へ御預ケ申」、明治二十五年の冒頭に「明治廿四年八月船鉾町ヨリ此當番筐ヲ受取ル」とある。

（三）先に指摘したように明治十二年の記述はないが、明治十一年の末尾に「御當番町月鉾御町江帳簿函御廻シ申候也」とある。

（四）鉾当番を担当した六山鉾町、あるいは九山鉾町と、それ以外の山鉾町との関係も不明な点が多い。たとえば明治九年の京都府への許可申請には、鉾当番である函谷鉾町だけではなく、「綾傘鉾戸長・五組頭」も同行していることから、一定の関係性も読み取ることはできる。しかし他の山鉾町が集会へと参加していないことや、諸連絡先に入っていないことを考えると、独立性の高いものであったと評価すべきであろう。

なお山町についても特定の山町が山当番を勤めていたと考えられるが、その構成山町や順番も本史料が鉾町により作成されたものであるため、あきらかにすることができない。各当番を構成する山鉾町と、そうでない山鉾町との相互関係、また対外関係の在り方などの解明は今後の課題である。

〔引用・参考文献〕

公益財団法人祇園祭山鉾連合会編『京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査Ⅰ』二〇二一　公益財団法人祇園祭山鉾連合会
京都府医師会医学史編纂室編『京都の医学史』一九八〇　京都府医師会
京都府立総合資料館編『京都府百年の資料』四　社会　一九七二　京都府

『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』

〔凡例〕

・本資料は公益財団法人祇園祭山鉾連合会が所蔵する『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』を全文翻刻したものである。『京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査　Ⅰ』所収「祇園祭山鉾連合会所蔵文書目録［暫定版］」のA―1の史料である。

・原史料の影印も、翻刻文の後にすべて収録した。

・翻刻文の改行は原史料に従った。

・原史料の欄外に記された文言は、ポイントを落としゴシック体で翻刻文の当該記事の前に挿入した。

・翻刻文では旧字や異体字は当用漢字に直したが、固有名詞は原史料の表記に従った。また合字は仮名に直したが、「ゟ」のみ残した。

・誤字や文意が通じがたい箇所などに、翻刻文では脇に（ママ）と付した。

・判読困難な文字は■とし、判読不能文字は□とした。

・原史料に抹消がある場合は、翻刻文の当該文字に二重取消線を付した。

・史料の翻刻は村山弘太郎（京都外国語大学）が担当した。

『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』（翻刻）

〔表紙〕

「　明治九年

鉾町々神事諸用記載帳

」

当番函谷鉾町

一六月十五日午前八時当町会所
席江鉾町々ヨリ御壱名宛御出頭ニ相成
出鉾願書之儀并ニ山鉾町々車留メ之
札願書之事七日夜御神灯之事戻リ
鉾道筋順路之事出シ店鑑札之事
右事件御談事申置候也

一十六日御達申置候来ル廿日氏子祭
入式ニ付氏地区戸長中并ニ山鉾係
役々当日八坂神社江参詣之義相達
置候事

一車方増金之義ニ付廿日午後一時当町会所席江
鉾町々御出頭有之席江車方ヨリ
直上ケ歎願差出し候ニ付御出頭何茂様へ
御相談申上置候事

一廿一日車方当町江呼寄引合致し
候処金八円也者先之極リ其上
此度テコサ（ママ）々ラ代トシテ金壱円増茜
木綿壱反宛遣シ候事鉾町々江御相談申
上右様ニ相定候事
但シ当町ニ而茜木綿五反買求メ
車方江相渡候定之事

一廿六日函谷鉾町戸長五組頭綾傘鉾
町戸長五組頭右四人　御政府江罷出
出鉾願書車止メ之願書右弐通差出シ
候処御聞済ニ相成右車止メ之札三拾
三枚御下ケ渡被下当校江持帰リ候事

一廿八日拾壱校ニ而車止メ之札山鉾
町々江相渡請取調印取置候テ尚々
其節鬮渡し之シブリ山鉾町々之
衆中江相達置候事

一七月二日午前五時巡査衆中之
出張所江車止メ之儀御届書差出候也

一同三日御達申置候明四日午前十一時
山鉾町々戸長伍組頭壱名宛拾壱
校江御出頭有之博物館掛ヨリ御書下ケ
御渡ニ相成尚又来ル五日鬮取之義午前
七時罷出候様総区長ヨリ達し有
之候也

一同四日御達申置候明五日午前六時ゟ
午後三時迄之内ニ博物館掛リ見聞有之

候ニ付山鉾錺リ附致し置候事
一十日午後七時当番両町ヨリ五組頭
弐人罷出車止メ之札三拾三枚
御政府江返上仕候事
一十五日午後七時当町会所席江
鉾町々伍組頭御壱名宛御出頭有之
氏子中ヨリ出金之義ニ付御談事申
上候処各鉾町々も多分入費相掛リ
候間此度神事当番江増金之歎
願書可差出旨申談置候事
一十八日午前七時長刀鉾町五組頭
壱人函谷鉾町五組頭壱人右両人嘆
願書神事当番下京第拾区之区長
衆中迄右増金願書差出置候也
一今般神事用諸書記類并ニ帳面
等入置候箱新調候ニ付箱金具共
代価八拾銭帳弐冊代価弐拾五銭
五厘合テ壱円五銭五厘右六町に
割付壱町ヨリ拾七銭六厘ツヽニ相成候
間此段相達し置候事

明治十年七月
当番長刀鉾町
一明治十年五月廿四日八坂神社正遷宮ニ付而者当日
より二日之間於社内神楽囃子相勤呉候様社務ゟ
鉾町々江依頼ニ附当町会所席ニ而鉾町々御集会ニ相成
御相談之上左之通鬮取を以御定相成候事
神楽囃子日割并囃子場
六月一日
御幸之間　放下鉾町
御供所　観音山町
拝殿西　月鉾町
六月二日
御幸之間　岩戸山町
御供所　長刀鉾町
拝殿西　函谷鉾町
同東　鶏鉾町
右之通鬮取を以治定ニ相成神楽囃子奉納無滞相済
申候事
明治十年六月
一当年ゟ私祭之日割左之通改正ニ相成御達至来
致候事
七月十日　神輿洗
七月十一日　社参
同　十二日　鉾建
同　十三日　車懸

同　十五日　曳初
同　十七日　当日
同
同　廿八日　神輿洗
右之通改正相成申候

一六月十九日当町会議所へ鉾町々ゟ弐名宛御出頭ニ相成候而
私祭出鉾助費増方願之義ニ付御談事之上町々入費金
高明細書御認ニ相成種々御相談之事
一同廿日鉾町総代として長刀鉾町函谷鉾町山町惣代
として岩戸山各三名下京第拾五区茶製場へ本日
神事掛区長衆并土田氏村田氏集会ニ付右明細書
持参之上御談事申上候処御評議在之候則願書左ニ写

八坂社私祭助費之儀御願

八坂社私祭消費之儀昨九年ゟ願出居候処年々
不足之金額償却方種々盡力苦心仕候得共永続之
目的無覚束被存府下之美観を失ひ候而者各町ニ
おゐて千万歎ケ敷次第ニ奉存候間何卒助費課出
之金員増額相成候様御改定相願度依而入費帳
簿差出申候御参考之上宜敷御指令之程伏而
奉願上候以上
明治十年六月

長刀鉾町　惣代　内田源助
函谷鉾町　〃　一井政七
月鉾町　〃　小野清三郎
鶏鉾町　〃　芥川猪兵衛
放下鉾町　〃　山内新助
岩戸山町　〃　青木四郎次
観音山町　〃　中村傳兵衛

前書之通各連印を以別紙入費帳簿相添差出候処本日ハ
御相談治定不仕候ニ付右願書持帰り申候事
但入費帳簿ハ別紙之写在之爰ニ略ス
六月廿七日
神事掛り放下鉾町村田氏月鉾町土田氏当町会所江
御出頭ニ相成至急ニ右増方一条ニ付御談事之義在之趣ニ付車
附七ケ町江廻達申上御集会ニ相成御相談之上相改
左之通依頼書前両所当丁(ママ)ニて相認差出候事

則左之通

一昨九年神事当区江差出候助費増方依頼書之
儀ニ付本月廿日山鉾町惣代三名各区御会議之席へ入費
書上之控相携推参致重而御依頼申述候処各御厚
配被下候得共猶当年之処従前之侭ニ而可相勤候様御申聞ニ付
更ニ別紙之通御依頼書差出候書外事情之万端御
演舌之程御依頼申入候元来助費之義両氏御発起ニ而
出来候事故各区御申込之段偏ニ御委セ申入候山鉾町
借財相嵩ミ後年見込相立兼候義も是又委細御承知
之事ニ御座候情実之処程能御申立相願候神事当区ゟ
年々金三十円以内各町へ受取神事相勤候得共尚

其町自費多分ニ而遂ニ無拠曳渡相休候様ニ立戻リ候
而者何共従来御尽力被下候廉も無詮次第ニ而御同前ニ
歎ケ敷存候何卒各町山鉾永続之為今金廿円ツヽ
各町へ助費増御周旋御尽力被下度尤入費情々町
分ニ而取賄候ハ其町之義務ニ候得共永続相成兼候而ハ氏
地ハ勿論府下一般之景況ニ茂関係可致哉誠ニ両氏之
御尽力茂空ク相成候而者歎ケ敷存候甚申兼候ヘトも今一層
御勉勵被下各区中江情実貫徹相成候様御配慮之
程各町ゟ更ニ御依願申入候也

明治十年六月廿八日　　各町連印前書之通也

土田作兵衛様
村田五兵衛様

六月廿八日午后六時ゟ右増方一条ニ付各町御集
会ニ相成申候
同廿九日
右増方一条ニ付再応依頼書相認各町へ調印之義
廻章を以申入御調印之上神事当区へ差出候書
面之写左之通則
一八坂私祭ニ付例年山鉾町々江請取申候助費之義
明治五年以来従前之地之口米課出を廃シ公平之分
賦を以氏子四百三十余町各金壱円宛課出シ神事
入費ニ配当相成候ハ其砌各区区長御中決議之旨
承知仕居候依而鉾町ハ金三十円曳山町ハ金廿七円
或ハ廿三円舁山町ハ八円神童有之候町ハ別ニ弐円
請取神事勤来候得共実者鉾壱基ニ付例年七八拾
円之入費有之各四五十円之募集其町分ニ而相賄居候
且(カツ)年々修繕之入費不少山鉾町何れ茂借財相嵩
永続之目的相立兼候ニ付助費増之義昨年
神事前より御依願申居又過日御会議之節
昨九年御府庁へ差出候入費調書写を以御公評相受
候処衆議御一決不相成先従前之助費ニ而可閣之旨
伝承仕候此分ニ而者年々疲弊ニ立至リ後年山鉾
保存之見込難相立存候依而車附山鉾七基之内
三基ツヽ順次ニ相休ミ当番之四基へ金額融通致
相務(ママ)候半ハ如何哉とも存候得共府下之景況他国之見聞
茂可有之候間是非を決せず候此儀御公論仰度候ニ付
宜御尽力之程偏ニ御依願申候也

明治十年六月　　各連印前書之通略

神事当区御中

追啓

鉾町入費之義本紙之通申立候得共猶其外神僮
及禿勤務之入費ハ大半担当之家より相賄候へとも
是非三十円以上ニハ至リ可申哉実ニ永続之為費を省キ
候ニハ木偶之町分茂有之候間当町分茂木偶ニ可致哉
是又大ニ景況外見ニ閲シ候事故何共決議難致

有之候依而此義茂御公評被下度候也

長刀鉾町
月鉾町
放下鉾町

神事当区御中

右弐通土田氏へ差出置候事

七月四日　例年之通助費金受取方下京三区へ御出頭之段廻章差出申候事尤車附山鉾六ケ町様へ達ス

但明五日午前七時印形御持参之事

七月五日　当町会所席へ鉾町々御集会ニ而博物館より御検査御出張之日限御相談之上来ル十四日ト御治定相成申候事附リ鉾道具明細書各御認方之義御談事之事

同日　私祭当日山鉾曳渡方ニ付順番之鬮頂戴之願として御府江長刀鉾町戸長國井藤兵衛殿山町総代白楽天町戸長冨永太兵衛殿御出頭相成候事

但願書別冊ニ在之略ス

七月六日　当町席ニ而各御集会之義ハ当年於八坂新地来ル十日神輿洗之節俗ニねり物相催申候趣ニ付而者当節助費増方之依頼一条茂在之振合之為兼テ当年ハ七月十二日鉾建治定ニ候得共右景況之為十日ニ鉾建可然ト土田氏村田氏両氏ゟ茂御談有之候ニ付各評議之上弥来ル十日鉾組建之御治定相成申候事

同七日

前条之通鉾建之義来ル十日ニ治定ニ付相改当町ゟ御府江右之趣相願車止御建札御下ケ渡出願之事

御届書

一八坂神社私祭之義七月七日之処当年ゟ十七日ニ御願申上候処御聞届ニ相成候其節鉾組建之義ハ十二日ト申上置候処都合ニ寄来ル十日ゟ鉾組建仕度候間此段御届書申上候以上

鉾町連名

前書之通相違無之候也

下京第十弐区区長　冨江彦兵衛
同　第十壱区区長　川勝利平

京都府知事槇村正直殿

別紙車止御建札御願済之上鉾町々分ハ当町ニ而御渡シ申上候尤夫々調印申受候事

七月九日　右車止御出願之義当町戸長白楽天町戸長御両名御出頭ニ相成申候事

七月十七日　神事当日

四条通柳馬場東入ル　下村店
寺町通四条下ル　神宮教会所

右弐ケ所ニて　宮方　御内覧在之候事

前条之通有之候依而荒増記載之上次御当番岩戸山御町江帳簿箱相廻シ申候也

明治十年八月　　当番　長刀鉾町

明治十一年七月　私祭鉾町

当番岩戸山町

六月十六日午后六時於当番町ニ鉾町々
御総代方御集会囃子温習始御示談有之
十八日夜ヨリ始廿五日迄（節気前ニ付三十一日夜迄）休従七月一日九日
夜迄但シ岩戸山町ニ限リ自七月一日夜同九日夜迄
右之通御決定ニ相成則当町ヨリ警察分署江
届出差出し候事
　但シ右届書ハ鉾町総代当番町戸長壱名ニテ
　差出し候事
六月廿一日午后壱時下京第拾壱校ニおゐて
祭費金御渡之義達シ書就到来ニ鉾御町々江
御通知申同日無滞御請取ニ相成候事
六月廿九日私祭事務係リヨリ左之通御達シ
有之候ニ付各御町々江御巡達仕候事
　八坂神社私祭日附記
七月一日　吉符入之従前之通
　七日　鉾神僮社参之事　午前
　附リ本日山鉾町々社参ニテ神酒頂戴之事
　十日　神輿洗　午後十一時
　同日　鉾建　午前一時ヨリ
　十一日　鉾車懸　午前十時
　十四日　山建　午前六時
十五日　御府庁ニ於テ鬮取山鉾順行定候事
同日　鉾曳初山舁初　午前十時
十七日　当祭日山鉾順行　午前七時
同日　御神輿御旅所迄行幸　午后四時
十八日　鉾建
廿一日　山建
廿二日　鉾曳初山舁初
同日　御府庁鬮取山鉾順行定
廿四日　当祭日山鉾順行　午前七時
廿四日　御神輿還幸　午后二時
廿八日　神輿洗　前十日同様
右毎年例祭定日也私祭事務掛リ㊏
七月三日午前八時本区於会議所ニ山鉾町々
集会私祭当日山鉾町々曳渡巡行之随行之
者麻上下着用之義廃止ノ儀御示談ニ相成候処
議事区々ニテ評決不致退席之事
　催主（鉾当番町　山当番町）
七月五日本日本府庁江渡当日巡行
鬮頂戴且車止願書府鉾当番町戸長青木四郎次
山当番町戸長旅行ニ付兼務小野清三郎連署ニテ差出ス
岩戸山町和田卯兵衛矢田町　金次郎両人出府之事
本年ヨリ届書前年トハ少々換リ候則
本紙御聴届書翌日御郵達ニ相成候ニ付当番

函江残置候ニ付写置候義ヲ略ス
同日諸車止建札御下ケ渡ニ相成鉾御町々江
当番町ニテ御渡申候事
但シ於本府御下附之節廿日返上之諸書差出
申候事
七月十六日私祭事務御掛リヨリ御達シ有之左ニ
私祭当日山鉾巡行之際四条通東洞院ヨリ
松原通東洞院迄ノ間鉾山順次伸縮ヲ
不顧巡行ニ相成相当ニ付本年ヨリ必先鉾跡ノ
山トノ間伸縮不同無之様各山鉾町々之
随行之者精々注意宜致様懇々御諭達
ニ付右御達書御巡達仕候事
七月十七日午前八時比聊之小雨有之候得共
巡行之妨ニ相成程ニモ無之直ニ晴順路無滞
曳渡ニ相成候事
本日四条通立売東町北側下村御氏方ニテ
梨本宮外ニ皇族方御二タ方御内覧有之候
尤長刀鉾ヨリ順次ニ達書到来岩戸山ヨリ
長刀鉾町江差戻シ候事
同日神輿神行無滞御旅所ニ御行在
路中拝観人賑々敷事ニ御座候
十八日午前第十壱時頃本府庶務分局ヨリ
左ノ御達シ到来〇博物館画工
田中茂一

右之者山鉾模写可致云々
右ハ本校江御達到来ニ付直ニ当町江御渡シニ付
即刻鉾御町々江御達申同日午后当番町ニテ
御集会有之右順廻之順次鬮取ニ相成左
之通　一四条船鉾　二袋屋同　三岩戸山町　四鶏鉾
五函谷鉾　六月鉾　鬮之通ニテ決定
但シ何れモ取片付後之事ニ付精々日延之義
区長ヨリ右模写係リ江御懸ケ合之義御依
願申候事　長刀鉾ハ第十二校江御達ニ
付右御集会ハ御沙汰不申候也
七月廿四日快晴山鉾巡行
神輿還幸無滞両祭日トモ路中
拝観人殊之外賑々敷芽出度相済申候也
七月廿日山鉾当番町ヨリ車止建札返上ニ出府致候事
前条之通事務概略記載之上次
御当番町月鉾御町江帳簿函御廻シ申候也
明治十年八月　本年当番岩戸山町
（ママ）

明治十三年七月私祭鉾町
当番放下鉾町
六月十日午後弐時当番町ニおゐて鉾町々
御総代集会之上囃子稽古始且当年
諸色手間等高価ニも在之候ニ付手伝車方
是迄当番町ニテ引合罷在候処彼是手数も

相掛リ候義ニ在之各町々ニ於テ適宜引合ニ
決議有之候事
稽古始　十一年度之通
但し届書之義者当番鉾ゟ差出し候事
七月一日八坂神社社務所ゟ本日吉符入ニ付
神酒粽青梅等差出し申候様通知在之
山鉾町々江相達候也
七月八日諸車止メ建札御下ケ渡願則願書
在之候事
本年都テ高価ニ付氏子町江助費金
増申遣候ニ相成其後協議之上各町々金
ツ、増金ニ相成候也
七月十一日第拾壱校ニテ久迹宮様ヨリ
朱燈（ママ）灯三張ツ、鉾町々江御寄附相成候事
但し山鉾町々江者弐張ツ、也
私祭式日都テ十一ケ年度通りニ
御座候事
七月十七日祭日天気ニテ巡路ニ無滞相済
候本年ヨリ綾傘鉾出行ス
十九日車止御建札返上出府之事
前条之通事務概略記載之上次
御当番鶏鉾御町江帳簿箱相廻候也
明治十三年　　本年当番放下鉾町

明治拾四年七月私祭鉾町
当番鶏鉾町
一六月十三日ヨリ廿三日迄七月一日ヨリ六日迄二階
囃子稽古相勤申趣廻達仕候事
六月十一日
一来ル七月一日例年之通吉符入ニ付八坂神社
西ノ間ニおいて神事掛り之参詣江御神酒
頂戴之趣達シ在之候ニ付山当番太子山江
通知致し鉾町江廻達致し候事
六月廿九日
一七月五日例年之通車止メ御建札願区役所江
出頭候仕候当三月ヨリ建札ハ地方税ニ而償費不相成
候ニ付各町々より木札取集メ持参可致尚両三日之内
沙汰可致旨被申聞候ニ付引取候事
一同日例年之通来ル十七日八坂神社私祭ニ付当日
順行仕候順鬮御渡し被下度候段出願致置候事
一車止建札之義当二月よりハ地方税ニ而償費不
相成候ニ付各町々より木札拵取集メ持参可致候
ハ、書下ケ渡候様御達しニ付早速各御町々江
御通知仕各御町ニ而木札御拵ニ相成候事
七月六日
一七月八日各御町々ゟ取集メ候木札持参区役所江
出頭仕候処余り多分在之早速認メ兼候趣ニ而尚
出来次第沙汰可致旨被申聞候得共鉾町之義者

余りも無御座且繁多事故何卒本日御書下ケ
之程押而願即日御書下ケに相成午後二時引取夫々
御渡し申上候事
右建札之義来ル十七日八坂神社私祭諸車止メ
之義奉願上候依之建札三拾八枚持参仕候間
本日御書下ケ之義奉願候尚祭日相済跡取片付
之上ハ各町々残シ置年々相用ひ度候間此段
御聞届被成下度奉願上候
右之通願書差上候処矢張跡取片付相済候上
持参御取消可願出候趣ニ可認候様申聞候尚亦
十七日御達シニ者戸長役場ニ預り置可申候様
被　仰出候趣戸長衆より達ニ付其趣御通知
致置十九日ニ車止メ御取消願書出頭仕候事
当年者別段御談事之義も無之依之集会
者無御座無滞神事相済前条之通事務取扱
記載致置次御当番長刀鉾（ママ）御町江帳箱
御渡し申置候事

明治拾四年　　当番鶏鉾町

明治十五年七月私祭鉾町

当番函谷鉾町

一六月七日長刀鉾町ニ於テ集会其節
左之件々協議候事
一六月十五日ヨリ同廿日迄二階囃子稽古之事
一六月廿日　吉符入
一七月一日　社参
一七月一日ヨリ同七日迄二階囃子稽古之事
一山鉾警護上下ニ一文字笠但爪折ニテモ不苦
右決議候事
一七月五日例年之通車止メ御建札願
下京区役所江出頭候事
一同例年之通来ル十七日八阪（ママ）神社私祭ニ付
当日順行仕候順番御鬮渡被下度候段
出願致置候事
一七月八日警察分署江諸車止メ届ケ書
差出シ候事
但シ当組内月鉾鶏鉾岩戸山郭巨山
白楽天綾傘鉾函谷鉾
右七ケ町一紙ニ認差出シ候事
一七月七日車方一■直増之義願出
候ニ付同九日各鉾町集会之上金
弐円酒料トシテ遣ス事ニ極メ候事
但シ右者当年限ノ事ニ申渡シ置候事
一七月十二日本組役場ヨリ私祭費金
渡シ方達シニ付各町々江申達仕置候処
各御受取ニ相成候事
一七月十五日鉾飾附記博物館江差出シ
之義達シニ付各町々取集メ本組役場江

差出シ候事
一同日土田氏ヨリ東京博物館掛リ
山鉾順覧相成候趣御沙汰ニ付各町々江
通知致候事
一七月廿日車附八ケ町集会ニ相成戸長
川勝氏神事掛土田氏出席ニ相成
其節例年七月十五日氏子各組
戸長衆相招鉾運転実地一覧
被致候事ニ取極メ右ニ付世話町順番
鬮引ニテ左之通取極メ候事
壱番鶏鉾町弐番岩戸山町三番長刀鉾町
四番函谷鉾町五番北観音町六番放下鉾町
七番百足屋町八番月鉾町
一七月十九日諸車止メ神事相済候ニ付
取消御願書差出シ置候事
前条之事務取扱仕記載ノ上次御当番
長刀鉾御町江帳箱御渡し申置候事
明治十五年七月　　当番函谷鉾町

明治十六年七月私祭鉾町
　　当番長刀鉾町
一六月十七日車附町々集会致諸色下
落ニ附諸人夫直下之義御相談仕候処
車方昨十五年直増之分引下候様トノ
談事相調候へ共当年者各事件者
相不行レ候事
一七月五日例年通車止御建札下京
区役所へ願
一同十七日例年之通八坂神社私祭
ニ附当日順行順番御鬮渡被下
度候趣出頭致置候事
　但本年者十五日日曜日ニ附十四日鬮取也
　山鉾町々出頭之由通知ス
一同十三日下京三組役場ニ而鉾入費
受取候事
　但本年ゟ直増左ニ鉾壱本ニ附則
　金六拾九円児者金弐拾三円也尤各
　町々モ受取相成候事
一七月十三日鉾飾附記各町ヲ取
纏十一組へ差出し候
一同十四日下京区役所役員出張
見聞(ママ)相済
右余者例年通候事
前条之通取扱次御当番岩戸山
御町へ帳函相廻シ候事
明治十六年七月
　　当番長刀鉾町

明治十七年七月私祭鉾町

当番岩戸山町

一条

一七月五日例年之通車止建札
書下ケ之義山当番町連署ニテ区
役所江出願候処上ケ置相成候事

二条

一同日山鉾組建例年之通鬮取ノ義
京都府江直ニ願書差出候事
右両様トモ聞届ノ御指令下付相成候事

三条

一鉾飾具調書取纏メ七月十三日
十一組戸長役場へ差出候事

四条

一七月十三日十一組役場ニテ鉾入費
被相渡夫々請取候事

五条

一十六日区役所ヨリ吏員出張見分
相済候事

六条

一当日強雨ニテ本年ハ十二日ヨリ雨続
引初メ宵山トモ雨降殊ニ寺町松原
東洞院松原ノ両辻道路大破ニ相成
迚モ鉾順行六ケ敷且其上強雨ニ付
山鉾順行ノ義ハ延引ト治定シ其段
京都府区役所警察署江届書
差出候事

七条

一十八日三組学校ニテ日限之義山鉾
町々協議区々ニテ廿日ト云ヒ或ハ廿三日
ト曰ヒ結局付キ兼故ニ各丁(ママ)抽籤
シテ多数ニヨル事ニ決シ各其意見ヲ
ヒネリ鬮トナシ鬮札候処廿三日ノ多数ト
成リ是ニ治定ス
一廿三日晴天諸事都合能相済候事
右之外略ス
右次当番月鉾御町江相廻ス
明治十七年七月　　岩戸山町

今般八坂神社祭日日換之儀者
昨拾七年之事故有之候ニ付
今年ニヲイテ改定候事
但シ祭日之日割左之通

明治十八年三月
七月下京区第三組
戸長役場ニをいて

山鉾町集会之上
祭日日換決定相
成候事

七月　一日　囃シ初メ
同　十日　吉符入
同　十日　神輿洗
同　十四日　鉾建
同　仝　宵宮
同　十五日　神幸
同　仝　児子社祭
同　　鉾車掛
同　十八日　鬮取
同　仝　曳初メ
同　仝　山建
同　廿日　宵宮
七月　廿一日　鉾順行
同　廿二日　鉾建
同　廿三日　車掛
同　廿五日　曳初メ
同　廿五日　山建
同　廿七日　宵宮
同　廿八日　山鉾順行
同　廿八日　還行
同　三十一日　神輿洗

六月廿二日集会之儀ニ附回書相達シ候事
六月廿六日午前八時集会相成候事
長刀鉾町函谷鉾町放下鉾町鶏鉾町
岩戸山町　山町当番　孟宗山町
右各町々当会所席ニ左之通リ協議
之上取極メ相成候事
車屋手間代価金拾五円定メ
手伝壱人ニ付　金廿四銭定メ
鉾縄引壱人ニ付　金拾五銭定メ
神僮人足壱人ニ付　金拾六銭定メ
順行当日車方始メ手伝縄引弁当代
金弐銭五厘
一金参拾五銭大工定敷壱人手間代払
一鉾建之日即刻車掛候事
一七月三日区役所へ車止メ建札願罷
こし候事
一鉾カサリ品書取調十一組戸長場差出候
事

但三願済
紙同二通当
番筥へ相
納置候事

一鬮取十八日午前八時京都府へ願書之通知

有之候事
一二階囃子七月一日ヨリ同月十二日迄相勤
不申候事
一十三日十四日両日鉾建ルニ付休日之事
明治十八年六月五日木疏(ママ)水起式祭典之節
〔行間〕「十一組戸(ママ)役場ニをいて」
車附山鉾町集会上山鉾町壱町内ニ附
金弐円ツヽ有志ヲ以テ合計金拾弐円
也其内壱町放下鉾町へ鬮当リニ相成
祇園東村ニて相被勤候事
一其後ヲ上京梨木神(ママ)へモ右同断之義
テ一町内金五十銭ツヽ有志ヲ以テ奉
納ニ相成候函谷鉾町鬮当リ也
一綾小路傘鉾同年ヨリ向五ケ年
間出鉾之儀者休鉾之由済ニ
相成候事
右当番
明治拾八年七月　月鉾町
明治十九年五月ヨリ虎列刺病流行
ニ付私祭停止ニ付本年ニ限リ左ニ
致定候事
十一月十四日　囃子初
同　日　御輿洗
同　十五日　吉符入
同　十七日　御神幸
同　十八日　鉾建
同　十九日　児社参
同　廿日　鉾曳初
同　日　山建
同　廿二日　山鉾巡行
同　廿四日　御還幸
同　廿八日　御輿洗
〆
一十一月十三日下京警察署へ車止願
出候事但シ山鉾共板当番町へ取纏メ持参ノ事
〔車止建札図〕
〔車止建札注記〕
「寸法
下図之通リ
但シ曲尺ノ事」
一同日山鉾順番鬮取下京区役所へ
京都府宛ニテ差出シ候事
一本年道路修繕ニ付鉾柱脇石取除
候ニ付土木課へ書面ヲ以テ願出候処
御趣令ニテハ日限相掛リ候ニ付書面却
下聞置ニ相成候
一廿三日車止札山鉾町々取纏メ消

印警察署へ願出即時持帰夫々
町々へ返却ノ事
一十六日鉾鋤御取調書其町々手
許ニ認置ク事通知致候事
前条之通リ事務概略記載之上次御当
番鶏鉾御町へ帳簿箱相廻候也
明治十九年十一月　放下鉾町

明治弐拾年当年私祭五月中ニ執行可致旨
御告諭ニ付則左ニ
一四月十五日　囃子稽古始
一同　廿日　吉符入
一同　卅日　御輿洗
一五月　一日　児社参
一同　二日　鉾建
一同　仝日　御旅所神輿
一同　五日　鬮取
一同　同日　曳初
一同　同日　山建
一同　七日　山鉾巡行
一同　六日（ママ）　観音山建
一同　八日　曳初
一同　同日　山建
一同　十日　山巡行
一同　同日　還行
一同　十二日　神輿洗
右之通執行相成候事
一車止之義ハ五月一日ヨリ八日中ヲ願書候
尤下京警察署江出願建札之義者本年ゟ
神事行事当番町ニ保護可致旨願出次当番町江
御預申置次当番函谷鉾町江廻箱スル
明治廿年五月　当番
鶏鉾町

明治弐拾年十月十六日
招魂祭ニ付鉾町神楽囃子奉納可致旨
区役所ヨリ神事係村田氏江嘱托（ママ）相成
就テハ出頭番鬮取ニ致シ左ノ順番ヲ以テ
依頼奉納有之節者出頭可致事ニ取
極メ候事
尤以后奉納ニ付諸入費ノ義者各町毎々
金弐円宛差出シ出頭町江相渡シ可申
依之順番町々連印可致置候也
明治二十年十月
明治二十年十月十六日出頭鉾
一　月鉾町
一　長刀鉾町
一　函谷鉾町（印）
一　北観音山町

一　放下鉾町
一　岩戸山町
一　鶏鉾町
一　南観音山町

明治廿一年七月私祭鉾町
当番函谷鉾町
一六月十日神事日割候事係ヨリ通知有之
左ニ
六月　廿日　囃子稽古始
七月　一日　吉符入
同　十日　鉾建
同　　日　神輿洗
同　十一日　児社参
同　十四日　山建
同　十五日　鉾曳初
同　　日　鬮取
同　十七日　山鉾順行
同　　日　御神幸
同　十八日　両観音山建
同　廿一日　山建
同　廿二日　曳初
同　廿四日　山順行
同　廿四日　御還幸
同　廿八日　神輿洗
右之通執行候也
一七月六日下京警察署へ諸車止出願
即時聞届相成候事
右ノ件同日山鉾町々江通知致置候事
一七月十一日下京区役所江京都府宛ニテ
鬮取願差出シ候事
但本月十五日ハ日曜ニ付十四日ニ京都府へ鬮取出頭ノ事
一同日鉾飾附明細書取纏メ十一組戸長役場へ
差出候事但長刀鉾函谷鉾月鉾鶏鉾放下鉾岩戸山メ六通也
一当年ヨリ車掛并曳初共他町へ鉾曳出ス時ハ
下京警察署へ届出認可ノ上ナラデハ不相成候
ニ付本月十四日神事係ヨリ届済ニ相成即日
山鉾町々江通知仕候事
但以后者車掛曳初共年々神事係ヨリ御届ニ相成候事
一七月十七日午後五時頃下京区役所ヨリ
九鬼圖書頭殿山鉾飾附品順覧有之
達シ到来ニ付即刻時間附ヲ以テ山鉾
町々江通知致候事
一車止札取纏メ次御当番長刀鉾御町へ
御預ケ申并当番箱相渡申候事
明治廿一年七月
当番
函谷鉾町

明治廿二年七月私祭鉾町

当番　長刀鉾町

一六月十日神事日割神事係ヨリ通知有之

左ニ

六月　廿日　囃子稽古始
七月　一日　吉符入
同　十日　鉾建
同　　日　神輿洗
同　十一日　児社参
同　十四日　山建
同　十五日　曳初
同　　日　鬮取
同　十七日　山鉾順行
同　　日　御神幸
同　十八日　両観音山建
同　廿一日　山建
同　廿二日　曳初
同　廿四日　山順行
同　廿四日　御還幸
同　廿八日　神輿洗

右之通執行候也

一七月六日下京警察署へ諸車止出願

即時聞届相成候事

右之件同日山鉾町々御通知致置事

一七月十一日下京区役所江京都府宛ニテ

鬮取願差出シ候事

一同日鉾飾附明細書取纏メ十一組戸長

役場へ差出ス事但長刀鉾函谷鉾月鉾鶏鉾放下鉾岩戸山〆六通也

一当年ヨリ車掛并曳初共他町へ鉾曳出ス時ハ

下京警察署へ届出認可ノ上ナラデハ不相成候

ニ付本月十四日神事係ヨリ届済ニ相成即日

山鉾町々江通知仕候事

但以后者車掛曳初共年々神事係ヨリ御届ニ相成候事

一車止札取纏メ次御当番岩戸山御町へ

御預ケ申并当番箱相渡申候事

明治廿二年七月

当番

長刀鉾町

明治廿三年七月私祭鉾

当番　岩戸山町

六月　廿日　囃子稽古始
七月　一日　吉符入
同　十日　鉾建
同日　神輿洗
同十一日　児社参
同十四日　山建

同拾五日　鉾引初
同拾五日　鬮取
同十七日　山鉾順行
同　日　御神幸
同十八日　両観音山建
同廿一日　山建
同廿二日　曳初
同廿四日　山順行
同　日　御還幸
同廿八日　御輿洗
右之通執行候也
一七月七日下京警察署へ諸車止メ出願
即時聞届相成候事
一車止札取纏メ次当番船鉾御町へ御預ケ
申候并当番箱相渡申者也
明治廿三年七月　当番　岩戸山町

明治廿四年八月船鉾町ヨリ此当番筐ヲ受取ル
同廿五年六月十九日氏子総代土田作兵衛 村田五郎兵衛ヨリ申来ル左ニ
私祭日割
六月二十日　鉾囃子稽古始メ
七月　一日　吉符入
〃　十日　神輿洗
〃　鉾建
〃　十一日　神童社参
七月十四日　山建
〃　十五日　曳初
〃　〃　鬮取十七日ノ分 廿四日ノ分
〃　十七日　山鉾順行
〃　〃　御神幸
旧十四日ノ部
〃　十八日　観音山建
〃　廿一日　山建
〃　廿二日　曳始メ
〃　廿四日　山順行
〃　〃　御還幸
〃　廿八日　神輿洗
右記
右ノ通本府区役所其他共御届出ニ相成候趣氏子総代
ヨリ申来候間此段通知申上ル廻文ヲ出ス六月廿日午前
長刀 函谷 放下 鶏 岩戸 船 上観音 下観音各町へ　当番町月鉾
囃子温習届
自六月廿日至六月廿五日 自七月一日至七月七日　函谷　鶏　岩戸　船　放下等
自七月一日至七月七日　長刀　月
前書之通例年八阪(ママ)神祭ニ付右各町ニ於テ二階囃子
ト称シ囃子温習仕候尤時間ハ右日限午後七時ヨリ同十一時迄
稽古致候ニ付此段御届申上候也六月廿日　当番町月鉾惣代
五条警察署御中（烏丸高辻角派出所へ出ス）

○

七月五日付ヲ以テ五條警察署ヘ諸車止ヲ願フ

願書

一別紙各町義七月九日ヨリ同月廿五日迄ノ内ニ於テ八阪（ママ）

神社私祭執行ニ付山鉾出御道路ノ中央建設ケ候ニ付テハ

自然人民群集雑沓可致候故諸車通行有之候テハ危

懼廉不尠候ニ付客年ノ如ク夫々別紙日割ノ通リ諸車

通行停止相成度尤人民通行障碍等無之様精々

注意可仕候ニ付此段奉願上候也

神事私祭当番町各町総代
京都市……月鉾町
高村半三○

明治廿五年七月五日

前同断……
京都……芦刈山町
蔵立栄助○

五条警察署長

警部児玉友介殿

諸車通行停止致願日割

一七月九日ヨリ七月十八日迄（但シ船鉾ハ車新調仕試験ノ為メ本年ニ限リ同町ノミ七月七日ヨリ）

四条通…　長刀鉾町

…　函谷鉾町

…　月鉾町

室町通…　鶏鉾町

新町通…　放…　小結棚町

…　船…　袋屋町

…　岩戸山町

一七月十七日ヨリ仝廿五日迄

新町通…　南…　百足屋町

…　北…　六角町

一七月十三日ヨリ仝十八日迄

錦…　占出山町

烏…　孟…　筍町

錦…　錦天神山町

室…　山伏山町

綾…　伯…　矢田町

東…　保　燈籠町

四…　郭巨山町

八阪（ママ）神祭ニ付山鉾通行御願

一七月五日　鉾曳始之節

長刀　四条…

函…　四…

右ハ居町ヨリ東ハ柳馬場迄西ハ新町限リ通行之事

鶏…　室…

右ハ居町ヨリ北ハ蛸薬師迄南ハ綾小路通限リ事

放下…　新…

岩戸…

船　…

右ハ居町ヨリ北ハ六角通迄南ハ松原通限リ事

一七月十四日　山建

山ハ渾テ該町限リ

一七月十七日山鉾順行当日
山鉾ハ居町ヨリ出テ四条通ニ而相揃
順路
四条通東へ寺町通リ南へ松原通リ西へ
烏丸通迄順行以上各帰町ス其内
月　放下　岩戸　船鉾ハ新町通リへ出テ
各帰町
七月八日
観音山建
〃廿一日
各山建
〃廿二日　観音山曳始メ
北観音山　新町…
南観音山　新町…
右ハ居町ヨリ北ハ三条通迄南ハ四条通限リ
通行ノ事
各山ハ該町限リ
一同廿四日山順行当日
各山ハ居町ヨリ出テ三条通ニテ相揃
三条通リ東へ寺町通リ南へ四条通西へ
新町通リへ出テ各町帰町
前記ノ通リ執行致度候ニ付此段願上候也
京都市……月鉾町
私祭当番町惣代
明治廿五年七月五日　高村半三〇

芦刈山町
蔵立栄助〇
五条警察署長警部児玉友介殿
〇前同断車止及順行願書
太子山ト油天神ト木賊刈（ママ）山ト芦刈山トハ
堀川警察署長へ願出ス署長ハ御同人
〇
八阪（ママ）神社私祭ニ付山鉾順番鬮取願
鬮不取　四条……　長刀鉾
〃　四条……　函谷鉾
四条……　月鉾
室町……　鶏鉾
鬮不取　新町……　放下鉾
〃　〃　岩戸山
〃　〃　船鉾
錦小路…　占出山
四　郭巨山
錦　錦天神山
綾　伯牙山
室　山伏山
東　保昌山
綾　芦刈山
油　太子山
〃　油天神山

仏　木賊山
筍　孟宗山

本月八阪(ママ)神社私祭ニ付右ノ町々江山鉾差出し来ル
十七日例年ノ通道筋順行仕度候ニ付就テハ来ル十五日
出頭可致候間順番鬮取御下付相成度此段願上候也
明治廿五年七月九日　鉾町惣代　高村半三
山町惣代　蔵立栄助

京都府知事北垣国道様
追而ノ沙汰トアリテ当日ハ上ケ置七月十二日ニ

京都市下京区　社第五二八号
四条通室町西入　八阪(ママ)神社私祭鉾鬮取申
月鉾町　トシテ来ル十五日午前第八時
鉾町惣代　京都府　関係者一同出府可致
高村半三殿　此段及通達候也
廿五年七月十二日

○―

諸車止願書ハ
于茲其写ヲ
掲示スルヲ失念
セリ仍テ
本帳ヲ一件
書類ニ綴込置

○―
○七月十八日
車止札返上御届
八阪(ママ)神社私祭執行山鉾建設ニ付去ル五日ニ各
町へ車止札御下付御認可相成候処今十八日期限ニ付
車止札返上此段御届申上候也
右年番町両町ヨリ
五条警察署ト　堀川警察署ト　両方へ届書出ス
○七月廿五日
両観音ノ車止返上届ヲ為ス五条警察署へ
畢（十月ニ上観音山町江当番ノ箱相廻ス）

明治廿五年十月月鉾町ヨリ此当番函ヲ受取ル
明治廿六年六月十七日氏子惣代村田氏土田氏ヨリ通知有之左ニ
私祭日割本年ヨリ七月一日　囃子稽古始メ
其余日割客年之通
右日割書相記シ六月廿六日当町ヨリ各町へ持廻ル
放下　月鉾　鶏鉾　岩戸山
長刀　函谷　舟鉾　南観音山各町へ通知ス
囃子温習届
自来ル七月一日　函谷　月　放下　船
至七月七日　長刀　岩戸　南観音山
自来ル七月一日至七月十日ニ　北観音山
鶏鉾ハ該御町御惣代当番町へ御光来ニテ本年出鉾之義ハ町分ニ彼是事情有之至本日出鉾ハ未定
之由御申聞セニ付本日温習届ニハ鶏鉾ハ除之
六月廿九日此義ハ届書ニ記載不仕候事
前書之通例年八阪(ママ)私祭ニ付右各町ニ於テ二階囃子ト

称シ囃子温習仕候尤時間ハ右日限内午后七時ヨリ
同十一時マテ稽古致候ニ付此段御届奉申上候也
明治廿六年六月廿九日（私祭当番町北観音山六角町惣代他行中神戸勘七郎印）
五条警察署御中（烏丸蛸薬師上ル派出所へ出ス）

七月七日付ヲ以（五条堀川）警察署へ当町両人出頭ニテ願出ス
諸車止御願（願書入用弐通出シ壱通壱通ハ上ケ置御指令有）
一別紙各町義七月九日ヨリ同月廿五日迄之内
ニ於テ八阪（ママ）神社私祭執行ニ付山鉾市街道
路ノ中央建設ケ候ニ付テハ自然人民群集
雑沓可致候故諸車通行有之候テハ危懼
ノ廉不尠候ニ付客年ノ如ク夫々別紙
日割ノ通リ諸車通行停止相成度尤
人民通行障碍等無之様精々注意可仕候
ニ付此如奉願上候也
（神事私祭当番各町惣代）京都市下京区新町通六角南入　北観音山町事
六角町
明治廿六年七月七日　惣代　鎌田貞策
（京都市下京区仏光寺通西洞院西入木賊山町惣代鈴木治兵衛）
五条警察署長
警部児玉友介殿
（別紙）諸車通行停止請願日割
一七月九日ヨリ七月十八日迄
四条通烏丸東入　長刀鉾町
四条通烏丸西入　函谷鉾町
四条通新町東入　月鉾町
新町通四条北入　放下鉾町事　小結棚町
新町通綾小路南入　船鉾町事　袋屋町
新町通仏光寺南入　岩戸山町
室町通四条南入　鶏鉾町
一七月十七日ヨリ同廿五日迄
新町通六角南入　北観音山町事六角町
新町通蛸薬師南入　南観音山町事百足屋町
一七月十三日ヨリ同十八日迄
錦小路通室町東入　占出山町
烏丸通四条北入　孟宗山町事　筍町
錦小路通新町東入　錦天神山
室町通錦小路北入　山伏山町
綾小路通新町西入　伯牙山町事　矢田町
東洞院通高辻南入　保昌山町事　燈籠町
四条通新町西入　郭巨山町

八阪（ママ）神社私祭ニ付山鉾通行御願
一七月十五日　鉾曳初之節
長刀鉾　四条通……
函谷鉾　四条通……
月　鉾　四条通……
右ハ居町ヨリ東ハ柳馬場通迄西ハ新町通限リ通行候事

放下鉾　新町……
右ハ居町ヨリ北ハ六角通迄南ハ綾小路限リ通行候事
岩戸山　新町通……
右ハ居町ヨリ北ハ四条通迄南ハ松原通限リ通行候事
船鉾　新町通……
右ハ居町ヨリ北ハ四条通迄南高辻限リ通行候事
山ハ都テ該町限リ
一七月十七日山鉾順行当日
山鉾ハ居町ヨリ出テ四条通リニテ相揃ヒ
順路
四条通リ東へ寺町通リ南へ松原通リ西へ烏丸通リ
迄順行以上帰町ス
其内月鉾放下鉾岩戸山船鉾ハ
新町通リへ出テ各帰町之事
一七月十八日
観音山建
一同　廿一日
各山建
一同　廿二日　観音山曳初
北観音山　新町通……
南観音山　新町通……
一同　廿四日　山順行当日
右ハ居町ヨリ北ハ三条通迄南ハ四条通限リ通行候事
各山ハ居町ヨリ出テ三条通ニテ相揃ヒ

順路
三条通リ東へ寺町通リ南へ四条通リ西へ新町通リへ出テ各帰町ス
前記ノ通リ執行致度候ニ付此段奉願上候也
明治廿六年七月七日　京都市下京区……
私祭当番
各町惣代　鎌田貞策
京都市下京区……
私祭当番
各町惣代　鈴木治兵衛
五条警察署長
警部児玉友介殿
○前同断車止及順行願書共弐通宛前ニ同し
太子山ト油天神山ト木賊刈(ママ)山町ト芦刈山トハ
堀川警察署へ願出ス七月七日午前ノ内
両警察署共即御聴届ニ成ル
堀川警察署長
警部皆川淳殿　○車止通行願共御聴届ニ付則各町へ通知致置候事
七月七日
○八阪(ママ)神社私祭ニ付山鉾順番鬮御願
鬮不取　四条……　長刀鉾町
同　〃　……　函谷鉾町
四条……　月鉾
室町……　鶏鉾
鬮不取　新町……　放下鉾
〃　〃　船鉾
〃　新町　岩戸山

錦　……　占出山
同　錦天神山
油　油天神山
油　太子山
仏　木賊刈(ママ)山
綾　芦刈山
同　伯牙山
四　郭巨山
東　保昌山
室　山伏山
烏　孟宗山

本月八阪(ママ)神社私祭ニ付右之町々江山鉾差出シ
来ル十七日例年之通道筋順行仕度候ニ付就テハ来ル
十五日出頭可仕候間順番鬮御下付相成度此段奉願上候也

明治廿六年七月八日　鉾町惣代　鎌田貞策
山町惣代　鈴木治兵衛

京都府知事千田貞暁殿

右願書弐通内壱通ハ下京区役所ノ見認メノ上九日日曜日ニ付十日午前八時ニ府庁ヘ願出頭ス追テ之沙汰トアリテ十四日ニ左ノ通リ

○八日午后電灯会社ヘ通行届ヲ為ス
○十四日京都御府ヨリ御沙汰アリ明十五日午前九時鬮取ヘ出頭ス
○十五日午前九時　御府庁ヘ各町出頭被成候事

当番町　北観音山町
木賊刈(ママ)山町　出ル

○七月十八日午前九時ニ

車止札返上御届

八阪(ママ)神社私祭執行山鉾建設ニ付去ル七日各町ヘ
車止札御下ケ付御認可相成候処今十八日期限
ニ付車止札御返上此段御届奉申上候也

明治廿六年七月十八日　右当番町両名印

五条警察署
堀川警察署　ト　両署ヘ出ス

○七月廿五日
両観音ノ車止札返上届ヲ為ス
五条警察署ヘ　届書出ス　畢

七月三十日次御当番百足屋御町ヘ函相廻ス

囃子温習届

自七月四日　函谷　月　放下　船
至々　七日　長刀　岩戸　鶏
自七月四日　南観音山
至々　十日　北

前書之通例年八坂私祭ニ付右各町ニ於テ
二階囃子ト称シ囃子温習仕候尤時間ハ右日限
内午後七時ゟ同十一時ニテ稽古致候ニ付
此段御届奉申上候也

当番南観音山百足屋町

明治廿七年七月四日　惣代　櫟　義助印

五条警察署御中

一諸車及順路共届書都而客年之通
差出し聞届之上各町々ヘ相達し置候

七月

一祭費割賦令増額之義ニ付月数寄席致

右一件書類一纏メ置候事

七月廿八日

一八月一日次御当番小結棚御町へ廻ス

明治弐拾八年六月十五日氏子惣代ヨリ

明十六日午前九時下京区第三校江出頭いたし

候様達し至来之事

十六日出頭之処取締杉浦氏はしめ

幹事方氏子惣代出席ニテ各町

連印〔尤観音山除〕書面増額申出候之通リ聞

済ニテ則壱基ニ付金弐拾円増シ且また神童

之儀ハ金五円「(脇書)但し金廿三円之処金廿八円トナル」ヲ増額シ以後屡々増額

之儀ハ

御無用依テ七月差入ニハ不都合無之様

封金ニして八阪(ママ)社務所ニおゐて御渡し可申由ニテ

幹事方ニモ羽織袴着用スルノ旨承リ

各町々江当町ヨリ達し候事

六月廿三日村田氏ヨリ承リ社祭日割左ニ

七月　一日　吉符入　囃子稽古始メ

十日　御輿洗　鉾建

十一日　神童社參

十四日　山建

十五日　曳初　鬮取

十七日　山鉾順行　御神幸

旧十四日ノ部

七月十八日　観音山建

廿一日　山建

廿二日　曳初

廿四日　山順行　御還幸

廿八日　神輿洗

右之通御届出ニ相成候趣ニ付此段各町へ御通知致候事

就テハ囃子温習届可致段各町へ持廻ル

則左ニ

囃子温習届

一七月一日ヨリ七月七日ニ至ル

四条通烏丸東へ入　長刀鉾町

四条通新町東へ入　函谷鉾(ママ)丁

新町通四条東へ入　月鉾(ママ)丁

新町通四条北江入　放下鉾(ママ)丁事　小結棚(ママ)丁

新町通仏光寺南へ入　岩戸山(ママ)丁

新町通綾小路南へ入　船鉾(ママ)丁事　袋屋(ママ)丁

室町四条南へ入　鶏鉾(ママ)丁

一七月一日ヨリ十日ニ至ル

新町通六角南へ入　北観音山町事　六角町

新町通蛸薬(ママ)し南へ入　南観音山町事　百足屋(ママ)丁

前書之通例年八阪(ママ)私祭ニ付右各町ニ於テ二階囃子ト

称シ囃子温習仕候尤時間ハ右日限内午後七時ヨリ同十一時ニテ

稽古いたし間此段御届奉申上候也

新町通四条上ル放下鉾町事小結棚町

私祭当番町惣代　岩崎甚兵衛

明治廿八年六月廿八日

五条警察署長
警部羽田信明殿　（烏丸蛸薬し
派出所へ出ス）

一七月三日村田氏ヨリ通知在之来ル六日
八阪(ママ)社務所ニおゐて私祭費御渡しニ付
各町弐通ツヽ印形携帯羽織袴着用
御出頭相成度通知致シ其際車掛及
曳初メ時刻等別紙ニ記入相成度廻達ス
一七月六日五条堀河警察署江当町両人出頭シ
例年之通諸車止及山鉾通行願差出し
聞届之上各町々江通知いたし候事
一同日電灯会社へ鉾建并通行筋差
支日限時刻等電灯線取払□□壱通差出候事
一九日八阪(ママ)神社私祭山鉾順番鬮願例年之通
区役所へ認メ御請京都府へ出頭追而
御沙汰之旨ニテ上ケ置候事
一七月十日午後三時過頃五条堀川両警察署
ヨリ同時ニ即刻呼状至来出頭いたし候処
目下乗列拉病流行ニ付私祭差止メ鉾
取崩し車止メ返戻可致様御達しニ候事
但し堀川警察署ハ相談之御沙汰ナレトモ
本日車止メ願取消ト御沙汰ニ候也
府令第五十六号
京都府一般
目下乗列拉病流行ニ付当分之内
官国幣社私祭及府社以下祭礼等
人民群集ヲ差止候
但し本令ハ発布ノ日ヨリ施行ス
明治廿八年七月十日　京都府知事
渡邊千秋
右之通リニテ八阪(ママ)宮司ヨリ区役所ヨリモ
追々御通達在之午後六時当町ヨリ
各町集会相談スルモ決定いたしかね尚
十一日午前七時各町々弐名ツヽ当町会所席へ
出頭談候之上五条警察署江車止メ返戻猶予
ヲ願就而者京都府へ請願可致旨ニテ夫々
八阪(ママ)宮司取締杉浦氏へも申込置午後請願
書各町々弐名ツヽ連印之事
十一日朝清々講幹事ヨリ十日附ヲ以テ
別紙府令第五十六号之通リ御達候ニ付
去ル六日補助費相渡し候金額来ル十三日
午後正一時ヨリ三時迄ニ下第三学区明倫校へ
御持参一ト先御返戻相成度尤私祭ニ関シ
費用之分ハ更ニ御請求相成候ハヽ支払可申候
此段御通知申候也
明治廿八年七月十日　清々講幹事
右之通前書各町十一日集会之際相達シ候也
十弐日請願書区役所認メヲ請ケ
京都府へ出頭面会願請願スルモ聞届

難ク至急鉾取崩し候様ト書面却下之事
但し函谷鉾丁(ママ)　当丁(ママ)　出頭致候也
夫々願之調印当町ヨリ取消ヲ持廻ル
十三日五条警察署へ車止メ返上届左ニ
車止札返上御届
八阪(ママ)神社私祭執行山鉾建設ニ付去ル八日
各町へ車止札御下ケ附御認可相成候処
各不延引ニ付今十三日車止札御返上
此段御届奉申上候也
下京区新町通四条上ル神事私祭当番各町惣代放下鉾町事小結棚町
明治廿八年七月十三日　総代岩崎甚兵衛印
下京区東洞院通高辻南江入保昌山町事燈籠町
総代
五条警察署長
羽田信明殿
七月十七日村田氏より明十八日午前第九時下第
拾壱学区ニおゐて私祭ニ関ル費用御渡シ
相成候旨ニ付各町々江通知ス但シ南観音山御町ハ費用書出し無之ニ付御断ノ事
一十八日鉾町々北観音山町出頭ニ相成夫々
入費御請渡シ相成候よしニ候事
一九月廿六日清々講幹事ヨリ八阪(ママ)神社
私祭之義ニ付至急ヲ要シ御相談申上度件
在之明廿七日午前八時同神社へ御出頭相成度旨
鉾町々及ヒ山町総代へ達し在之候事
一廿七日山鉾車附町々山町総代社務所
ニテ集会相成候処幹事ヨリノ依願ニテ
去ル七月例年之通私祭ニ就而者出鉾相成モ
流行病之間取崩ニ及ヒ御失費等在之
本年ヨリ氏子町々ヨリ増額シタルモ尚増金等
出金スル事不能且又出鉾相成ラザレハ明年ヨリ氏子
町々事神事費出金スルヲ得ズ次第ニ付昨年
之補助金ニテ出鉾相成度段依願申付
各町々談し之上宵山弐日間減シ出鉾
いたし可申且十七日廿四日共私祭当日一時ニ仕度
申置候処幹事ニモ御事談ノ上ハ私祭当日
御談シ申上不日本府へ出願可致旨事ニシテ
粗十月十四日当日ノ都合御協議ニ相成夫々
退席相成候事
一九月廿九日清々講幹事ヨリ私祭
山鉾巡行日取之儀ニ仕御協議申上度旨
即刻八阪(ママ)神社々務所へ来車之旨当町へ
通知相成候ニ付出頭候処昨日本府ヨリ
達ニテ宮司およひ幹事出頭いたし候処
本年ニ者十一月ニ執行可致趣承り候へ共
元来夏祭之義ニテ不都合ヲ協シ候事故
押テ請願シタルニ紀念祭掛リ〻申込在之義ニテ
尚紀念祭掛リニ談し可申様トノ事ニテ今朝
紀念協賛会委員へト談し候上左之日割ニ

取極メ致候旨各町々江御通知在之度此段
依願之事□□□□

廿八年御神事改正日割

十月　七日　御神輿洗　十日　児子社参
十一日　御神幸　十三日　鉾建（廿四日共同断）
十五日　山建（廿四日共同断）　十六日　鉾曳初同断
十六日　鬮取同断　十八日　山鉾巡行同断
午后　御還幸
廿日　御神輿洗

右之通協賛会委員と協議決定
候条因テ府令五拾六号解停之上ハ
前件之通執行可致候事

清々講幹事

一十月一日神事日割取極メ相成候ニ付電灯
会社届鉾建何時ニして曳初何時各町ヨリ何時迄
各書面被差出候様通知スル（各町書面取調之上十月八日電灯会社へ届ス）
一十月七日諸車止メ及ヒ道行願とも五条
堀川警察署共聞届之事
一十月八日京都府鬮取願差出し候事
（但シ七日区役所ニテ認メ相談出頭候也
其後認可無之ニ付十五日伺出候処指令ニ不及明十六日鬮取之町出頭可致御沙汰之事
口上ニて各町へ通知之事）
一十月八日清々講幹事ヨリ明九日午後
弐時ヨリ四条御旅所ニテ山鉾補助金御渡し
可申段各町ヨリ弐名ツヽ御越相成度旨通知在
之袴着用ニ不及即刻各町へ通知いたし候事
一十月十日諸車止十弐日ヨリ十九日迄山鉾
道行願警察署御聞届之段各町通知
いたし候事但シ試験曳刻限ニアラズ
一十月十九日車止メ札返上届いたし候事
一神事ニ係ル書面等一切取纏メ置候也
一十一月九日次当番鶏鉾御町江箱廻ス

明治廿九年七月私祭鉾町

当番鶏鉾町

一六月一日左ノ書式ヲ以テ囃子温習届ヲ出ス

囃子温習届

一四条通リ……　長刀鉾町　一四条……　函谷鉾町
一四条通リ……　月鉾町　一新町通…（放下鉾事 小結棚町）
一新町……　岩戸山町　一……（船鉾事 袋屋町）
一室町通リ……　鶏鉾町
右七月一日ヨリ七月七日迄
一新町通（北観音山町事 六角町）　一新町通リ…（南観音山事 百足屋町）
右七月一日ヨリ七月十日至ル
前書之通リ例年之通リ八阪（ママ）私祭ニ付右各町ニ於テ二階囃子ト称シ
囃子温習仕候尤時間内午後七時ヨリ同十一時迄稽古致候
間此段御届申上候也
年六月廿八日　室町四条下ル鶏鉾町

私祭当番町総代

五条警察署長羽田信明殿

一六月廿八日左之通各御町江通告ス

七月一日　吉符入　一日　囃子稽古始め　十日　神輿洗
十日　鉾立　十一日　神童社参　十四日　山建
十五日　曳初　十五日　鬮取　十七日　山鉾巡行
十七日　御神幸　十八日　観音山建　廿一日　山建
廿二日　曳初　廿四日　山巡行　廿四日　御還幸
廿八日　神輿洗

右例年之通り執行之趣ニ付御通告候也

明治廿九年六月廿八日　当番町　鶏鉾町

各鉾町宛

七月四日左之通各山鉾町江通知ス

一来ル七日午後早々祇園御旅ニ於テ神事費御渡し申上候間御出頭有之度候様村田氏ヨリ通知有之候間此段御報告致候也

各鉾町宛

七月八日　山鉾通行願ヲ五条警察堀川警察両署江差出候事

諸車通行停止之願差出候処本年ヨリハ差支ナキ限ニハ諸車通行許ス事若シ差支之トキハ最寄り派出所江届出通行止ノ制札ヲ立ル様ト

ノ達ニヨリ同日午後八時当会議所ニ於テ各町江通知ス

一京都電灯会社江引（ママ）初并ニ当日電線切断ヲ依願候事

明治三十年七月　私祭鉾町
当番　函谷鉾町

一六月廿八日

囃子温習届

四条通烏丸東入　長刀鉾町
四条通室町東入　函谷鉾町
四条通新町東入　月鉾町
新町通四条北入　放下鉾事　小結棚町
室町通四条南入　鶏鉾町
新町通仏光寺南入　岩戸山町
新町通綾小路南入　船鉾事　袋屋町

右七月一日ヨリ同月七日ニ至ル

新町通六角南入　北観音山事　六角町
新町通蛸薬師南入　南観音山事　百足屋町

右七月一日ヨリ同月十日ニ至ル

前書之通例年八阪（ママ）私祭ニ付各町ニ於テ二階囃子ト称シ温習仕候尤時間ハ右日限中午后七時ヨリ同十一時迄稽古致候間此段御届申上候也

明治三十年六月廿八日

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町
私祭当番町総代
印

五条警察署長
丹羽　幹殿

諸車止御願

一別紙各町義七月九日ヨリ同月十八日迄ノ内ニ
於テ八阪(ママ)神社私祭執行ニ付山鉾市街
道路ノ中央ヘ建設ケ候ニ付テハ自然人民
群集雑沓可致候故諸車通行有之候テハ
危懼ノ廉不尠候ニ付客年ノ如ク別紙
日割ノ通諸車停止相成度尤人民通行
障碍等無之様注意可仕候ニ付此段奉
願上候也

明治三十年七月八日
神事私祭当番各町総代
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町
同市同区錦小路通新町東入錦天神山町
安田和助

五条警察署長
丹羽　幹殿

諸車通行停止請願日割

一七月九日ヨリ同月十八日迄

四条通烏丸東入　長刀鉾町
四条通室町東入　函谷鉾町
四条通新町東入　月鉾町
室町通四条南入　鶏鉾町
新町通四条北入　放下鉾事　小結棚町
新町通綾小路南入　船鉾事　袋屋町

一七月十七日ヨリ同月廿五日迄
新町通蛸薬師南入　南観音山事　百足屋町
新町通六角南入　北観音山事　六角町

一七月十三日ヨリ同月十八日迄
錦小路通蛸薬室町東入　占出山町
烏丸通四条北入　孟宗山事　筍町
錦小路通新町東入　錦天神山町
室町通錦小路北入　山伏山町
綾小路通新町西入　伯牙山町(ママ)　矢田町
東洞院通高辻南入　保昌山事　燈籠町
四条通新町西入　郭巨山町

諸車止御願

一別紙各町之義七月九日ヨリ七月十八日迄ノ内ニ
於テ八阪(ママ)神社私祭執行ニ付山鉾市街
通路ノ中央ヘ建設ケ候就テハ自然人民
群集雑沓可致候故諸車通行有之候テハ
危懼ノ廉不尠候ニ付客年ノ如ク夫々別紙

日割ノ通諸車停止相成度尤人民通行
障碍等無之様精々注意可仕候ニ付此段
奉願上候也
明治三十年七月八日
神事私祭当番各町総代
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町
同市同区錦小路通新町東入錦天神山町
安田和助
堀川警察署長
警部柚木角衡殿
諸車通行停止請願日割
一七月十三日ヨリ同十八日迄
油小路通仏光寺南入　太子山町
油小路通綾小路南入　油天神山町(ママ)　風早町
仏光寺通油小路東入　木賊刈(ママ)山町
綾小路通油小路東入　芦刈山町
八阪(ママ)神社私祭ニ付山鉾順番鬮御願
鬮不取　四条通烏丸東入　長刀鉾
同　四条通室町東入　函谷鉾
四条通新町東入　月鉾
室町通四条南入　鶏鉾
鬮不取　新町通四条北入　放下鉾
同　新町通綾小路南入　船鉾
同　錦小路
同　新町通仏光寺南入　岩戸山
綾小路通室町東入　占出山
同通新町東入　錦天神山
油小路通綾小路南入　油天神山
油小路通仏光寺南入　太子山
仏光寺通油小路東入　木賊刈(ママ)山
綾小路通油小路東入　芦刈山
同通新町西入　伯牙山
四条通新町西入　郭巨山
東洞院通高辻南入　保昌山
室町通蛸薬師南入　山伏山
烏丸通四条北入　孟宗山
本月八阪(ママ)神社私祭ニ付右之町ニ付山鉾差出し
来ル十七日例年之通道筋順行仕度候就テハ
来ル十五日出頭可仕候間順番鬮御下附相成度
此段奉願候也
明治三十年七月八日
鉾町総代　函谷鉾町
山町総代　錦天神山町　安田和助
京都府知事男爵山田信道殿
右鬮取願弐通但シ壱通ハ区役所見認印ヲ受ケ
京都府ヘ差出候壱通ハ区役所ヘ納メル事
七月六日左ノ通山鉾各町ヘ通知ノ事

一来ル七日午后三時祇園御旅所ニ於テ
神事補助費御渡し申上候間御出頭有之度候
候様(衍字)清々講社委員ヨリ通知有之候間各
町々江報知仕候事

口達控

一昨八日山鉾建ニ付警察署へ諸車止
願出候処昨年ノ通差支ナキ限りニハ
諸車通行許ス事若し危嶮ノ場合
ニハ最寄派出所へ届出通止メ建札
差出ス事トシテ車止願書ハ預り置キニ相成
指令ハ下附無之候間此段御心得ノ為メ報
知仕置候也

各鉾御町

一鉾順路本年ヨリ新町廻りニ相成中飯
休憩ニ付是迄ノ通りヨリ壱丁ツヽ進行留
鉾相成候様御承諾被成下度此段申上候也

二伸

一建鉾中清々講社幹事ノ御方々何時
鉾実見し御出向ケニ相成候趣ニ付其際
御町ヨリ成丈ケ叮嚀ニ鉾御説明相成度
此段申上置候也

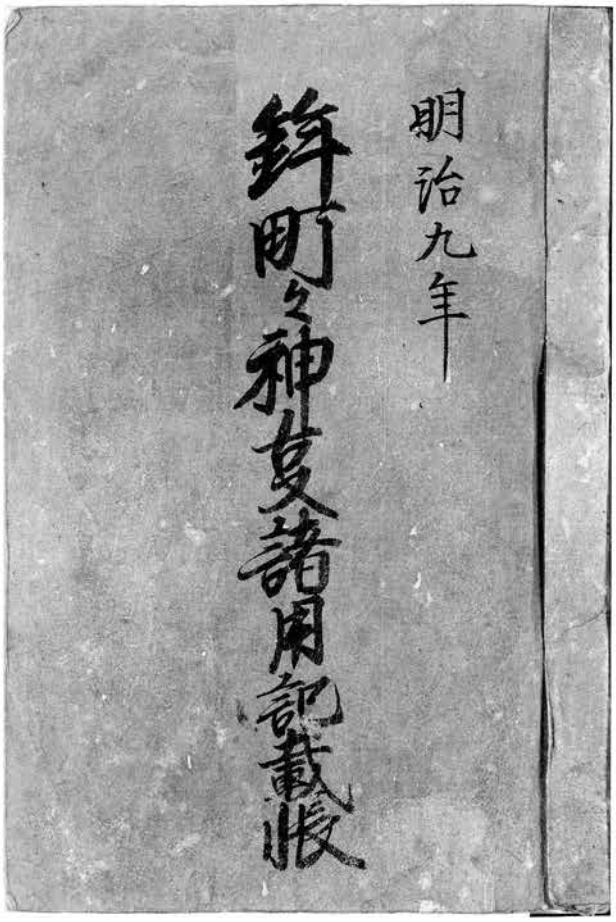
明治三十年七月九日　当番函谷鉾町

各鉾御町

〔裏表紙〕

「　長刀鉾町
函谷鉾町
月鉾町
放下鉾町
鶏鉾町
岩戸山町」

『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』（写真）



入武育氏根岸戸長中ヨリ山鉾係
役ヘ當日八坂神社ヨリ届ノ上遂
置ノ事
一東方ハ祇園会ニ付
一七日午後一時當町会所席ニ
鉾町ヘ出願ノ之席ハ東方ヨリ
直ニ願ノ出願ノ事ニ付出願ノ後
所手續申ニ及ノ事
一廿一日東方當町ニ帰寄引合ノ
ヲ扇金八圓也ヲ先ニ極リ其上
出願テコサエラ代トシテ金壱圓場 茜
赤絹壱反遣ノ事 鉾町ヘ帰ル
上右様ニ取定ノ事
但當町ニ市茜赤絹立反買求メ
東方ニ取渡ノ事
一廿六日西谷鉾町戸長立組頭遠藤
町戸長立組頭右四人 府政府ニ罷出

出鉾願書東西ヘ願書右武通
ヲ扇町図帳ニ取成右東西ヘ札二枚
三枚宛ヲ渡ス市當枝ニ持帰リ事
一廿八日拾壱枝市東西ヘ札山鉾
町ニ取渡ノ後出願ヲ置ヲ当
其所寄附ノ通シブリ山鉾町ヘ
所事ニ取遂ノ事
一七月二日午前五時巡査所中 之
出張所ニ東西ヘ之儀所願書ヲ出ヲ
一同二日所達中置ノ 明四日午前寺
山鉾町ヘ戸長組頭壱名宛拾壱
枝ニ所出願ノ之博物館掛ヨリ出事ヲ
所渡ノ取成ノ又事ニ五日寄ノ午前
七時罷出ノ所徳區長ヨリ達ノ有
之ヲ
一同四日所達中置ノ 明五日午前

午後二時之間ニ相濟候様ニ取計ひ可申之
旨申渡ス

一十日午後七時當番五町より五組頭
壱人罷出事止メニ札三枚
町政府ニ出張仕る事

一十五日午後七時當町會所席
詰町々組頭出張名元出張者之
内ヨリ出金之者ニ申渡事申
上ル處名詰町々ニ多ク入費ニ成り
ル旨昨度神輿當番ニ願金之歎
願書ヲ以出張申渡置る事

一十八日午前七時長ノ詰町五組頭
壱人名詰町五組頭壱人右之歎
願書神輿當番ニ京第拾區之區長
而中之右願金願書差出置る也

一今般神事用諸書記類所持
等入置ル箱新調ル之分 箱金壱元
代價八拾錢 帳壱冊代價壱拾五錢
合ル壱圓 五錢壱ツ 右六町ヘ
割付之町より 拾七錢六厘ツヽ取成ス
間中保管置る事

明治十年七月
當番長ノ詰町
一明治十年五月廿四日八坂神社正遷宮ニ付當日
ヨリ二日之間社内神楽幕ヲ御免許社務所
詰町々ニ組頭ニ付當町ヨリ出張者ヲ
頼置ル之ヲ以テ萬一ニ不法之振舞ヲ
神出幕ヲ別ニ差幕ヲ懸
六月一日

御幸間　放下鋒所
御借所　観音山所
物殿西　月鋒所

六月二日
御幸之間　岩戸山所
御借所　長刀鋒所
物殿西　鉄砲鋒所

同　東　鶴鋒所

右之通国元之儀定書神事祭礼之奉行之帳中候事

慶長十年六月

一当年分社参之日割右通改正之上被成遣之事

神輿渡御事

七月十日　神輿洗

七月十一日　社参
日　十二日　鋒建
日　十三日　車懸
日　十五日　夢初
日　十七日　當日
日
日　十八日　神輿洗

右之通改正之上被申候也

六月十九日當所長崎鋒所之分乱髪之出頭被仰付

社参出鋒所費増分頭参内之上所之費重

高明細書之儀被相尋之事

一日十日　鋒所作ゝ長刀鋒所鉄砲鋒所　山所義

十二ゝ　岩戸山所名三名　下京分検之留　茶製場　十四日

神事掛匠長宗左衛門　村田氏　集者分　右明細書

持参之上　上洛事上候紙上洛儀之ゝ候則頭参左之通

以協社私条助費ニ付出額

以協社私条助費ニ付出額ハ此之年ノ秋出張候組年々
石炭ニ重額増加ニ付其人仕候ニ難儀
因而諸之差支ニ付庶務ニ参議ヲ為ス者ニ名所ニ
初メ〻壱萬弐千之差出候間何年助費誤
ニ重負増額ニ付稼出改定ニ付額ニ付帳
簿差出申候法ニ考ヘ上ニ区数ニ応ジ名称
書類上候ハヽ上

明治十年六月

長崎鋒所 裏代 内田源助
熊谷鋒所 〃 一井改七
月鋒所 〃 小野清三郎
鶴鋒所 〃 芥川猪蔵
放鋒所 〃 山内新助
岩戸山所 〃 喜木四郎次
観音山所 〃 中村傳三郎

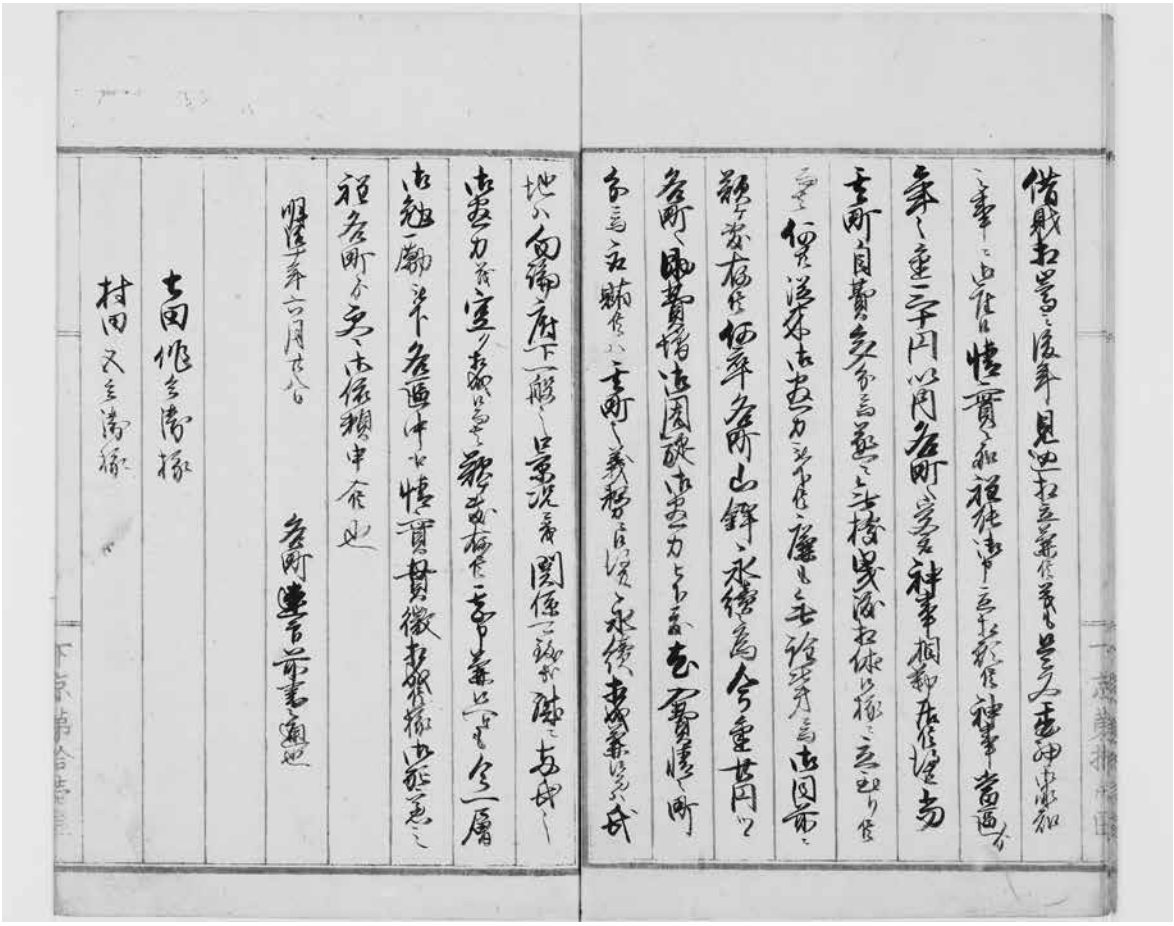
差書類名連印ニ付別紙ニ費帳ニ相添差出候組中日ハ
出張法ニ付仕候ニ付右願書持参候事
但費帳ハ別紙ニ定ス

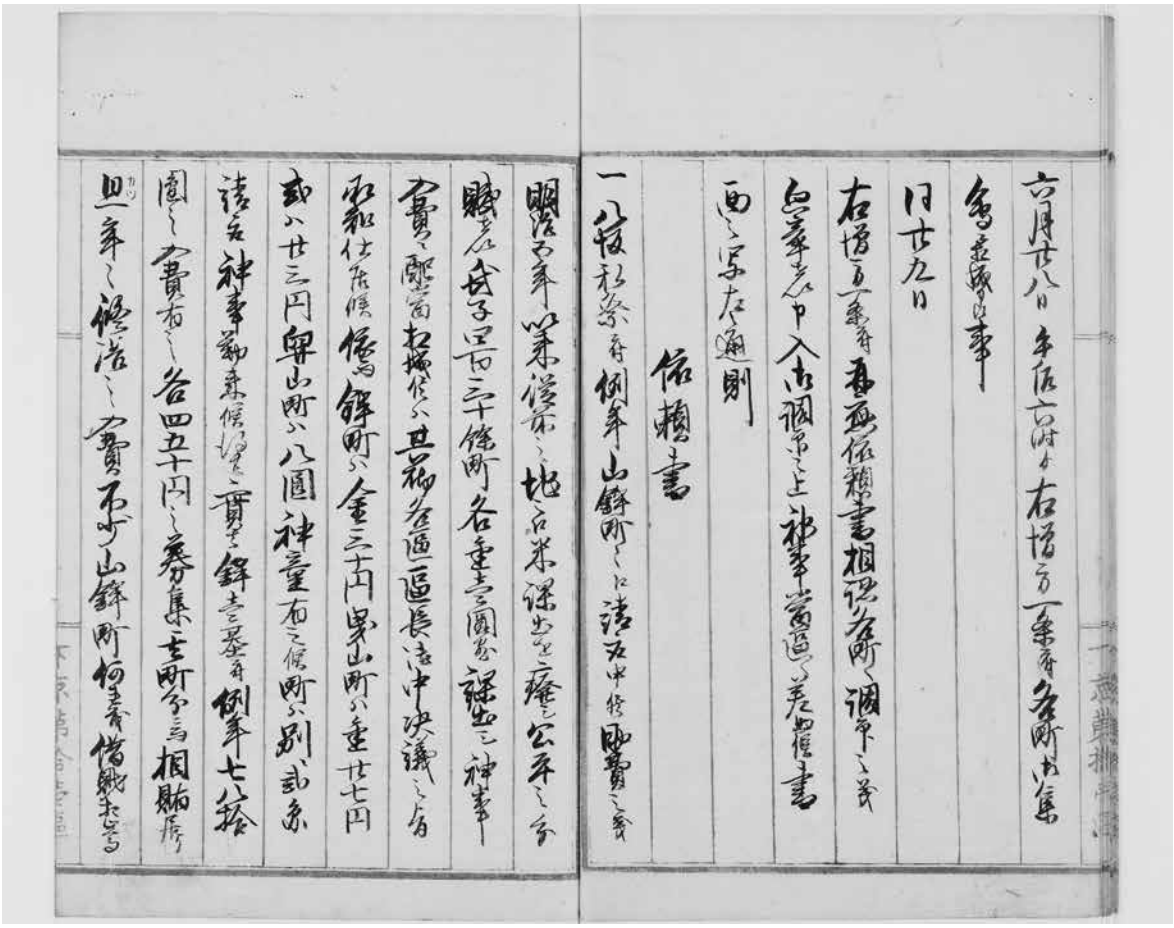
六月廿七日

神事掛リ 放鋒所 村田武 月鋒所 内田武 当所ニ所ニ
出願ニ参ル者ニ右掛ニ付達事第壱号ニ付
附七ヶ所ニ回達中ニ出集ニ成出張ニ出改
右通伝類書ニ付出張差出候事

則右通

一、此之年神事当区ニ差出候助費掛方伝類書ニ
級ニ付十月廿日山鋒所裏代三名名区法会議ニ参
書上ニ相相携推薦ニ法伝類中ニ候ニ名ニ名
部ニ出張ニ付当年ニ費鋒ニ候ニ付部候掛中ニ付
別紙ニ通出伝類書ニ出部候書外事情ニ万端
法ニ名ニ出伝類中ニ候ニ付助費ニ両共出金ニ
出来候事ニ名区中ニ応候出金ニ付山鋒所





永續ニ見込相成ニ付費場ニ付此年
神事前ニ出張ニ付右ニ又ニ付ニ付
此年 遠府廳ニ差出ス費用書ニ付公評ニ
付候ハ可成一決不相成 先送ニ付 費ニ可閑ニ付
傳承仕候 此ニ付 年ニ二ヶ所ニ三ヶ所 年 山鉾
保存ニ見込 右ニ付 車附山鉾七基ニ付
三基ニ順次ニ相休ニ當番ニ四基ニ全額 取調
相整ニ 然ニ付 遠府ニ 差出 見可

右之候者 是非ト決セス候 此儀ニ公論 仰ク
至ル 刀 程 傷ニ 右ニ 相 傷也

明治十年六月

名東県第一区通 西

神事當番 法中

遠啓

鉾町入費ニ付 市役ニ 通申ニ 控 神僧
及 兎 御勝ニ 費ニ 大半 當ニ 部ニ 相賦 ニ
是非三十円以上ニ 年ニ 費ニ 永續ニ 為費ニ 者
傷ニ 本偶ニ 町ニ 右ニ 當町ニ 本偶ニ 可
是ニ 大ニ 流 外ニ 閑ニ 事 何ニ 決議 雑
右之 傷 公評ニ 傷也

長吉鉾町

月鉾町

放下鉾町

神事當番 法中

右通 七日 差出ス 事

七月 日 例年通 助 重ニ 下京三区ニ 中ニ
ニ 年 車附山鉾 ヶ所 ニ

但 年 年 ニ 年

七月五日　當所ニ至リ博物館ヨリ古器査定ニ出張シ品目出張ニ付キ来ル十四日ト定ム

法定書ニ付キ鋒所ニ出張ニ付キ明細書名古屋ニ為ス

古法書ニ付キ

同日　松本當日山鋒巡廻ニ付キ順番ニ為

以報ニ願ヒ御府ニ長門鋒所ニ長岡井ニ為ス

山陰鋒所ニ出張ニ付キ當所ニ左ニ為ス

但願書別冊ニ付キ

七月六日　當所市ニ為ス古集会ニ付キ當番ニ於

往新地来ル十日神事法ニ付キ祓ノ物松信ニ依ル

ニ付キ高臣助費増ニ付キ依頼ニ付キ振合ニ為ス

當番ハ七月十二日鋒建法ニ付キ右来ル十日ニ

鋒建ニ付キ村田氏ト古田氏ト古法有ニ付キ名称議

上法来ル十日鋒建ニ付キ法ニ付キ

日　七日

前条通鋒建ニ付キ来ル十日ニ法ニ付キ根岸當所ヨリ

御府ニ右願根岸東止ニ付キ法ニ付キ出願事

法定他書

一祇神社松本ニ付キ七月七日ニ當番ニ十七日ニ為

申出候ハ法定ニ付キ鋒建ニ付キハ十二日ト

申出候ハ松本ニ来ル十日ニ鋒建仕為ニ付キ

法定他事申出ニ以上

鋒所建名

前条通鋒建ニ付キ願也

区長　富江光雲

区長　川端利平

京都府鋒樹正員殿

別紙止法建ニ付キ願鋒所ニ名ハ當所ニ古法ニ

申上ニ付キ古ニ願ヒ出ニ付キ

七月九日　右東止法願ニ當所ニ長ハ鋒所ニ長

法友名古出願ニ付キ

七月十七日 祇園当日

四条通柳馬場東入 吉村[illegible]

寺町通四条下ル 祇園教会所

右記ヘ宿方 浄閑院在之候事

前条之通有之候 依而書幅記載之上

御当番岩戸山町江帳簿箱相廻シ申候也

明治十年八月

当番 長刀鉾町

明治十一年七月 祇園祭鉾町

当番 岩戸山町

六月十六日午后六時於当番町ニ鉾町々

総代方相集リ 雑費[illegible]談[illegible]

十八日夜ヨリ始ル[illegible] 休日七月一日九日

夜迄 但シ岩戸山町ニ限リ七月一日夜ヨリ九日夜迄

右之通[illegible]出来候ニ付当町ヨリ [illegible]

[illegible]

六月[illegible]午后八坂神社[illegible]

[illegible]

二月[illegible]祇園祭事務[illegible]

有之[illegible]

八坂神社祇園祭日誌記

七月一日 吉野人之注進之通

七日 鎮神僧祓祭之事 午刻

所々小鎮町々祓 神酒頒之事

十日 神輿洗 午後十時

十一日 鎮建 午前一時

十二日 鎮事懸 午前十時

十四日 小建 午前二時

十五日 御宮殿ニ於テ園祭小鎮順行之事

十七日 鎮戎祠小尋祠 午前十時

十八日 当祭小鎮順行 午前七時

十九日 御神輿ヲ旅所ニ渡御 午後四時

十九日 鎮建

十九日 小建

十九日 鎮戎祠小尋祠

十九日 御宮殿園祭小鎮順行之

廿日 南祭小鎮順行 午前七時

東京帝国大学史料編纂所

廿日 御神輿還幸

廿一日 神輿洗 午後二時

右御年例祭之儀 祭事相掛リ 十六

七月 日 午前六時ヨリ午後六時ニ於テ諸所小鎮町々集ル 祭礼之儀小鎮町々ニ於テ執行之

右祭事無事之儀 歩行之儀 不苦 不苦

議事 要三 評決ヲ致 退席之事

附 鎮祭之儀

廿日 小鎮 午前七時

廿日 当祭小鎮順行 午前七時

廿日 御神輿ヲ旅所ニ渡御之事 午後四時

廿日 鎮建

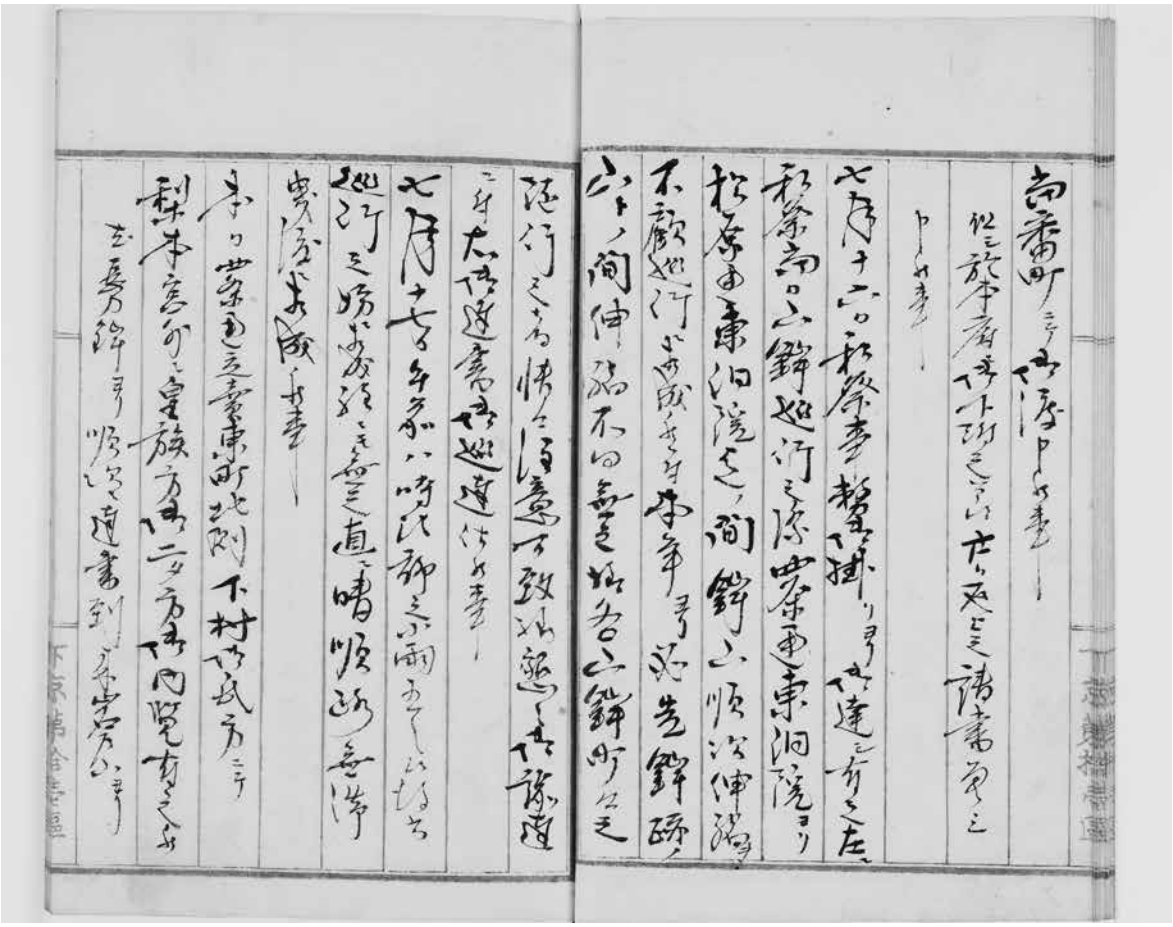
廿日 小建

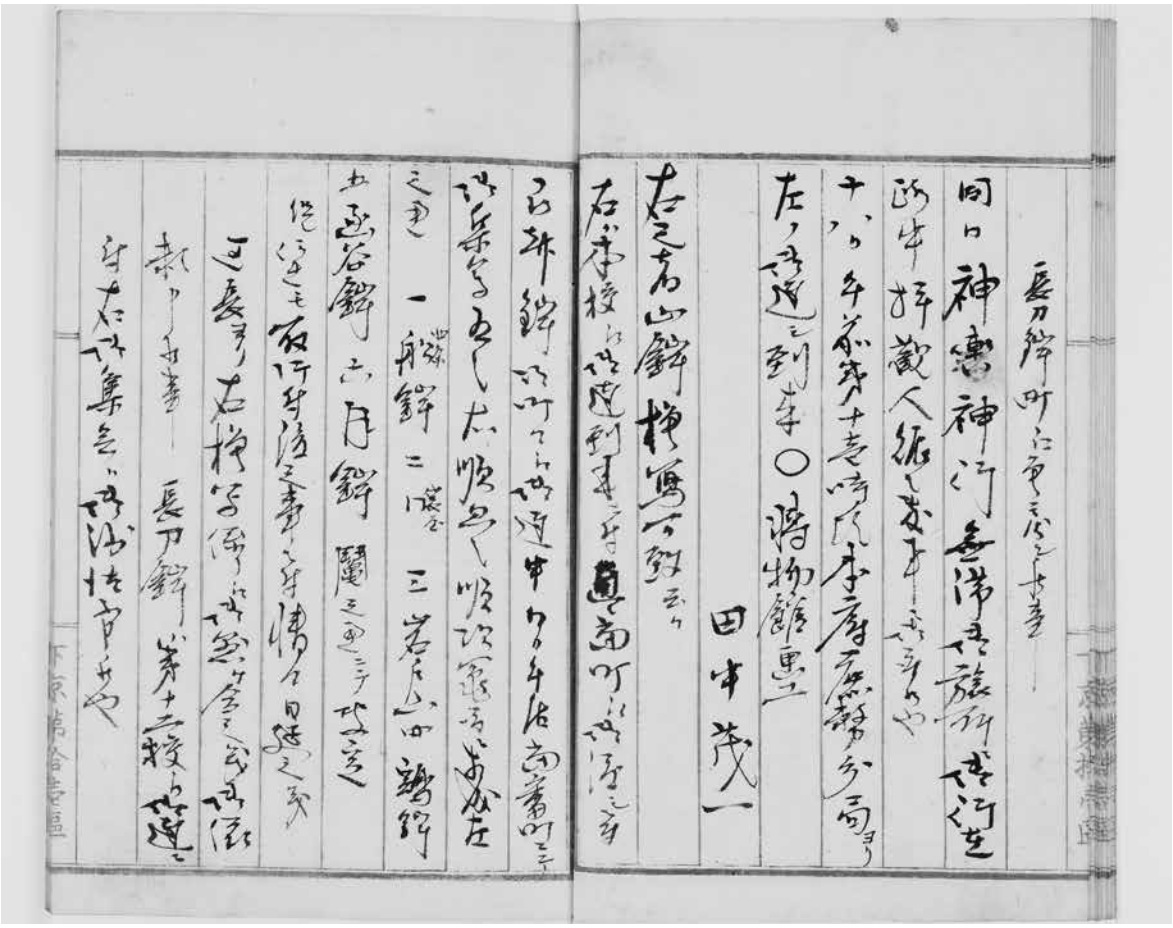
廿日 鎮戎祠小尋祠

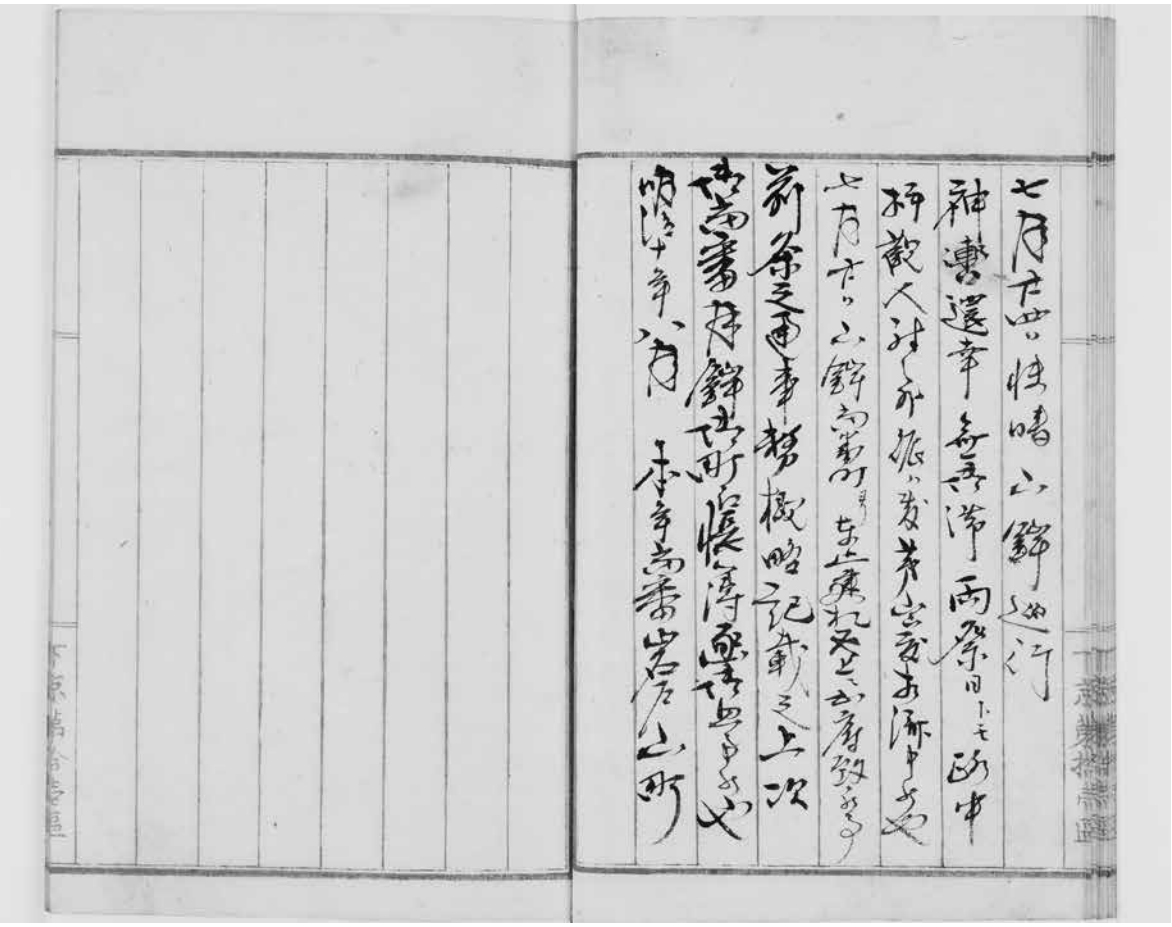
廿日 御宮殿園祭小鎮順行之

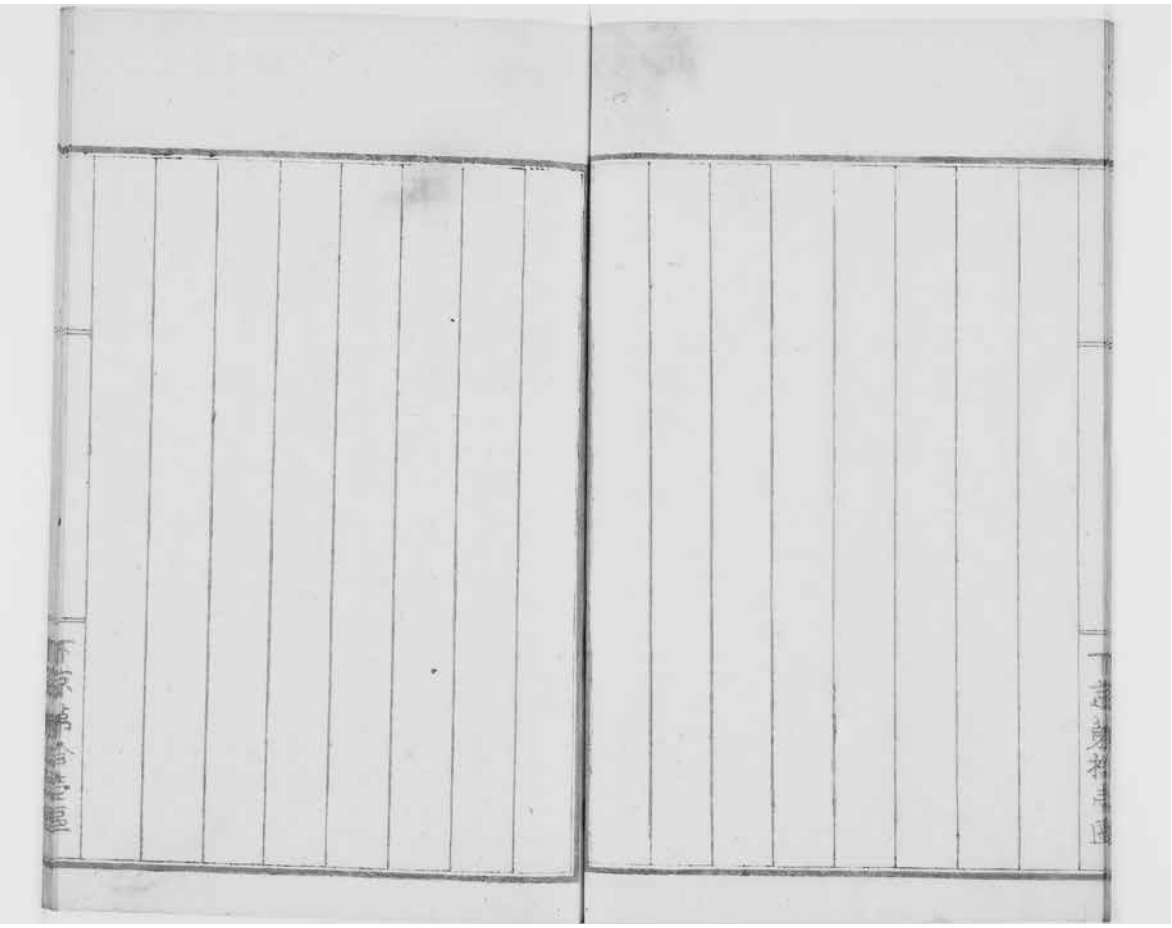
廿日 南祭小鎮順行 午前七時

東京帝国大学史料編纂所

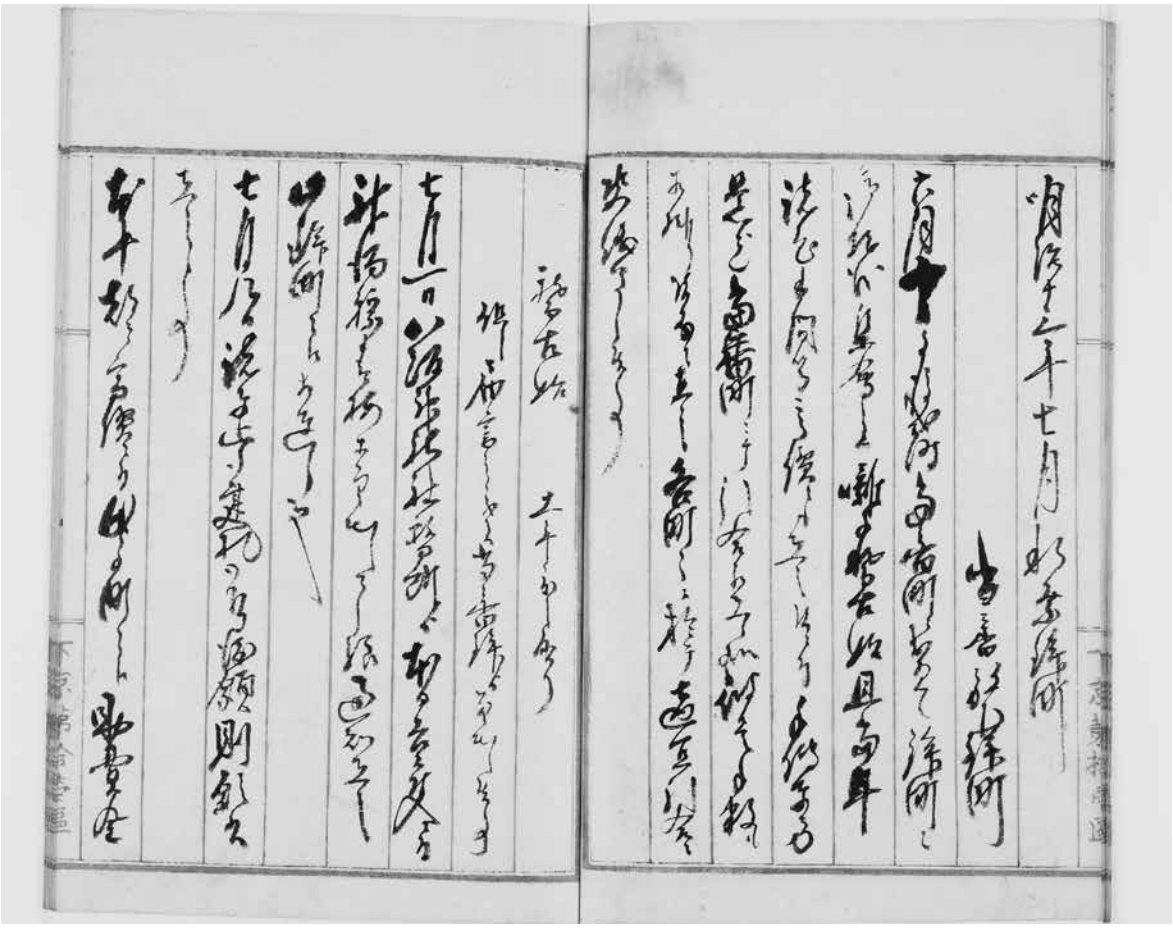


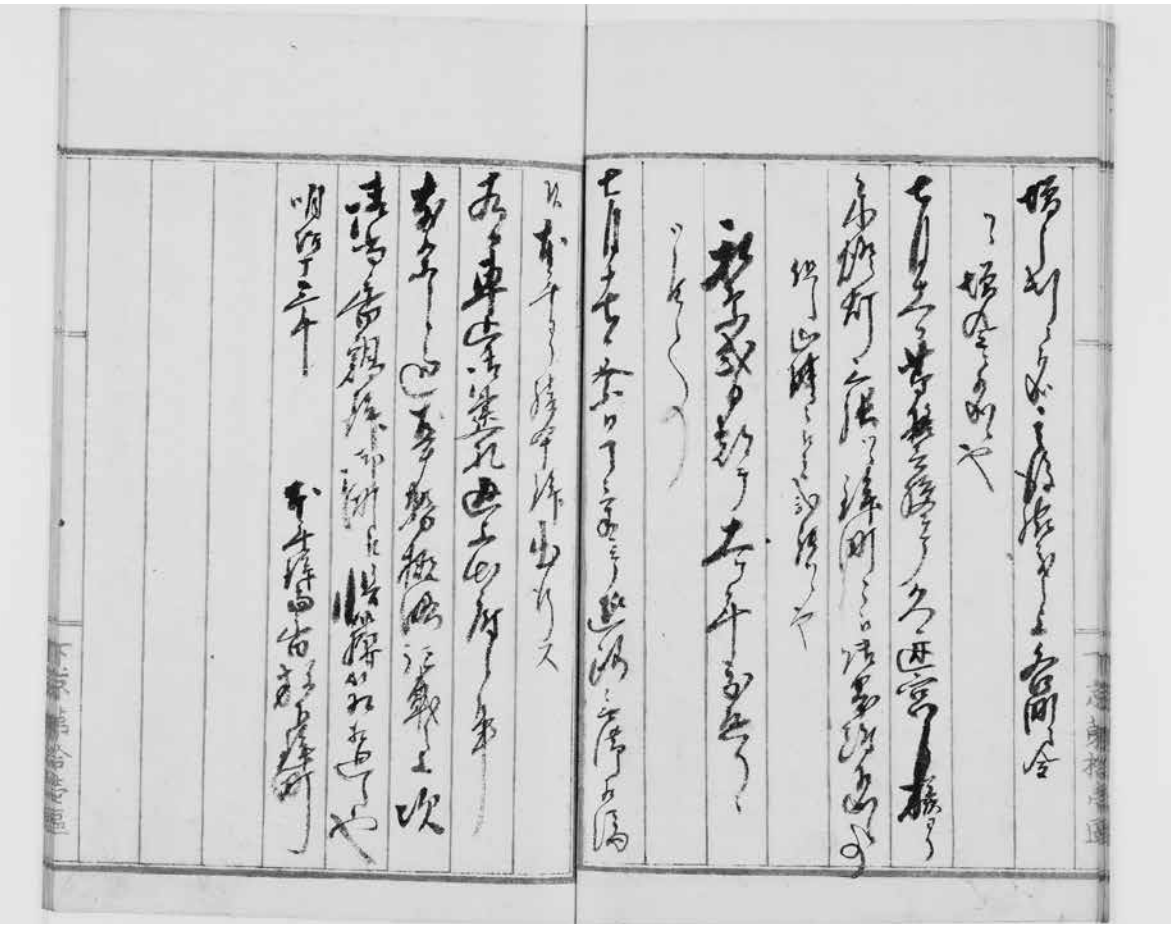


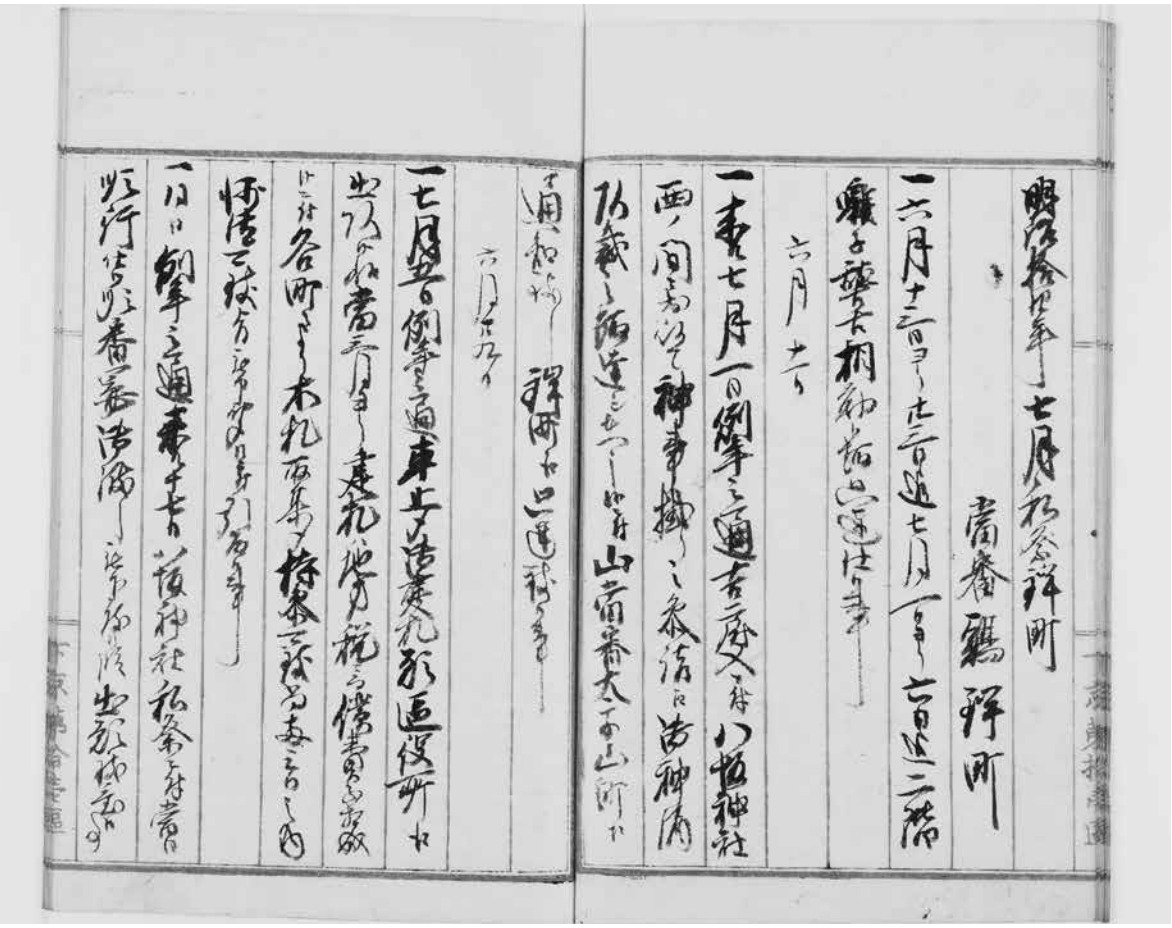


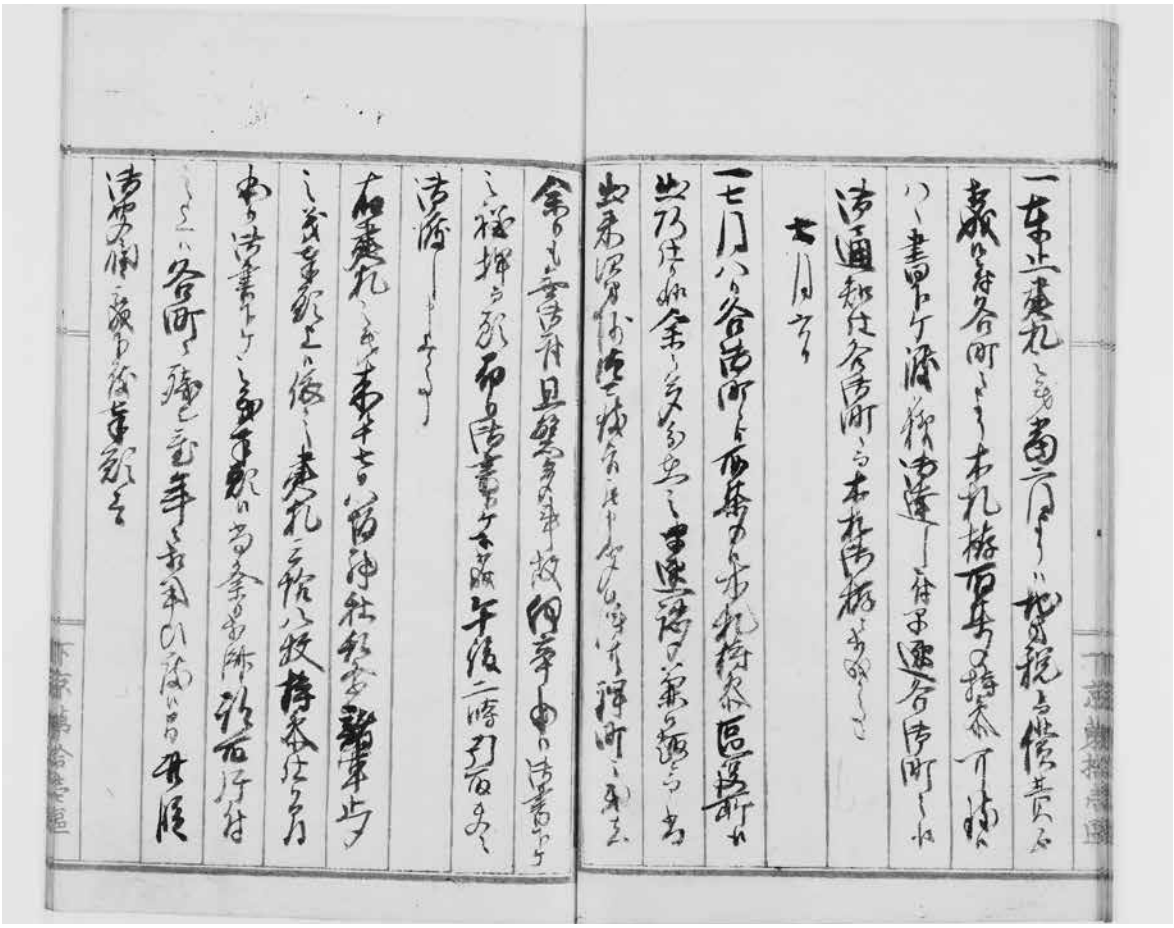


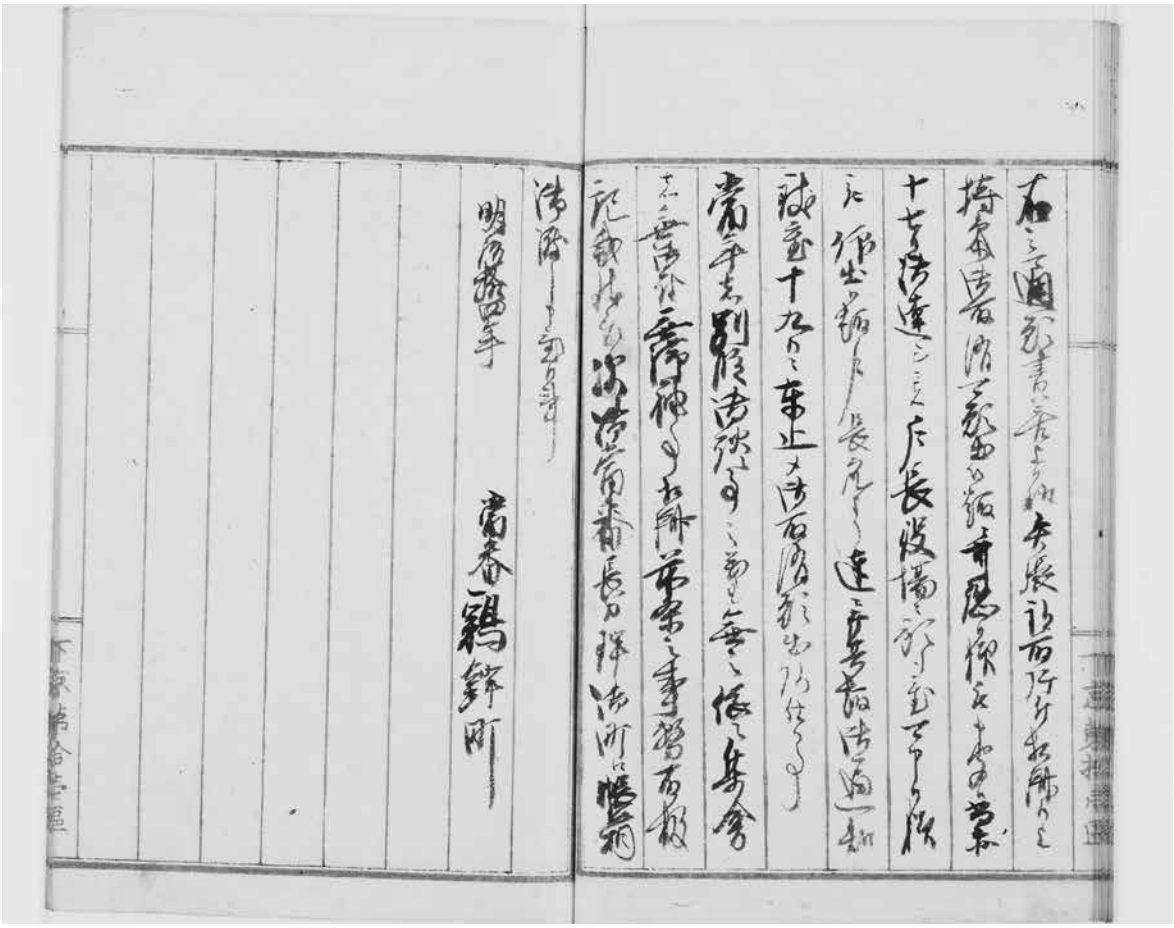
以下
白紙　9丁
撮影省略











明治十五年七月祇園祭鉾

当番西五條

一六月七日長刀鉾町ニ於テ集会ス事

右之件ニ協議ス事

一六月十五日ヨリ同月二十日ニ至リ囃子稽古之事

一六月廿日 吉符入

一七月 日 社参

一七月 日 同月 日ヨリ同月 日ニ至リ祇園社参詣之事

一山鉾巡行ニ付テハ一文字笠仕用ハ不苦事

右協議ス事

一七月五日 例年ニ通車止ノ儀ニ付願

東京警視庁出願ス事

一同 例年ニ通巡行十七日ノ八坂神社祭礼ノ

前日ノ順行ハ従来ノ通ニ付願

出願ス事

一七月八日 警察分署ノ諸事ニ付願

ニ付テハ西洋人ノ見物ス事

一同 祇園囃子ハ従来ノ通ニ付願

出願ス事

一同 山鉾巡行ニ付テハ従来ノ通ニ付願

出願ス事

一七月十日 木船役場ヨリ私参者金

渡シ方ニ付各町ヨリ申達仕置ス

各町受取ニ付願ス事

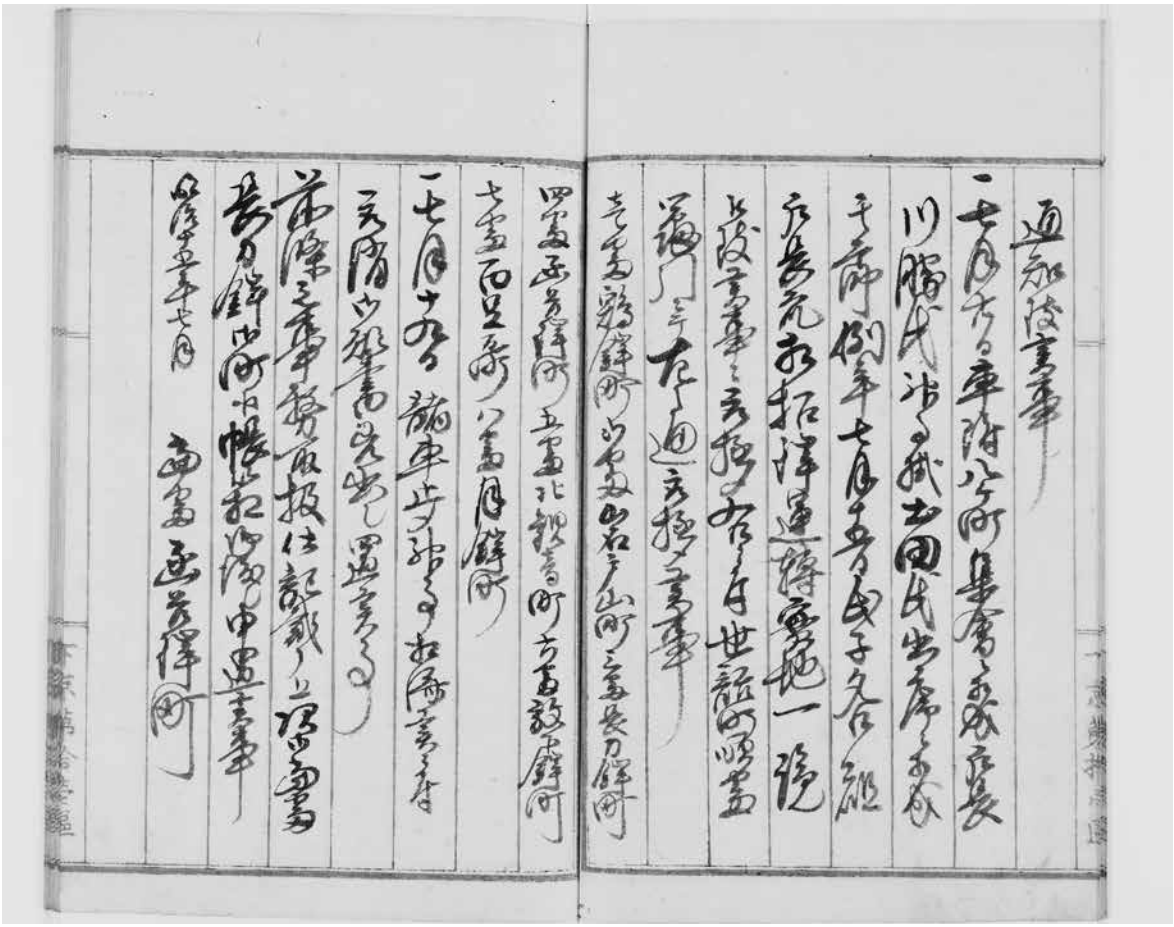
一七月十日 鉾飾改記時物解ス

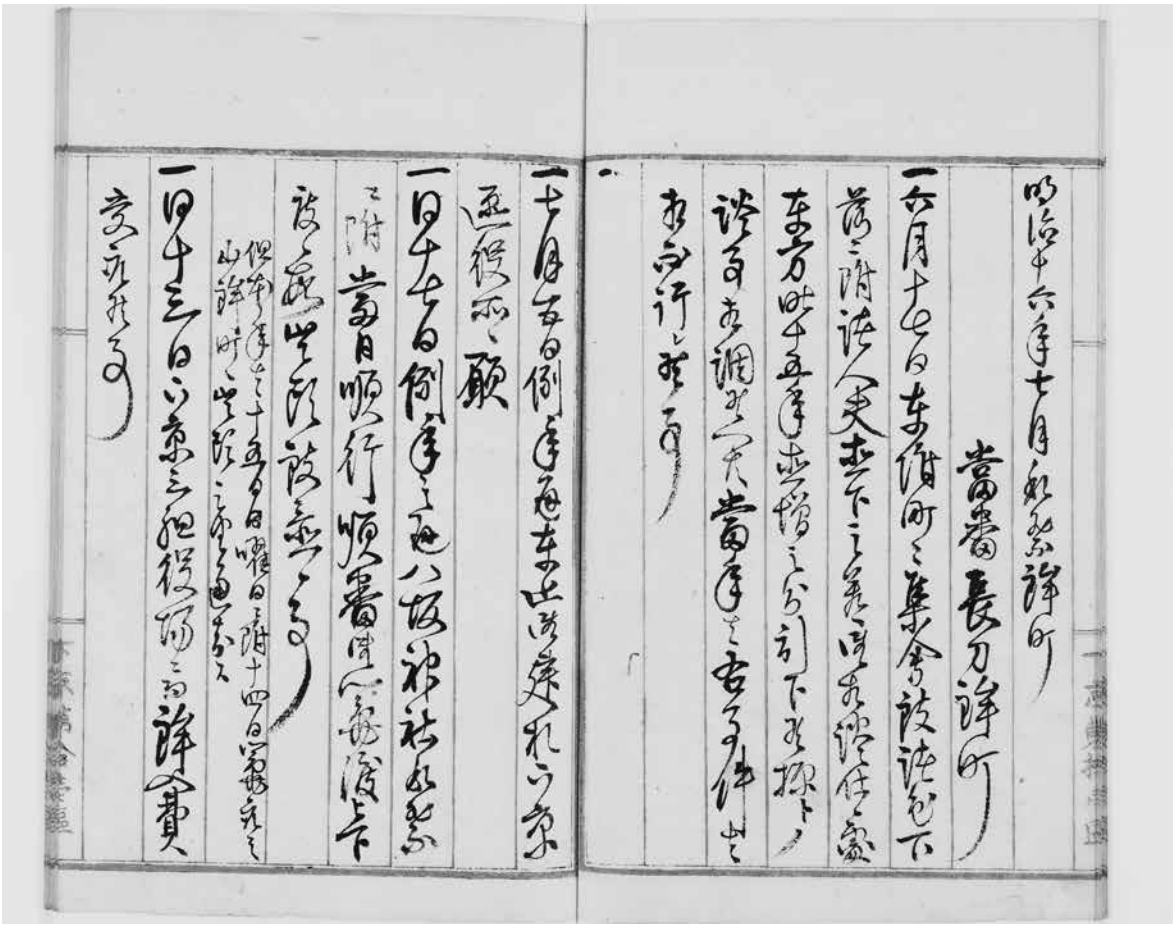
ニ付テハ各町ヨリ集ル木船役場ヨリ

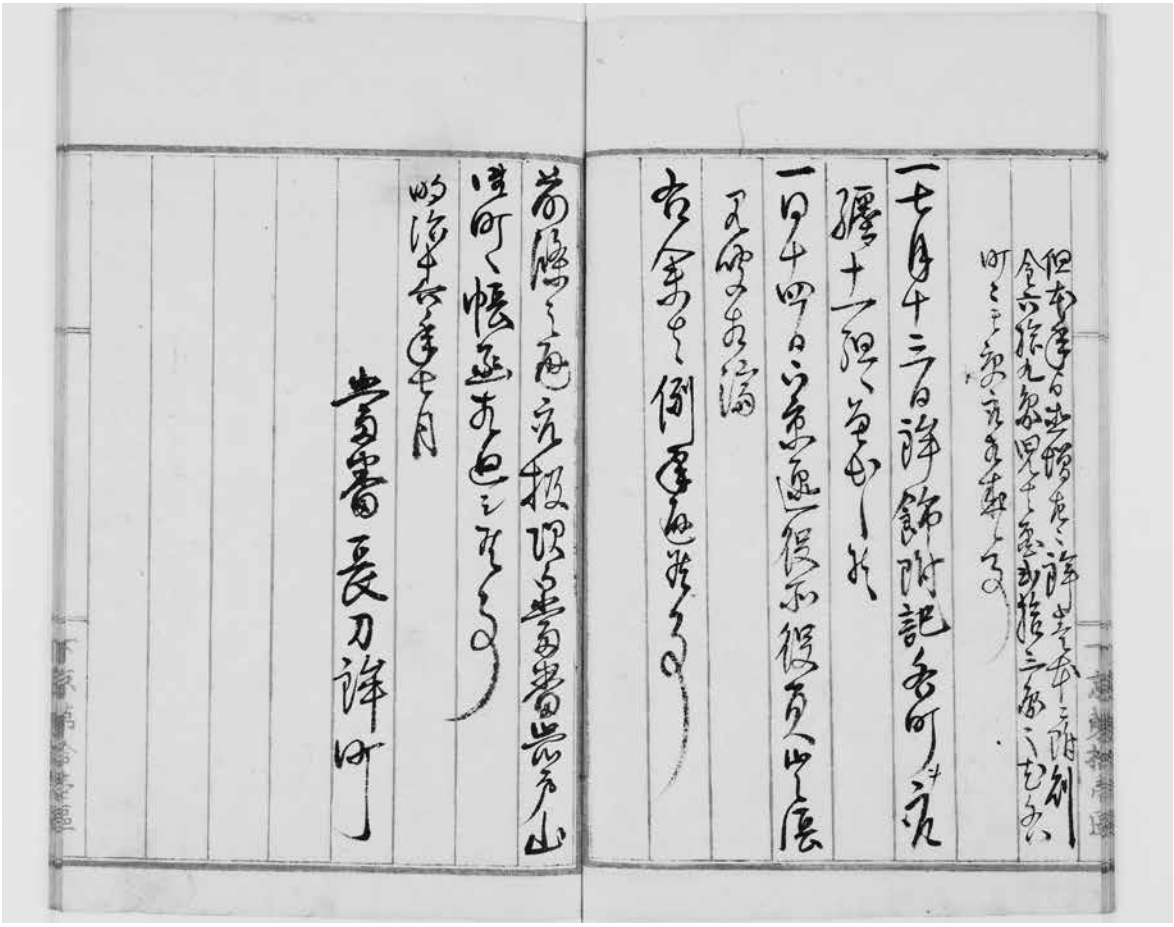
受取ニ付願ス事

一同 十四日ヨリ東京時物解掛ル

山鉾巡行後ハ飾ス事ニ付各町ヨリ







明治十七年七月弘前詰町

商業　岩戸山町

一七月廿日例年ノ通車止建札
書下ヲ以テ山南茂町連署ニテ
伺ヒ出ル事ニ付紙上ヲ以テ願ヒ
一同ノ山詰組建例年ノ通幕両ヶ所
京都庁ヨリ直ニ願書ヲ以テ願ヒ
其為替ヲ以テ四日ノ出張ヲ願ヒ

一條

二條

三條

一ヶ所ノ詰飾具調書取纏ヲ七月十三日
十一組戸長役場ヲ以テ願ヒ
一七月十三日十一組役場ニテ詰入費
ヲ以テ支ヒ請取ヲ願ヒ
一十三日迄役割ヨリ交代ヲ願ヒ
出張願ヒ
一商ヒ張ヒ　二ヶ所年八十二日ヨリ両縁
到着ノ二番山ヨリ出張詰ヲ寺町松原

四條

五條

六條

七條

東四条松原ノ西辺ニ大祓ニ付
建仁祭祭礼ノ儀ニ付テハ
山鉾巡行ノ事ハ延引ト相定ル
京都府ニ於テ警察署ト種々
[illegible]

一十八日ニ紅葉授ケノ日限ニ付山鉾
町ヨリ願出ニ付ハ
ト曰ヒ張荷ヲ為ス故ニ各丁抽籤

シニ付テ数ヲヨルヲ球ニ番号ヲ
ヒキリ番ト為シ番札ニ組合ノ者数ト
[illegible]

一[illegible]嘆願ニ付
[illegible]

右ハ本署ヨリ
右取扱方ニ付
明治十七年七月

岩戸山町

今般八坂神社祭日日換ニ付
昨年七年ニ事故有之候ニ付
今年ニ[illegible]改定候事

但シ祭日ニ日割方ニ通

七月一日　嘶シ初メ
仝　十日　[illegible]入
仝　十日　神輿洗
仝　十四日　鉾建

明治十七年三月
七月十日ニ[illegible]
[illegible]

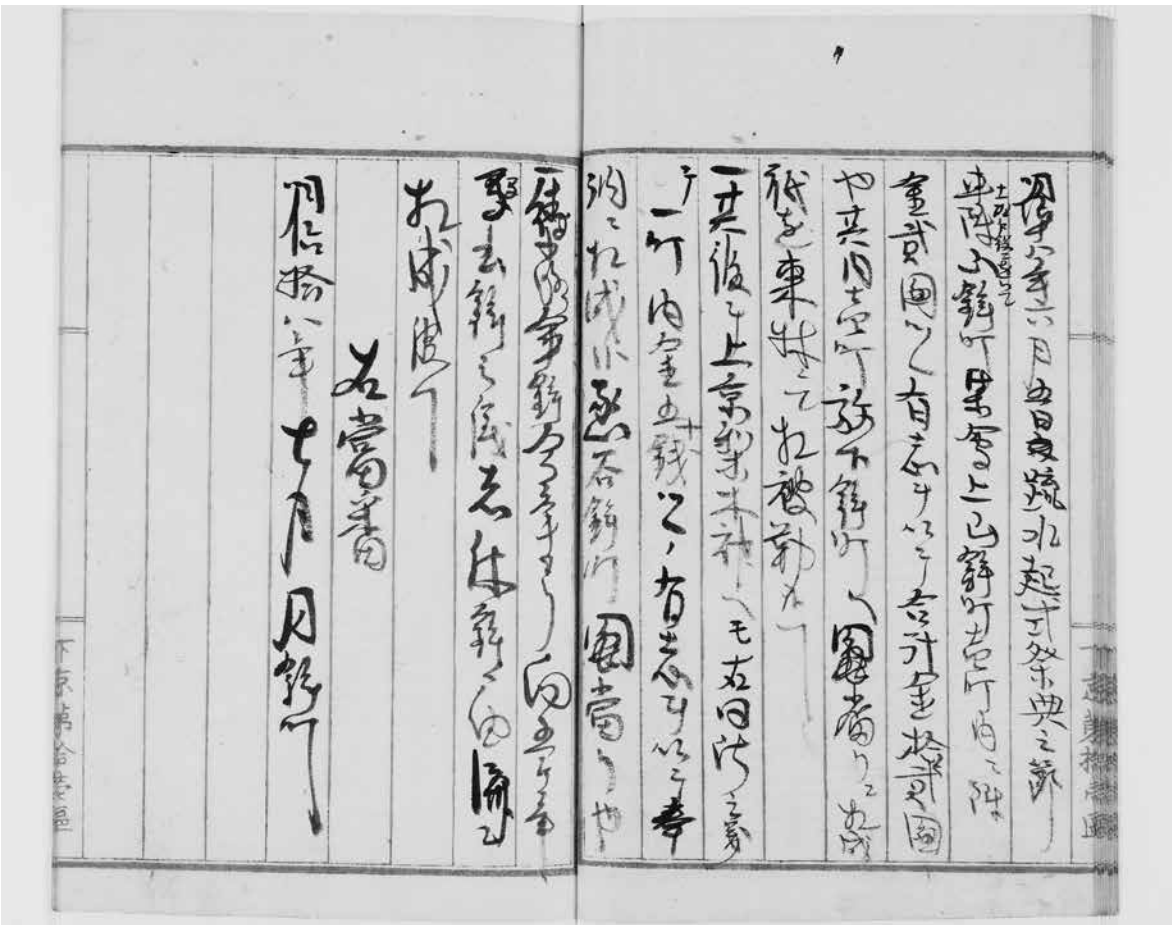
仝　仝　宵宮
仝　十五日　神幸
仝　仝　児子社祭
仝　　鉾車掛
仝　十八日　電取
仝　仝　曳初メ
仝　仝　山建
仝　廿日　宵宮

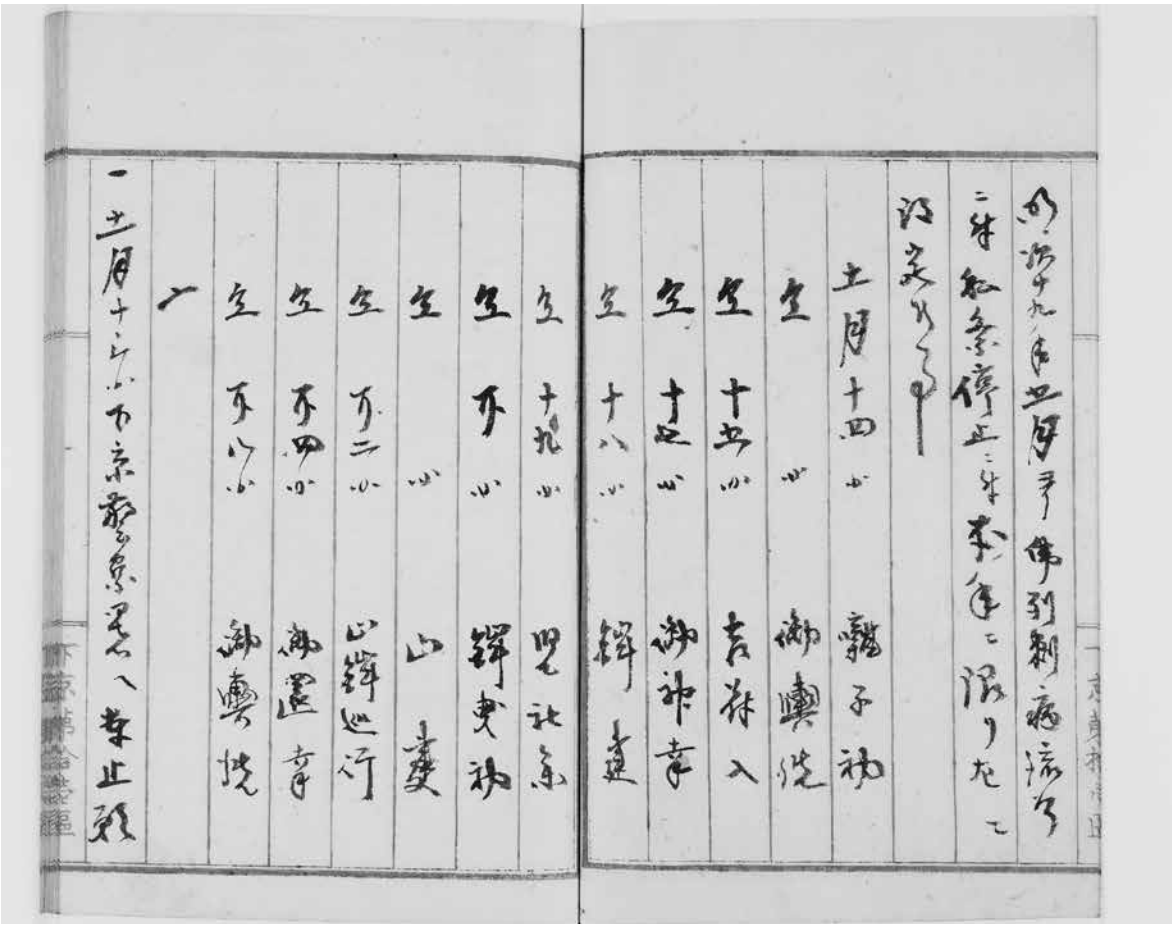
七月廿一日　鉾順行
仝　廿二日　鉾建
仝　廿三日　車掛
仝　廿五日　戔初メ
仝　廿五日　山建
仝　廿七日　霄宮
仝　廿八日　山鉾順行
仝　廿八日　還行
仝　三十日　神輿洗
六月廿二日集會之儀ニ付四書相達シ申ス
六月廿六日午前八時集會相成候ス
長刀鉾町　函谷鉾町　放下鉾町　鶏鉾町
若左山町　山町　當番　孟宗山町
右各町々實會ニ付ニ右之通り協議之上取極メ相成候ス
車荷代價金拾五円定ル

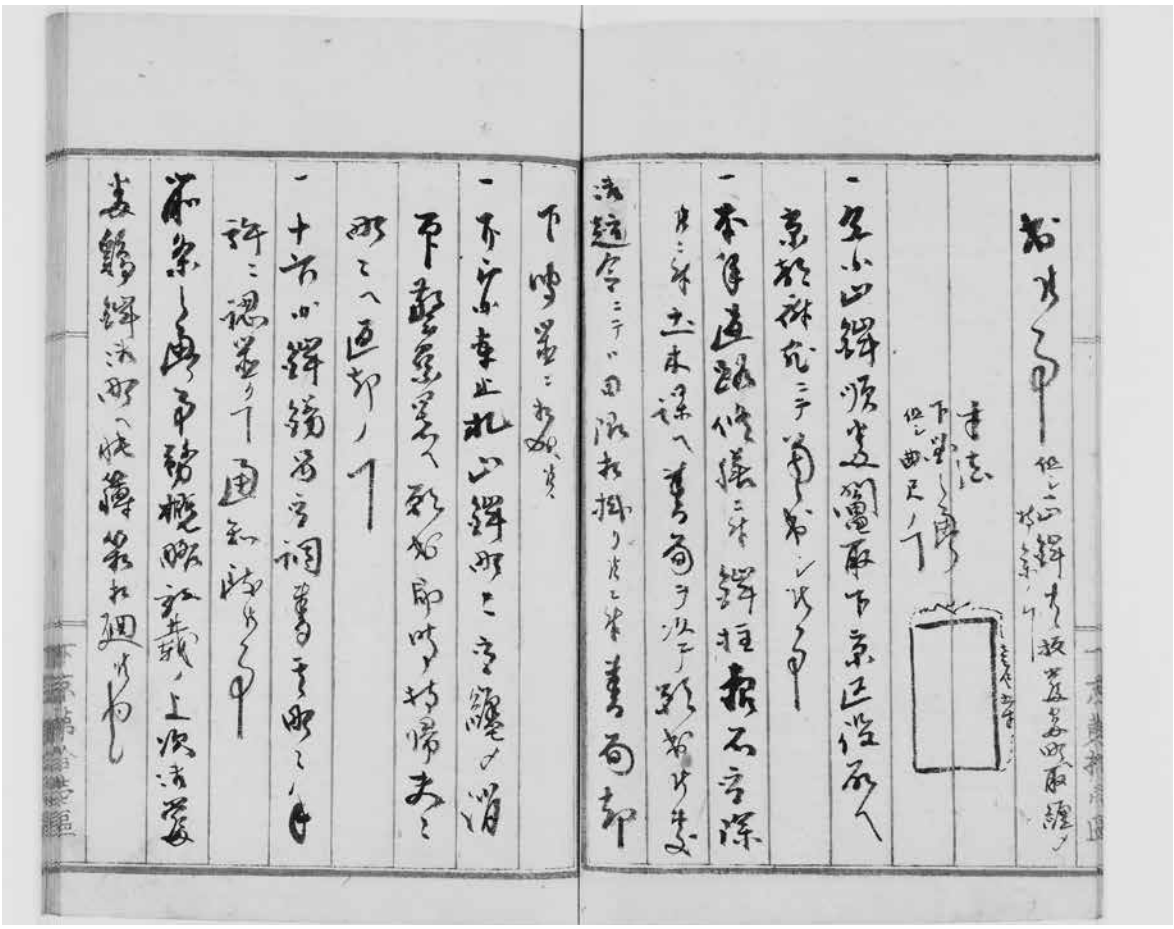
千傳　壱人ニ付　金廿四銭宛
鉾縄引　壱人ニ付　金拾五銭宛
神輿人足　壱人ニ付　金拾六銭宛
次行當日車方拾メ千傳縄引人足
金弐銭五厘
一金壱拾五銭　火之字製　壱人ニ付弐銭
鉾建之日限り車掛候ス
一七月三日巡行　車之儀ハ別紙

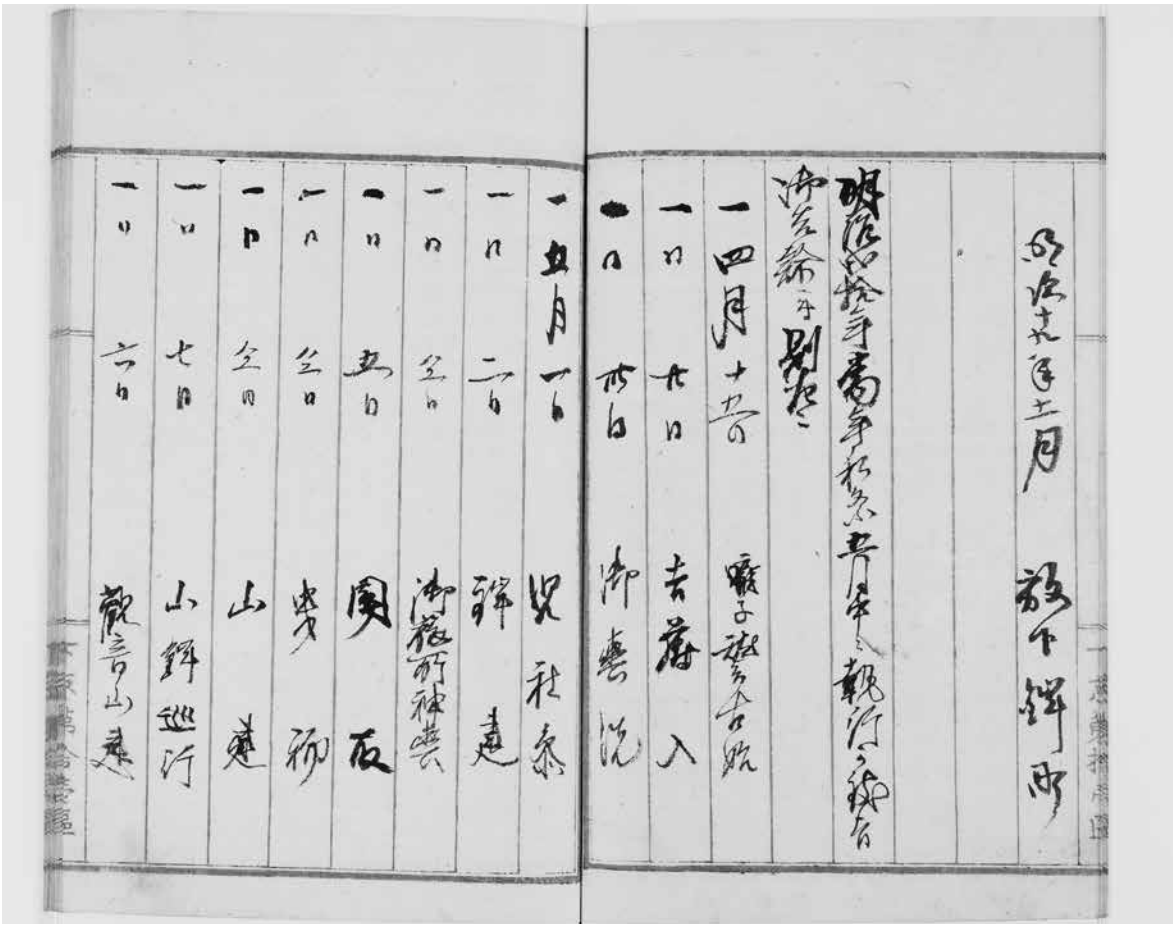
北三条御神幸之ニ當番ニ付
當番ニ付

一鉾ニ付　品書面弐通　長橋　若衆ハ
ス
一鬼面六ツ　千蔵　京都　張子之通り
有之ス
一三階鉾子ヒ月一日ヨリ仝月廿三日迄相勤
申ス
一廿三日廿四日　鉾建ニ付　休日ニ付









一ト　八ヶ　　豊前
一ヵ　仝ノ　　山　建
一ロ　十ロ　　山巡行
一ヶ　仝ト　　還　行
一ロ　十ヶ　　神事法
合三回　執行ス
一本止ノ義ハ五月八日ヨリ八ノ中ヶ所ヲ
五ト共ニ奉幣ニ出張ス
前ヶ行ノ南方ノ所ヲ保護ト称シ
法行ノ中ヶ所ヲ
明治廿年五月

高橋

碧海郡

明治廿拾年十月十六日
松堀祭ヶ所ノ時神事ノ為ニ奉納ヲ願ヒ
區役所ヲ神事係村田啓吾ヲ
就テハ出張番員ニ命シ左ノ順番ヲ以テ
仮ニ奉納ヲ為ス出張ヲ許ス
楊ノ順番
先ヶ拾奉納ヲ請フ費ノ義ハ各所毎ニ
金弐圓宛出張ス

一四月二十年十月十六日出張所

明治二十年十月

後之順番ハ追而ヲ以テ通知ヲ
一　日　鎌ノ
二　長刀鎌ノ
三　玉造鎌ノ
四　北観音ノ
五　敦ト鎌ノ
六　宮ヶ丘ノ

七 鶴餅所

八 南 觀音山所

明治元年七月新餅所

高番五合餅所

二月十日より割出事傳之函館ヨリ

吉ニ

二月九日 嚊子琴吉始

七月一日 吉 茂入

〃 十日 餅 蓮

〃 〃 神輿洗

〃 十日 四社祭

〃 十四日 山 蓮

〃 十五日 餅 曳初

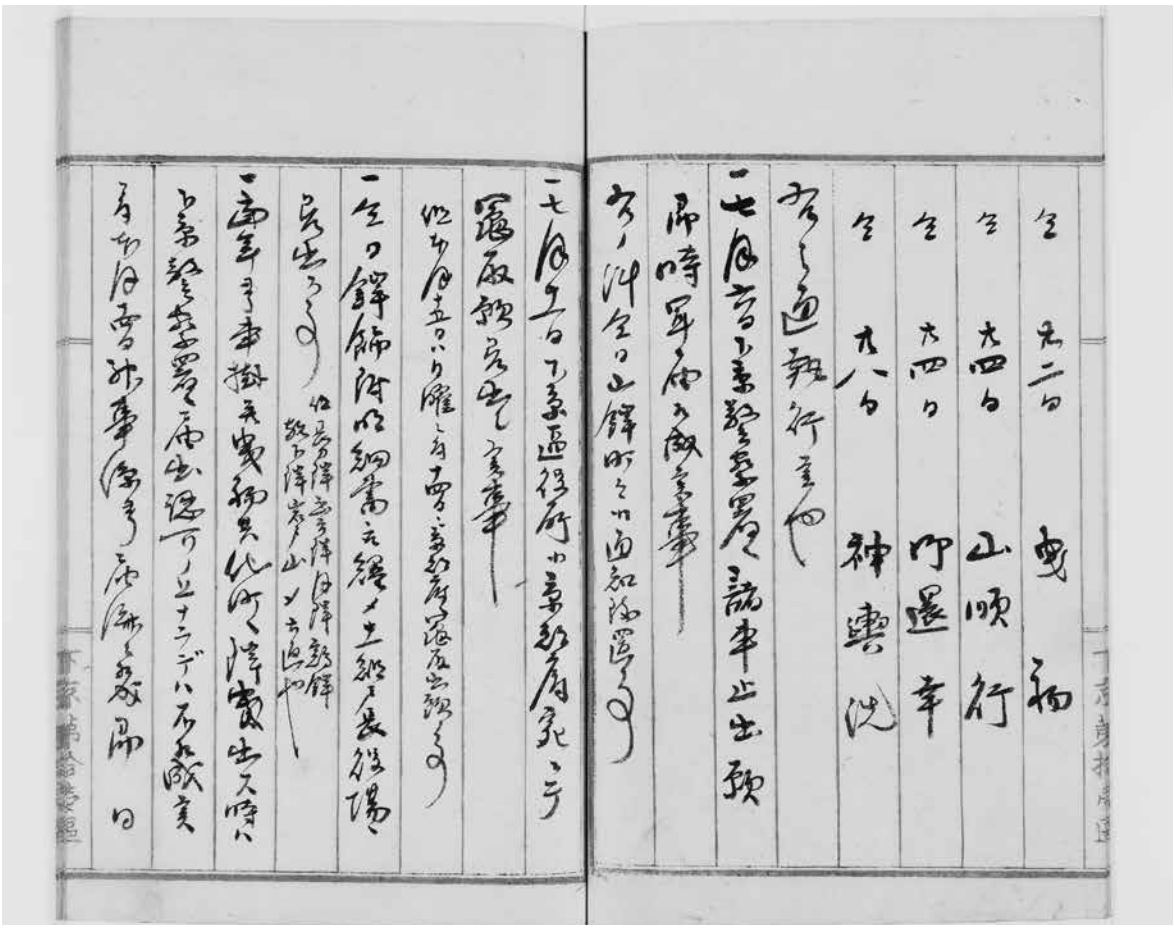
〃 〃 屋

〃 十七日 山餅順行

〃 〃 御神幸

〃 十八日 西觀音山蓮

〃 九日 山 蓮



同　元二月　曳船
同　六四月　山頂行
同　六四月　印還幸
同　九八月　神輿渡
御遷座行事
一七月廿日ニ新造御輿出来
帰時軍船ヲ飾事
ヲノ沖全ノ山鉾所ヲハ西船印置ク
一七月廿五日ニ高辻殿ヲ高辻殿ニテ
罷飾ル出ル事
但シ月廿五日ハ雇ヒ申ス事ニ成ル
一全ノ鉾飾所ハ綱書元鉾ヲ土船ニ長後場
ヲ出ス
但シ長後ハ元鉾ヲ長後ハ
一南手ヲ事掛ル実和見代ハ清賀出ス時ハ
ヲ新造ヲ出ス
ヲ新造ヲ出ス
ヲ新造ヲ出ス

明治五壬申年七月和歌鋒所

書留　長刀鋒所

一六月十日神々の日割神々係り通知有之

左ニ

六月五日　囃子警固始

七月一日　吉祥入

仝　十日　鋒建

仝　日　神輿洗

仝　十二日　児社祭

仝　十四日　山建

仝　十五日　鋒出初

仝　日　宮原

仝　十七日　山鋒順行

仝　日　即神幸

仝　十八日　西觀音山建

仝　十一日　山建

仝　十二日　出

仝　十四日　山順行

仝　十五日　御還幸

仝　十八日　神輿洗

左之通執行致ス

一七月六日ヲ京都各警署ヘ諸車止出願

即時軍届ヲ成ス事

左之件今日山鋒所ヘ通知改置ス

一七月十日ヲ京通役所ヘ京都府宛ヲ

宮原願差出シ来事

一今日鋒飾清以細書五種ノ十位ニ長

殺傷ノ差出ス　但長刀鋒所西宮清所月鋒諸鋒

一当年ヲ車掛ヲ出物ヲ他所ヘ鋒出ス時ハ

必京都各警署ヘ届出ル可ニナラデハ不成ス

ニ付七月十四日神事係リ宮原ヘ初成即日

山鋒所ヘ通知仕ル

但以后八車掛畢物次年々御[illegible]

一車止札之儀ハ此之南番岩戸山所へ
取ル申ス南番箱ニ入ル

明治廿二年七月　　藩番　長力鍋所

明治廿三年七月祇祭詳

藩番　岩戸山

六月廿日　　觀音警固

七月一日　　吉符入

仝　十日　　御輦　庭

仝　日　　神輿洗

仝十一日　　巡社祭

仝十四日　　山　庭

仝　日　　御輦洗

仝　廿五日　　御輦引初

仝　廿七日　　鬼取

仝十七日　　山車順行

仝　日　　御神幸

仝十八日　　西觀音山庭

仝　廿一日　　山　庭

仝　廿二日　　鬼初

仝　廿四日　　山順行

仝　日　　御輦洗

仝　廿八日　　御輿神

[illegible]

一七月廿[illegible]警固[illegible]

[illegible]

一車止札之儀ハ[illegible]

[illegible]

明治廿四年七月祇祭　藩番　岩戸山所

明治廿四年八月船鉾町より山當番筐ヲ受取
同廿五年六月十九日返納
[illegible]
[illegible]

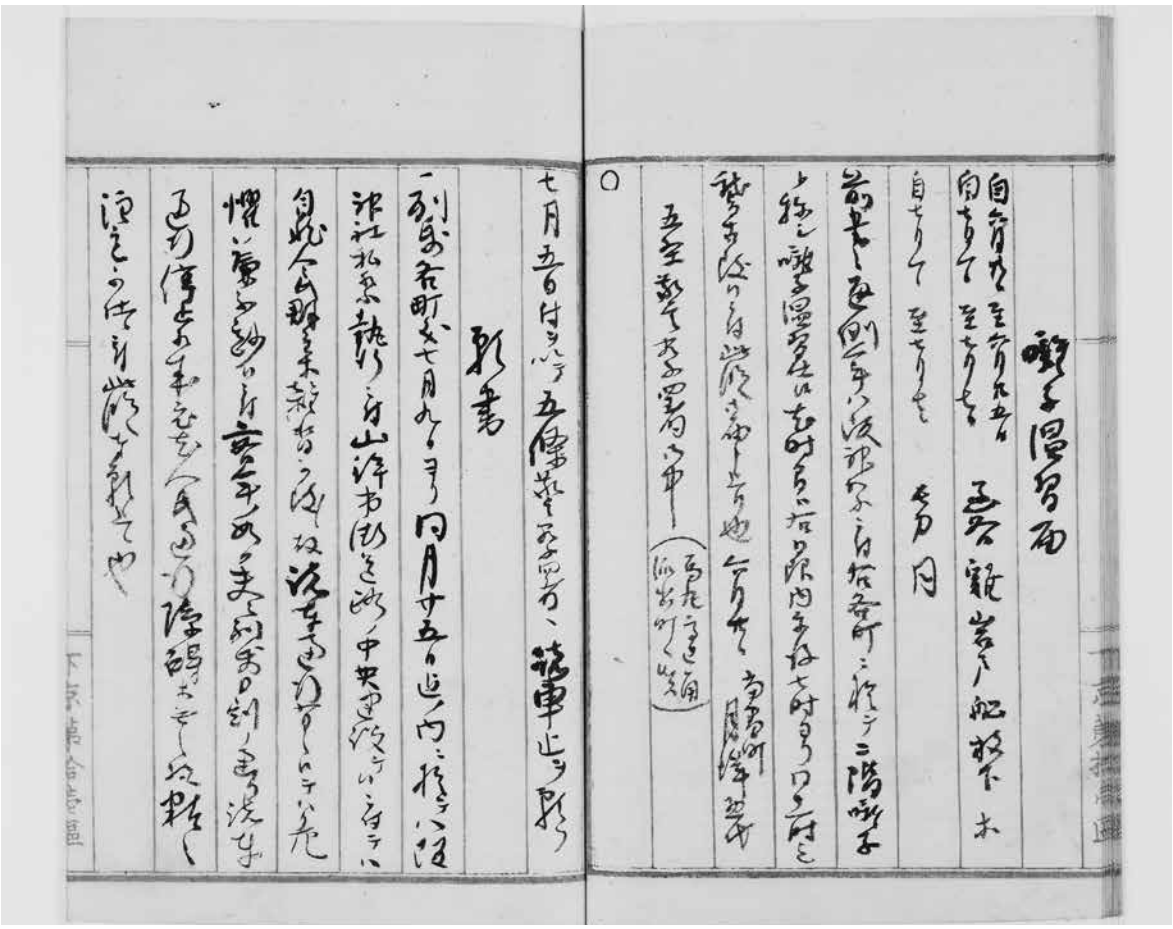
祇園日割

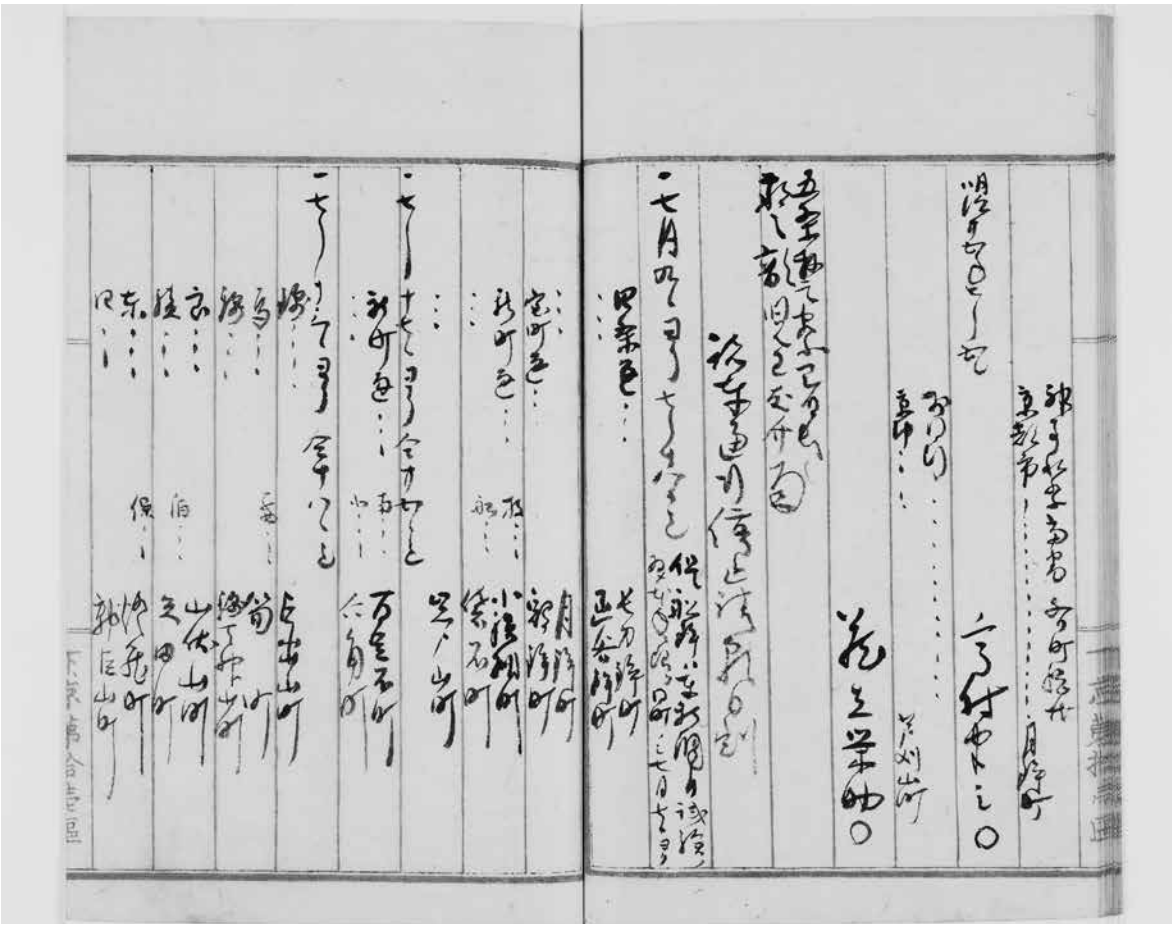
六月二十日　鉾囃子稽古始メ
七月一日　去符ヘ
〃　十日　祇園洗
〃　〃　鉾建
〃　十一日　祇園結束

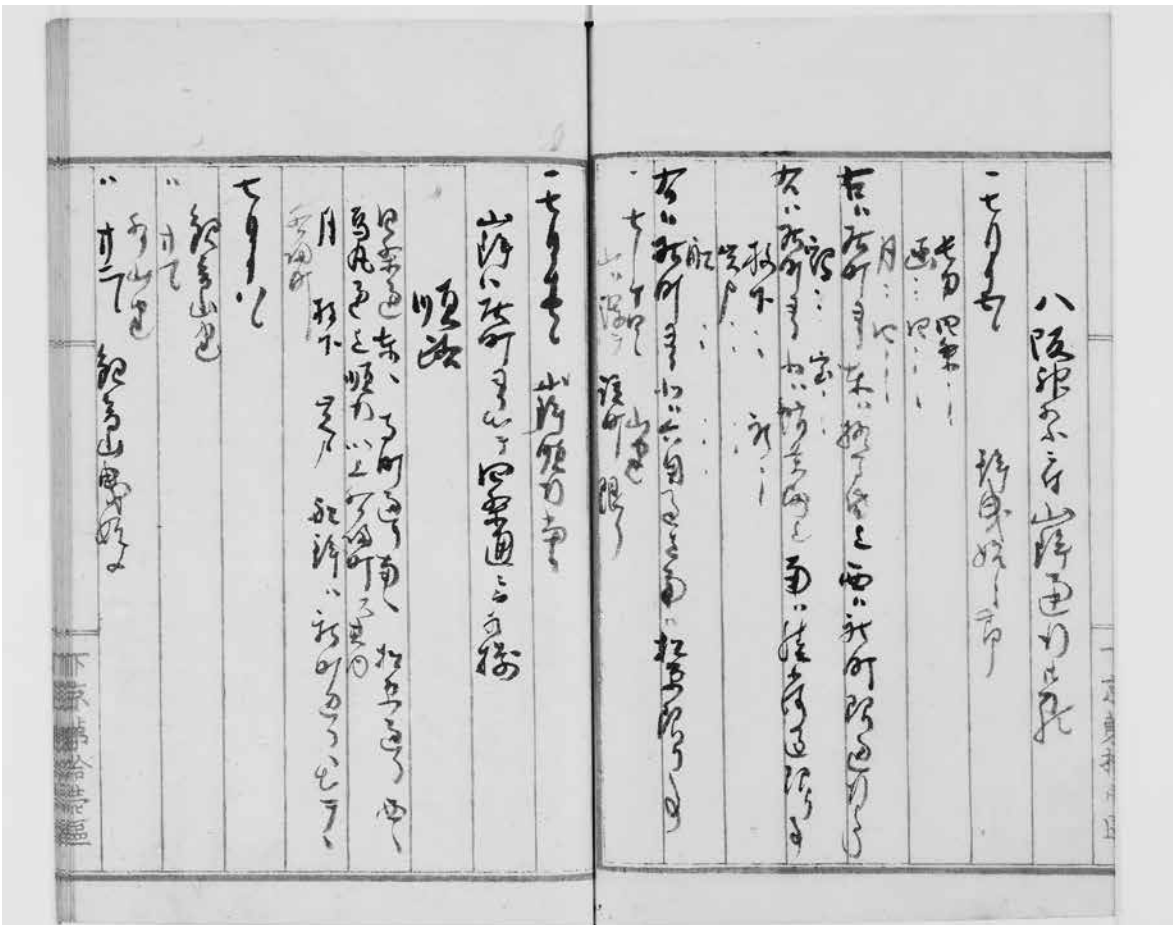
下京第壱区

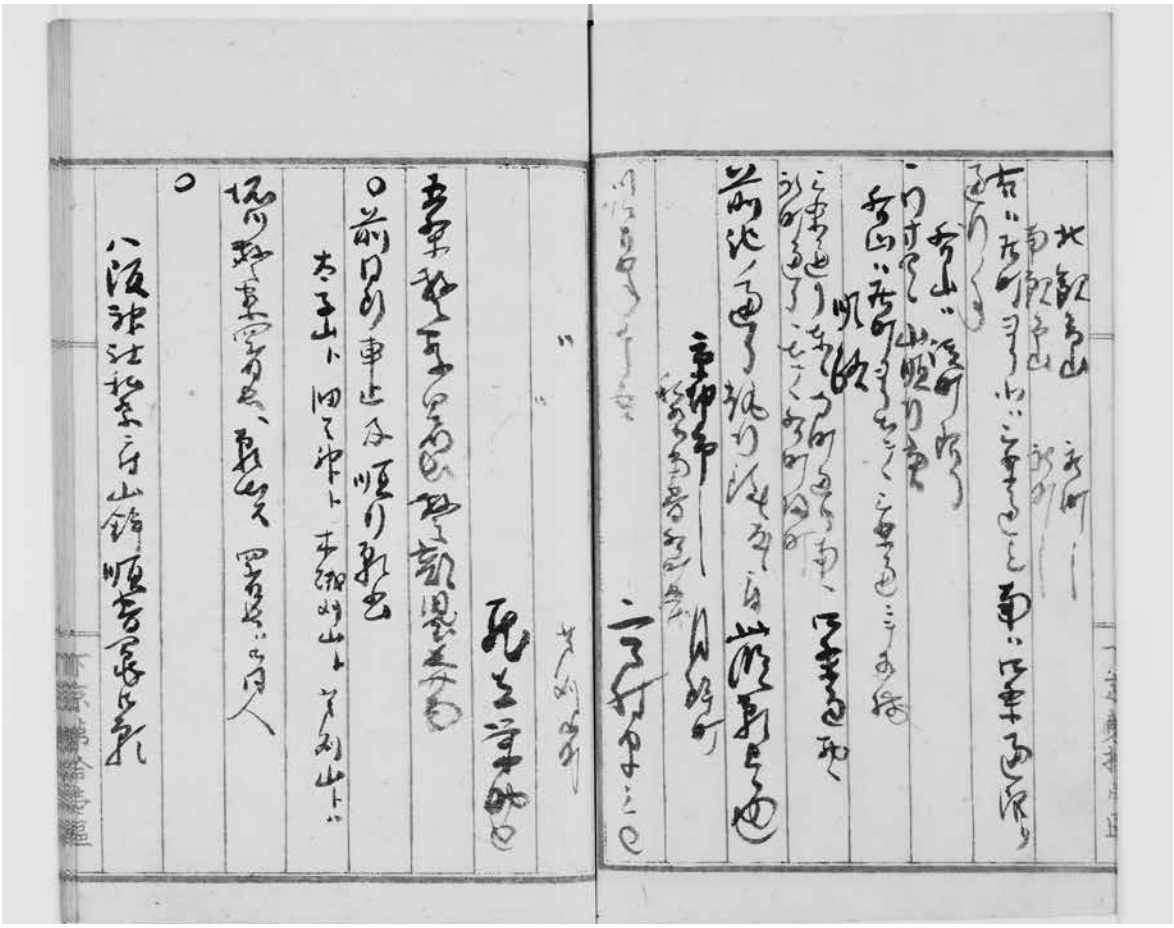
七月十四日　山建
〃　十五日　曳初
〃　〃　宵宮ノ行
〃　十七日　山鉾巡行
〃　〃　御神幸
四十四ノ郎
〃　十八日　綾傘山建
〃　十一日　山建
〃　十九日　曳始メ
〃　廿四日　山巡行
〃　〃　御還幸
〃　廿八日　祇園洗
古記
古ノ通本年区役所ヨリ御出願ニ付[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

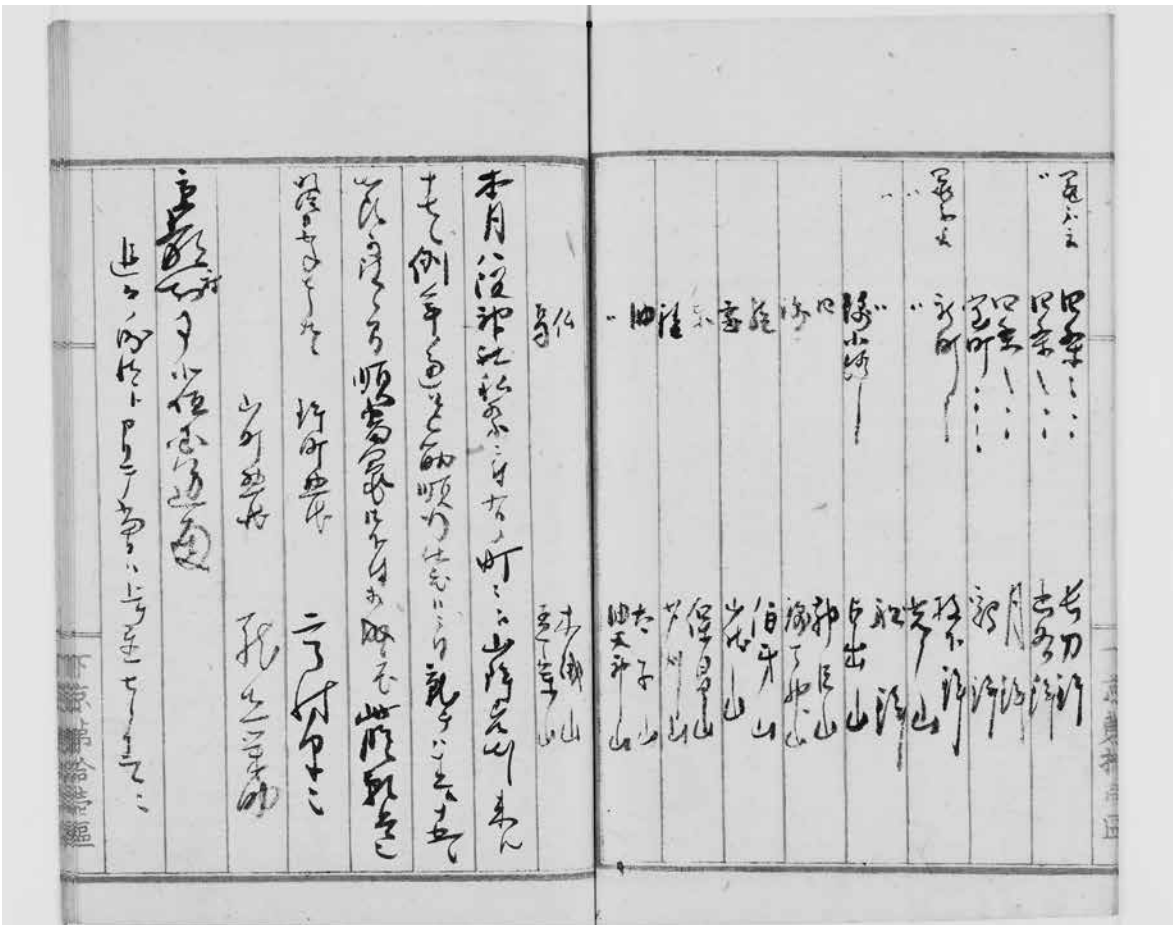
下京第壱区

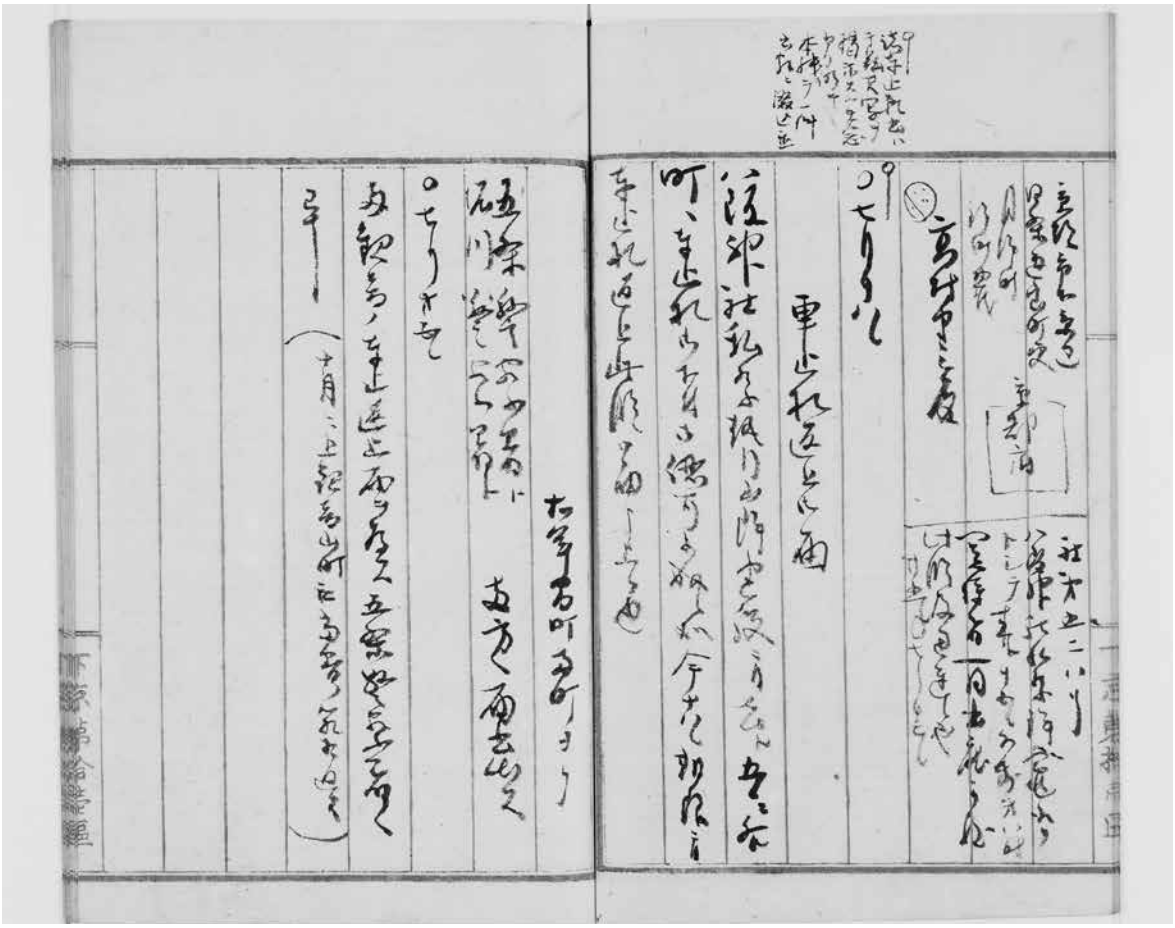


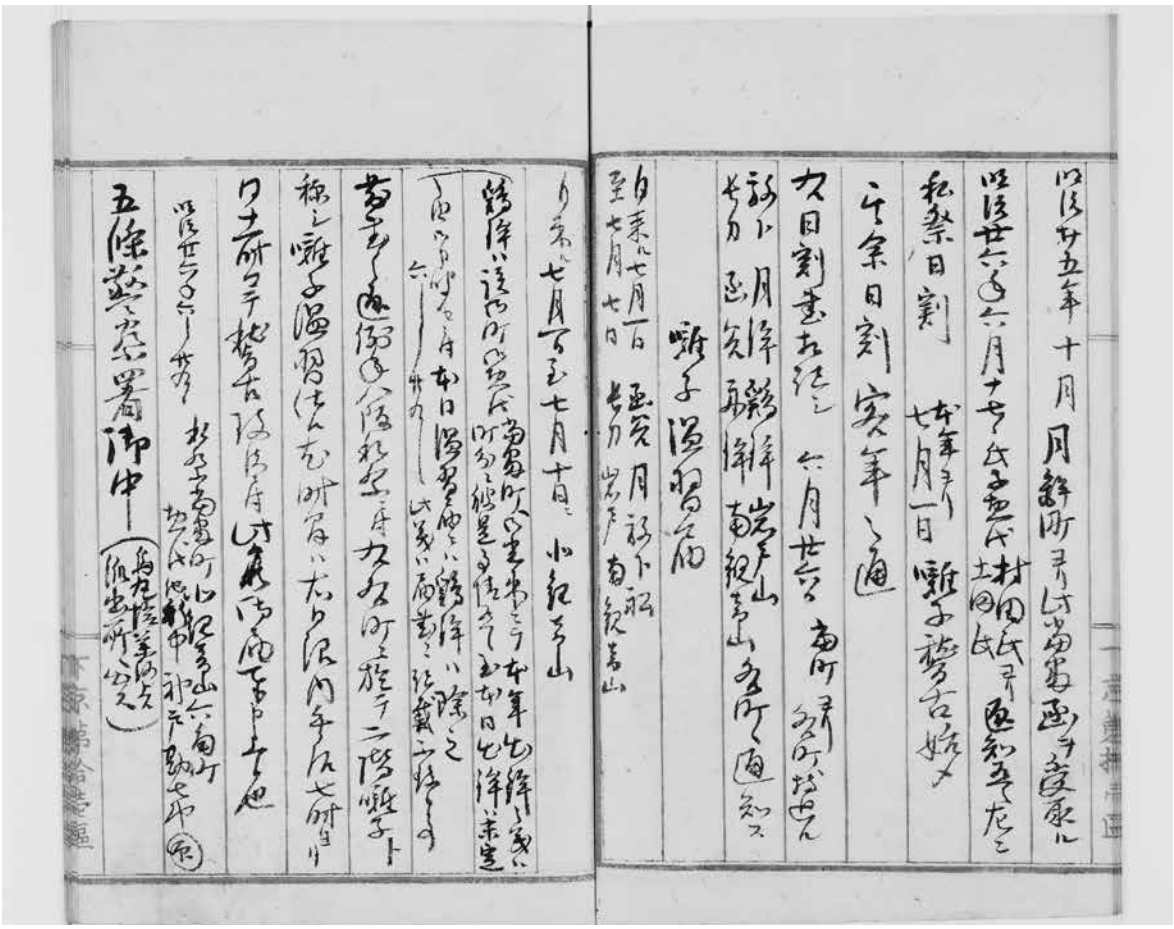




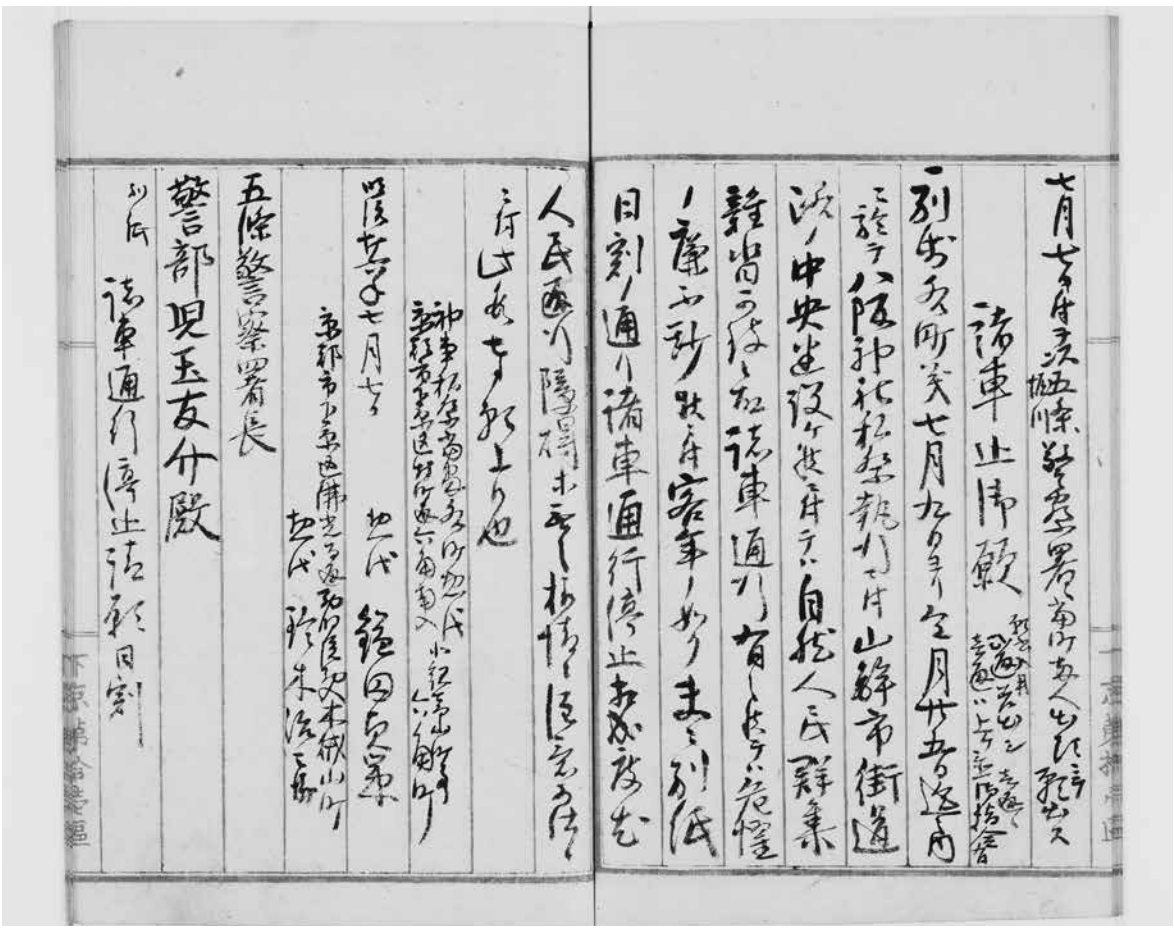




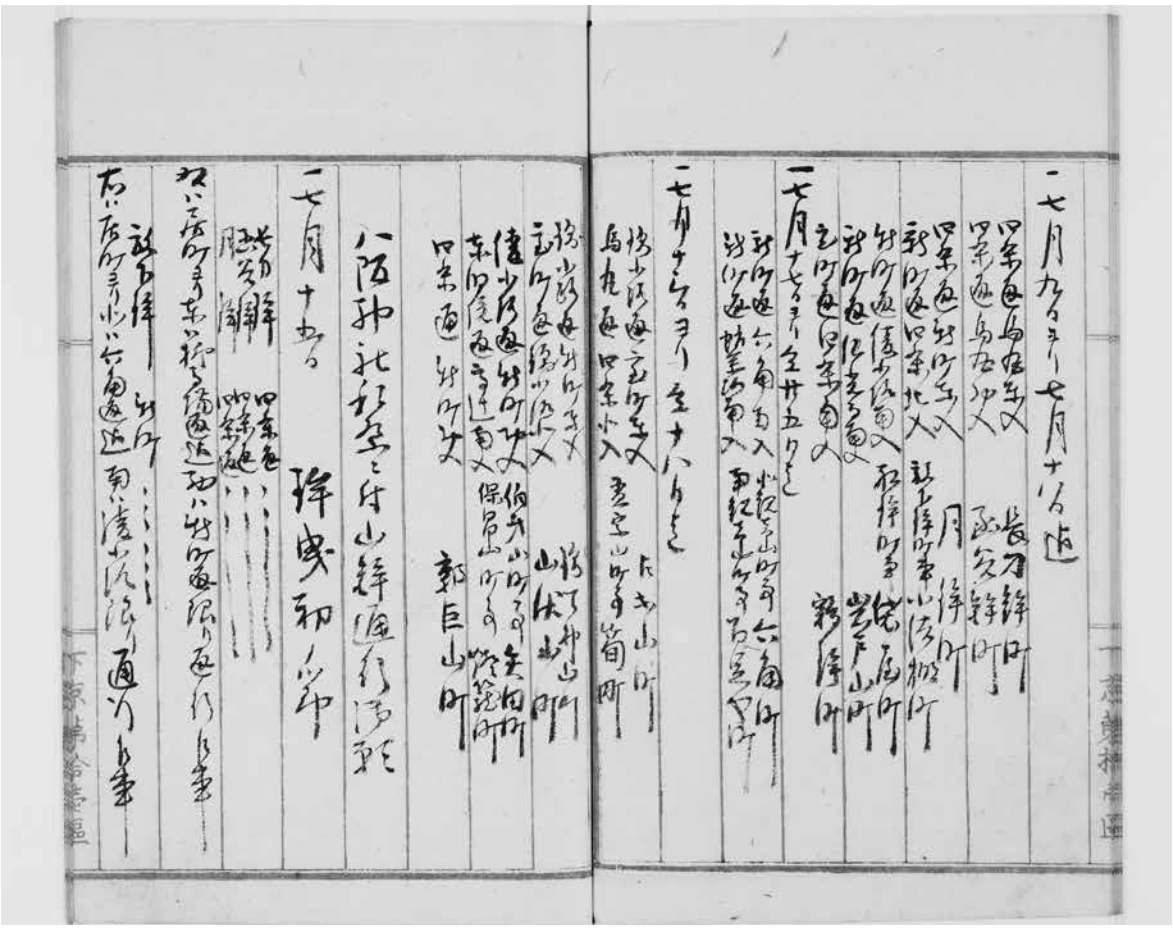


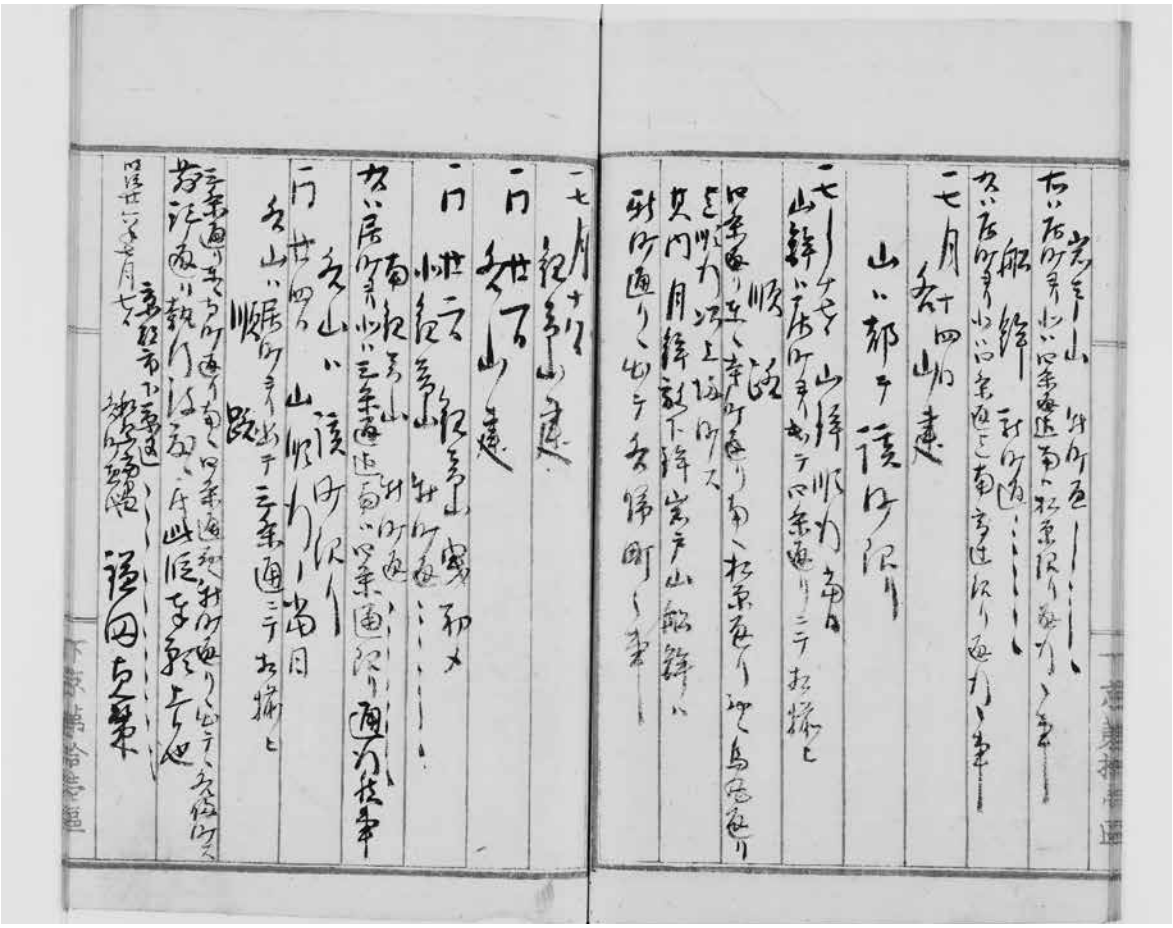


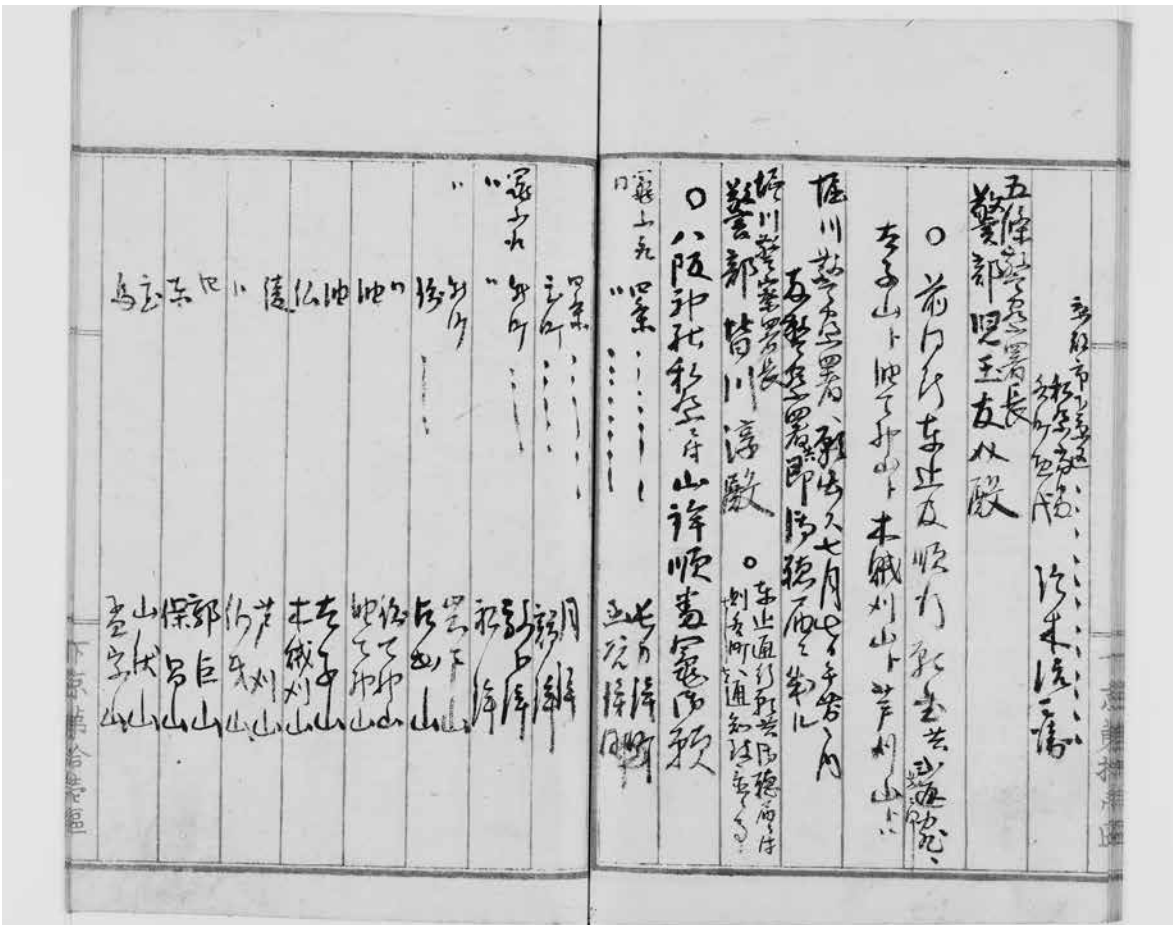
明治廿五年十月　月給所ニ付ハ当番ニ交代ス
明治廿六年六月十七日　氏子村内氏子ニ通知ス
私祭日割　本年ニ
七月一日　嚊子祭ニ始メ
十余日割　実年ニ通
九日割　廿五日　六月廿六日　南所ニ
終ル　月給解　嚊子山
廿九日　通知ス
嚊子祭日割
自来七月一日　至七月七日　当番　南殿山

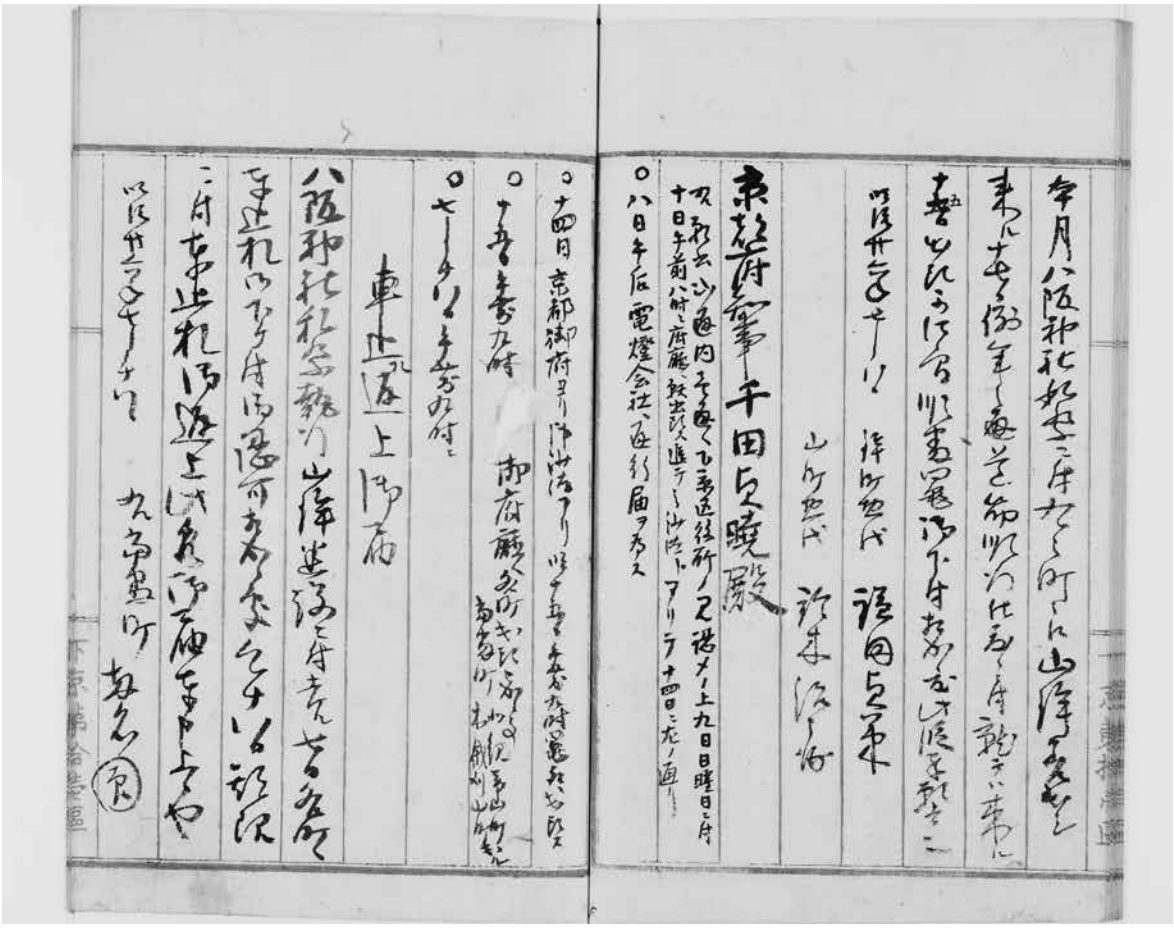


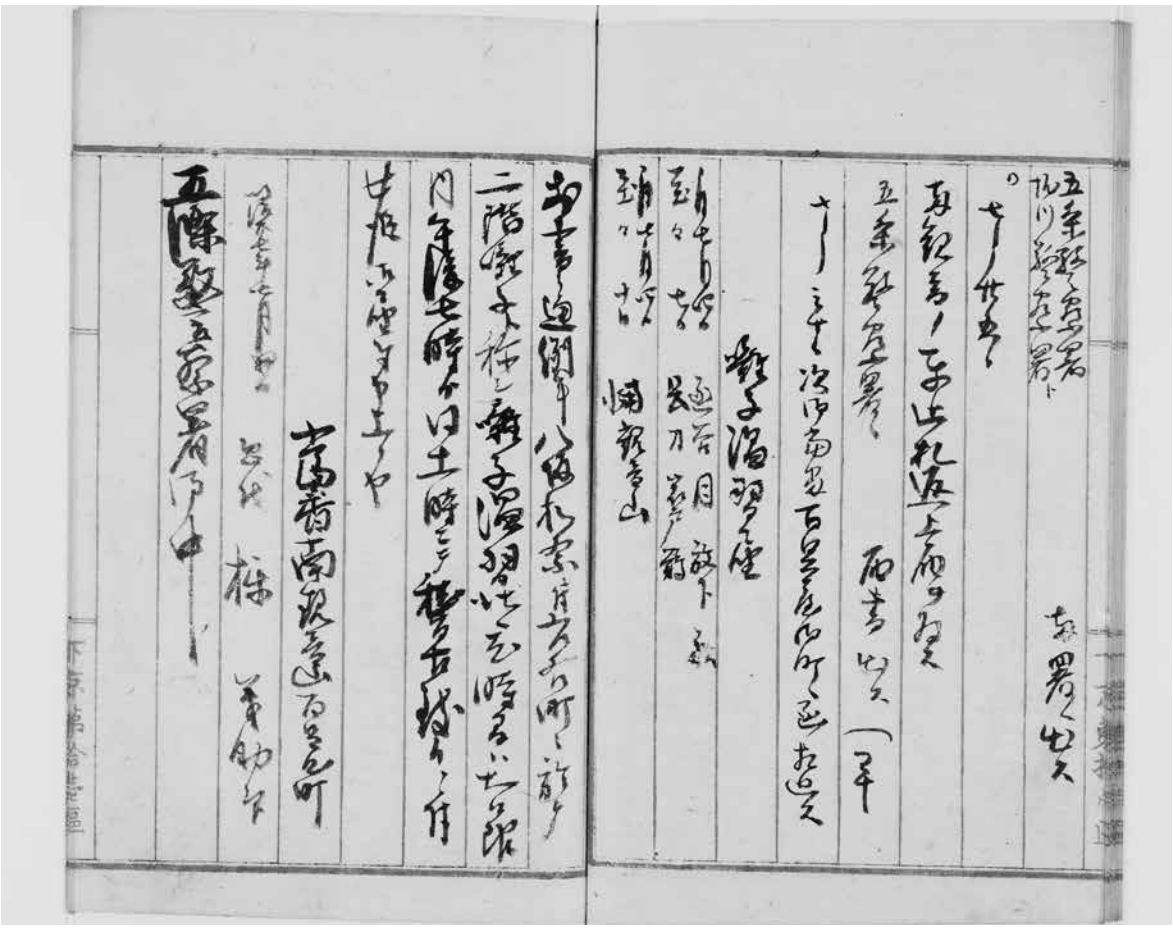
七月　本年ニ
諸車止ル
列ル所ニ　七月九日ニ　六月廿五日迄
八阪神社祭礼ハ山鉾市街通
ノ中央迄　自然人民群集
諸車ノ往来ハ危険
日割ノ通リ諸車通行停止
人民ハ陽ニ　七月九日上り迄
明治廿六年七月七日　知事
五條警察署長
警部　児玉友介殿
諸車通行停止ニ付日割

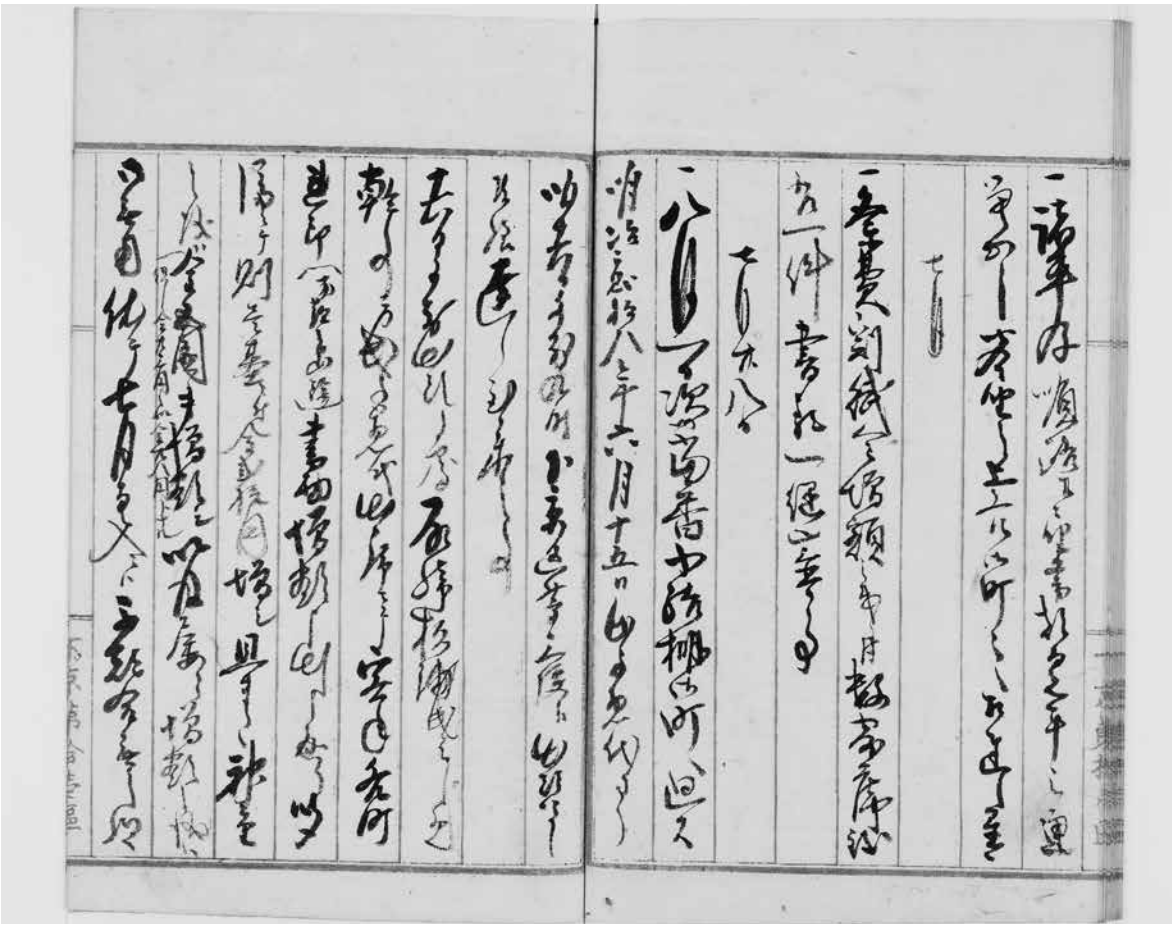


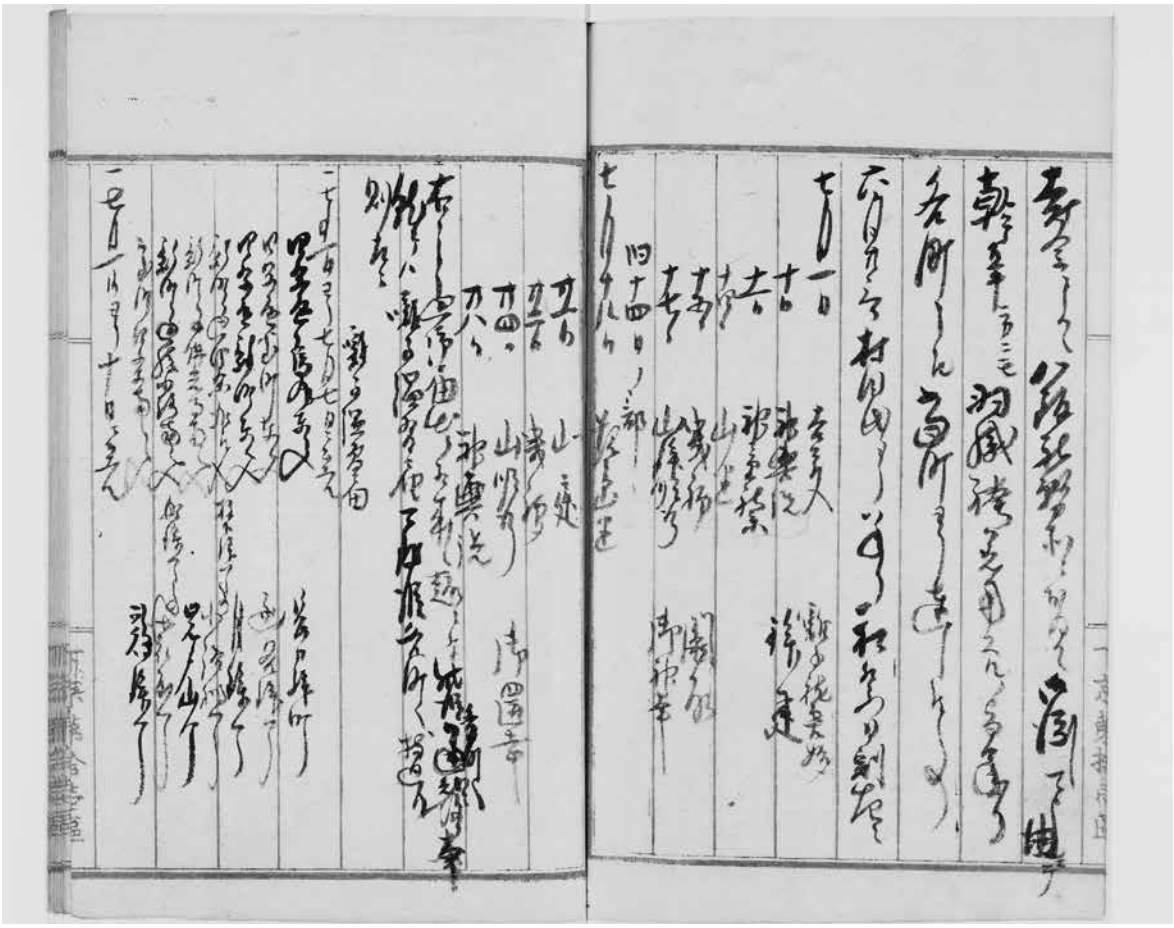


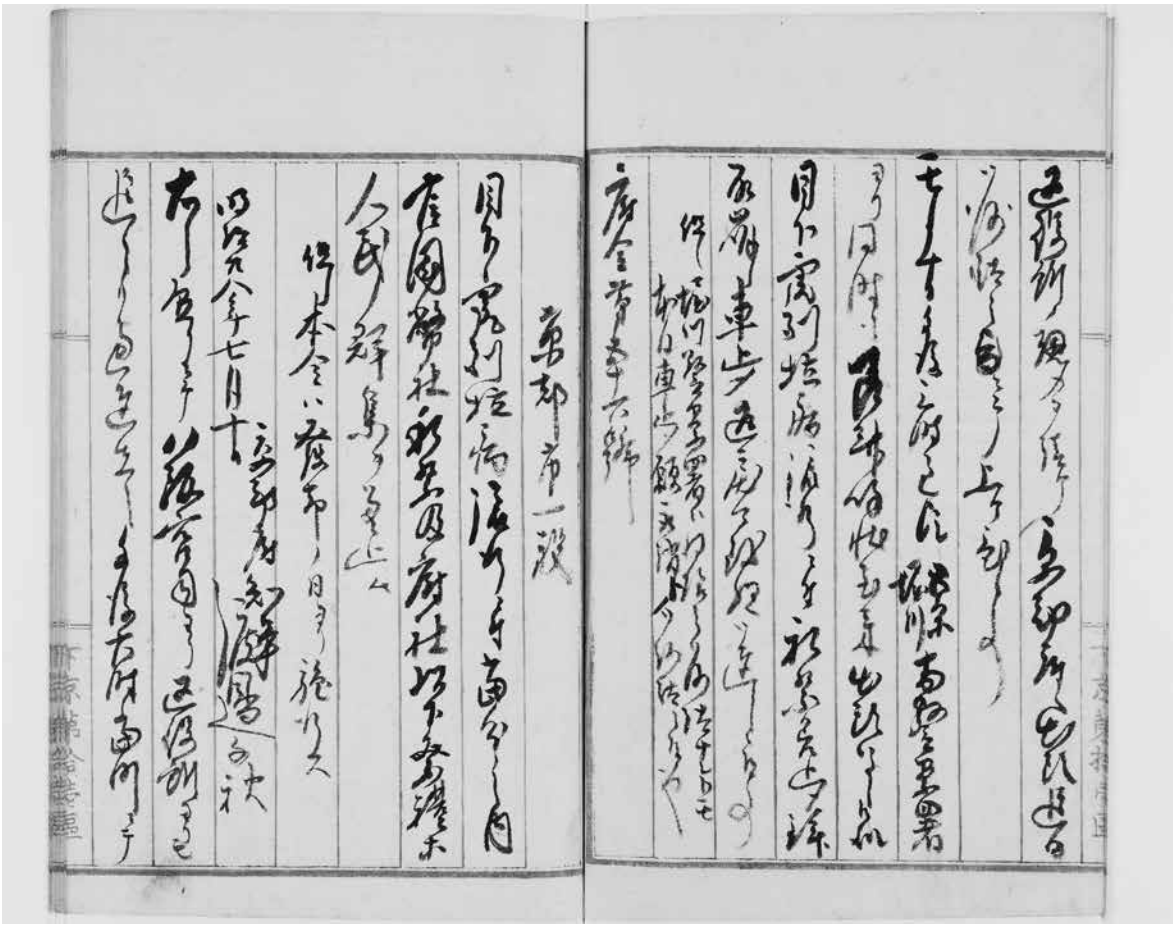


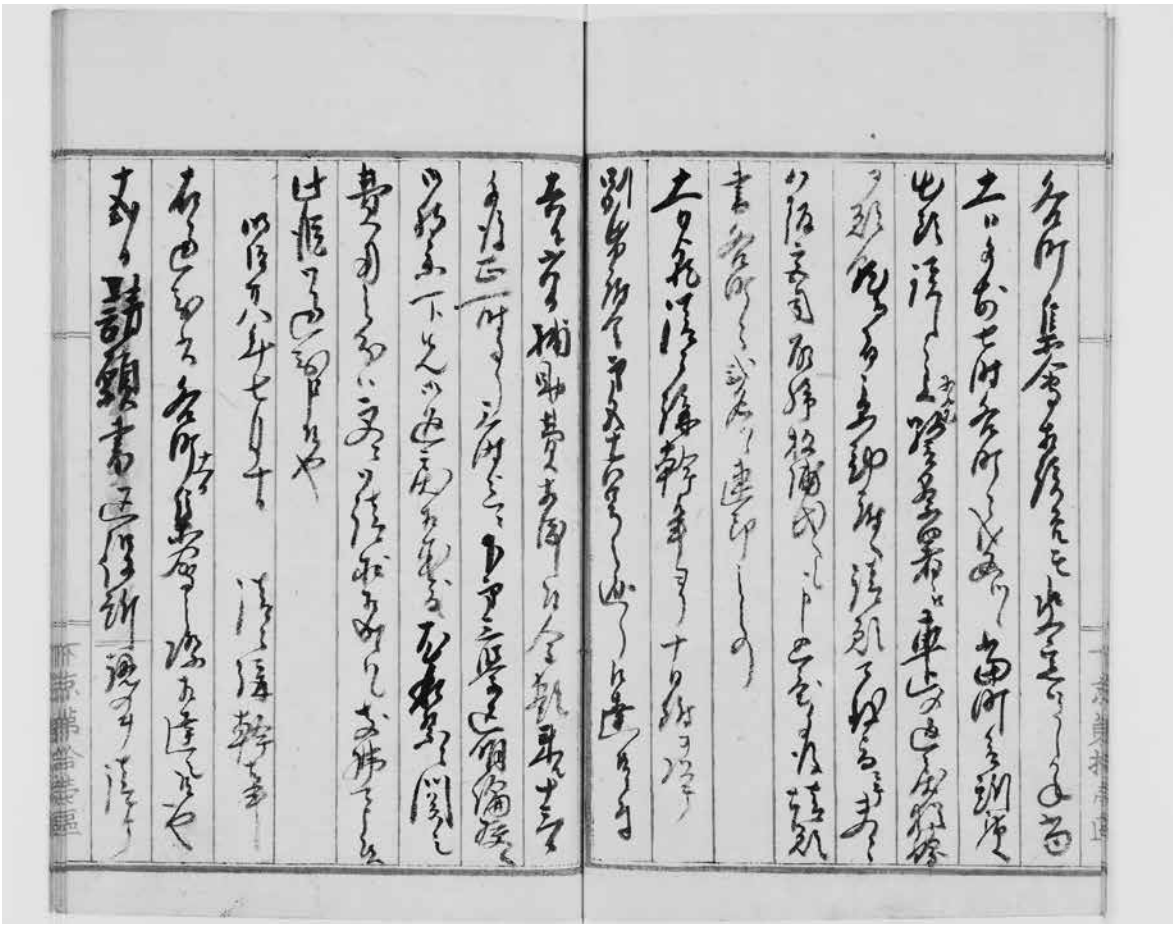


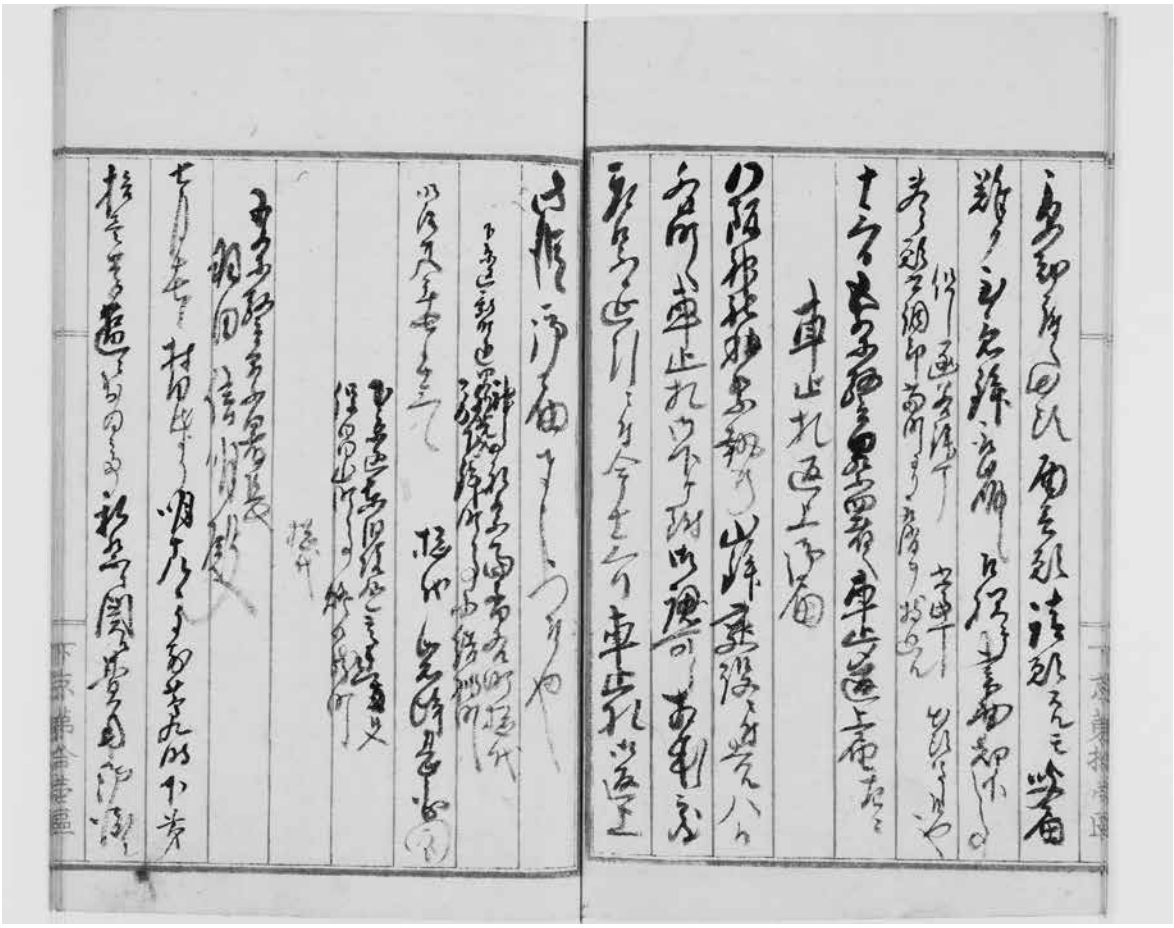


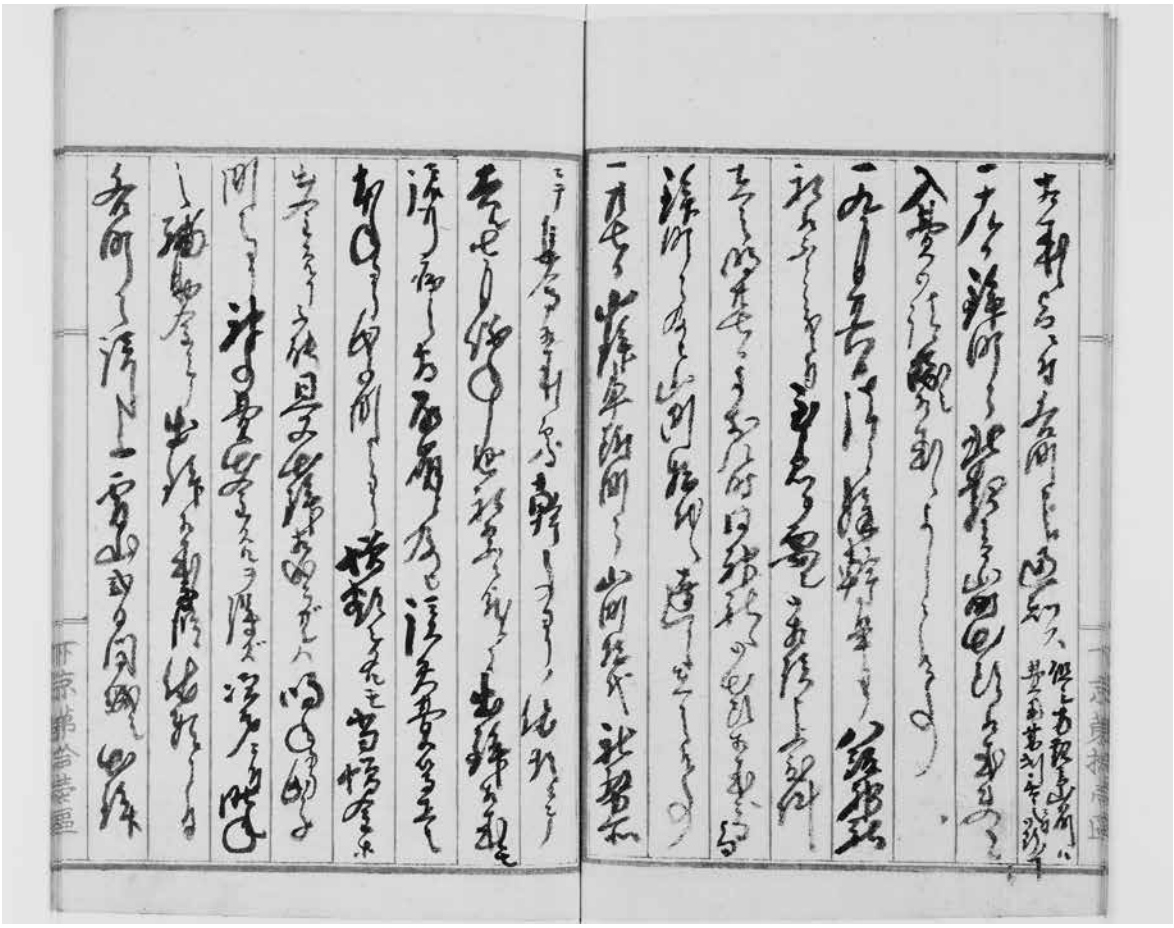


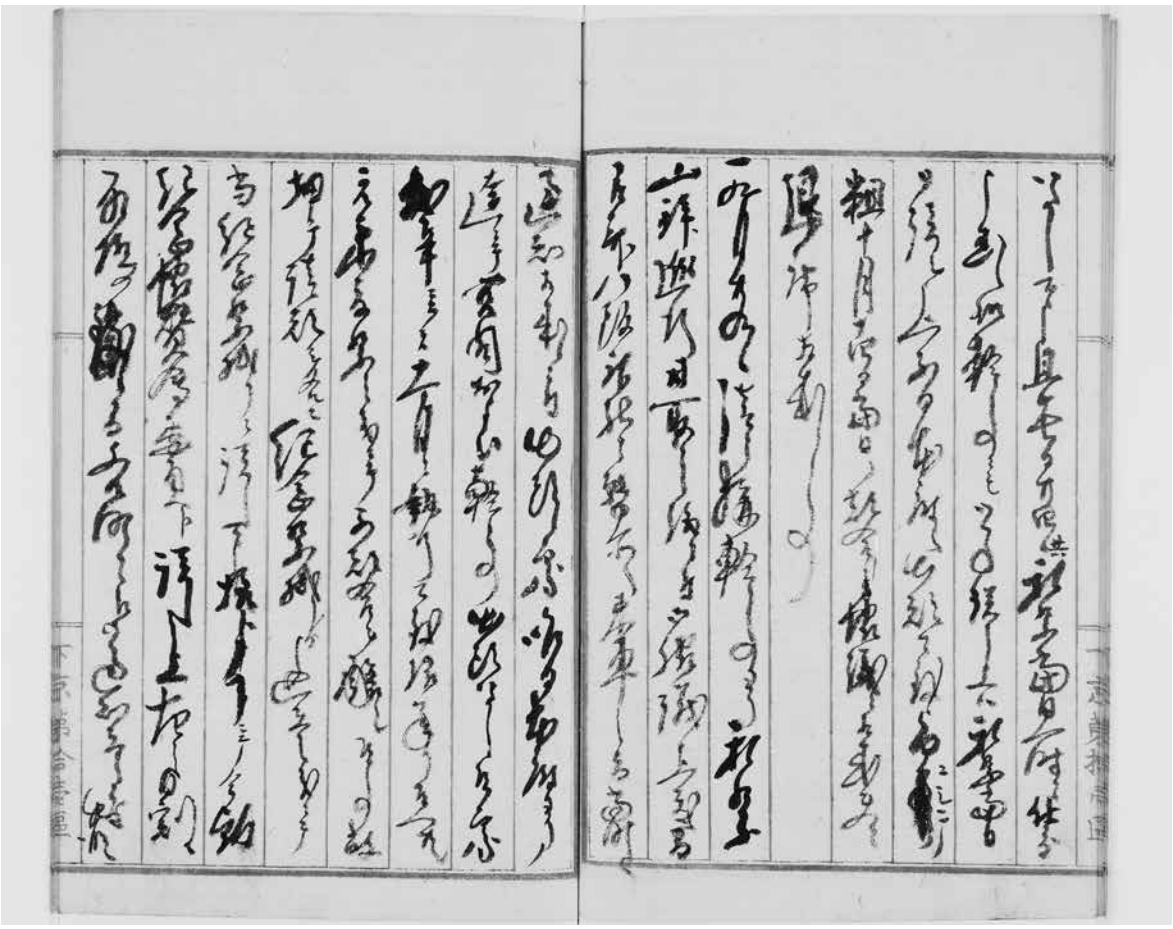


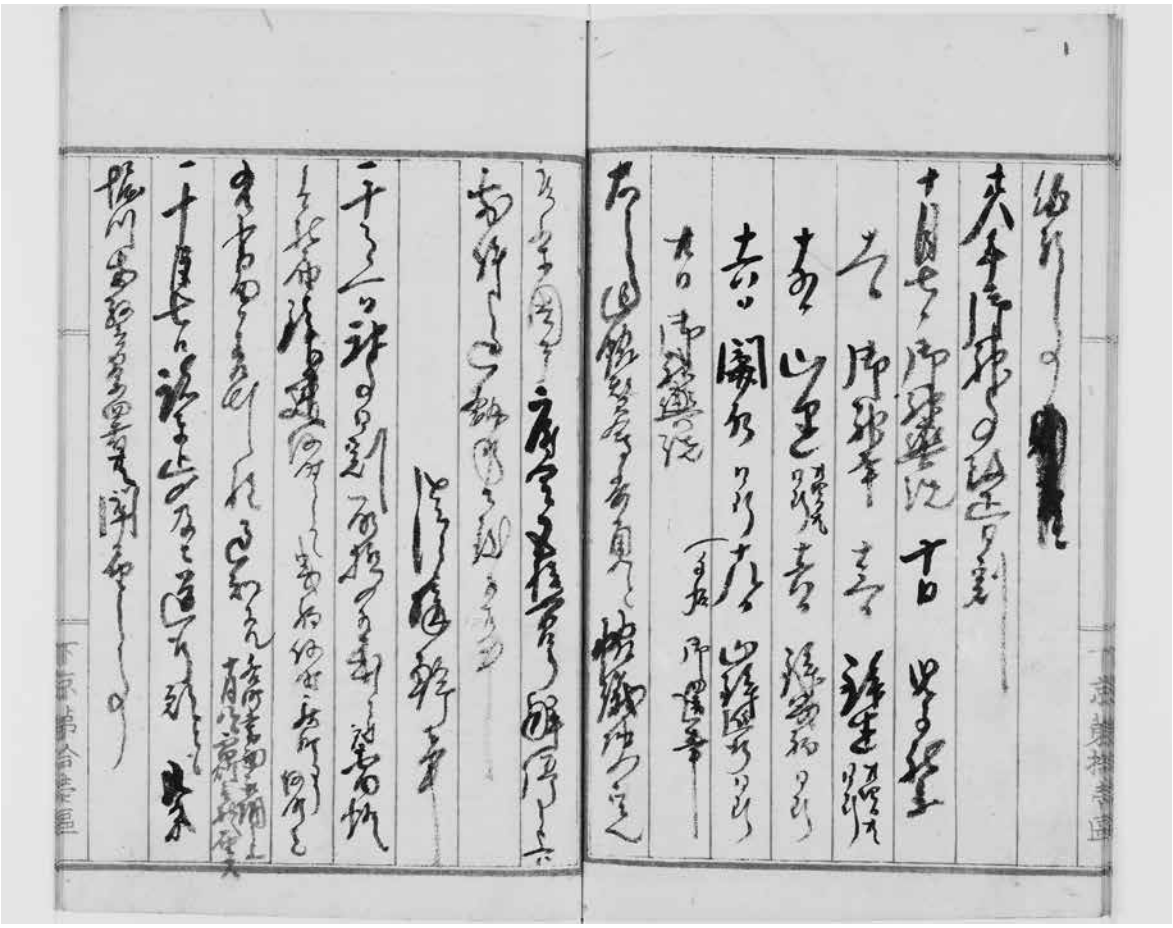


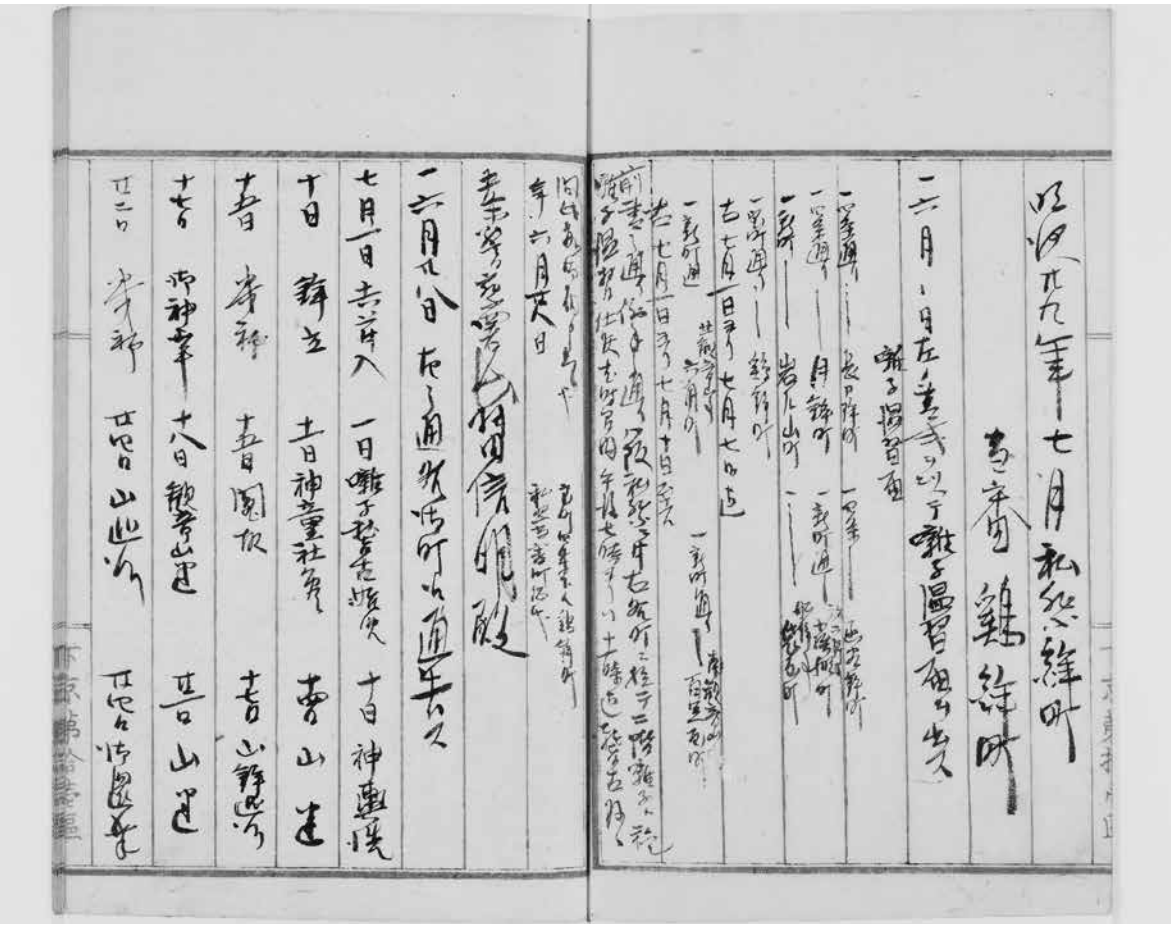


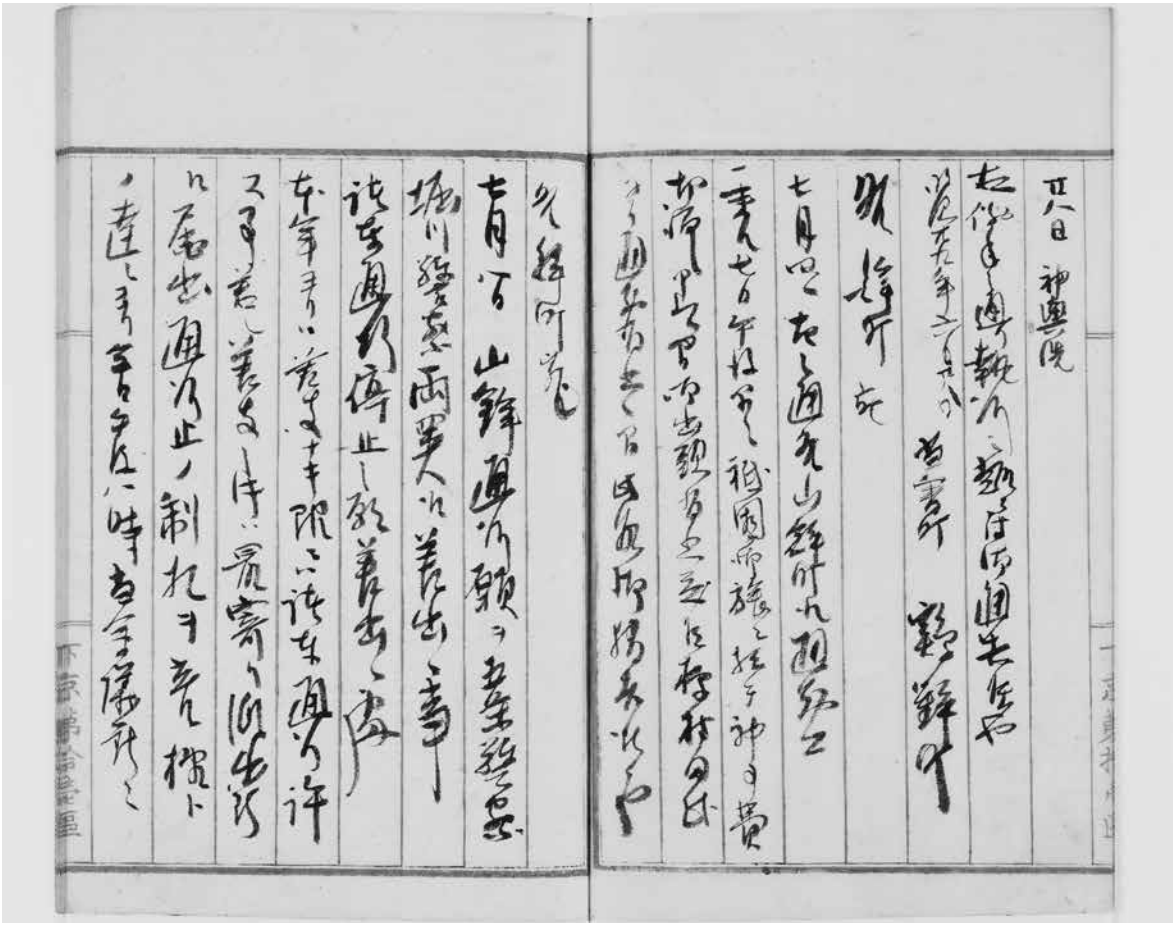


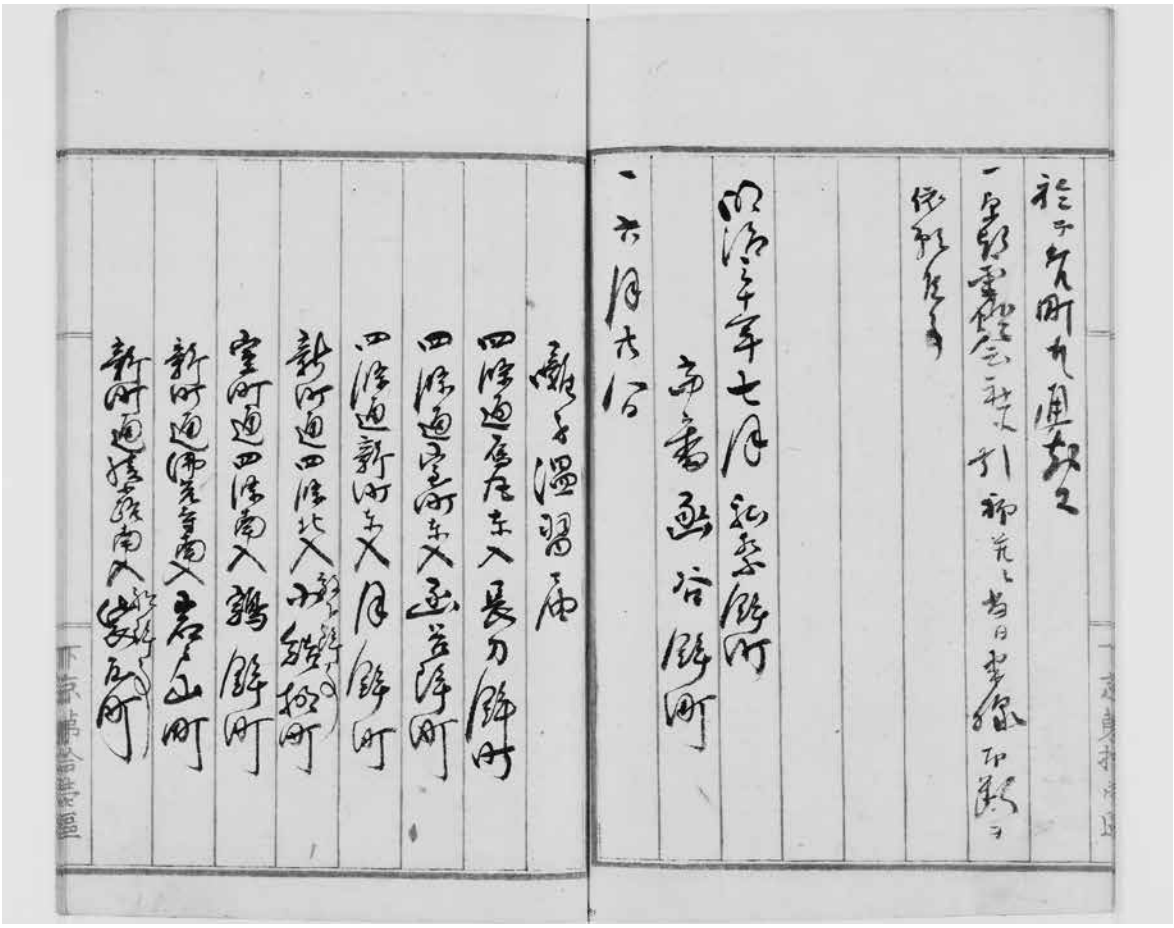


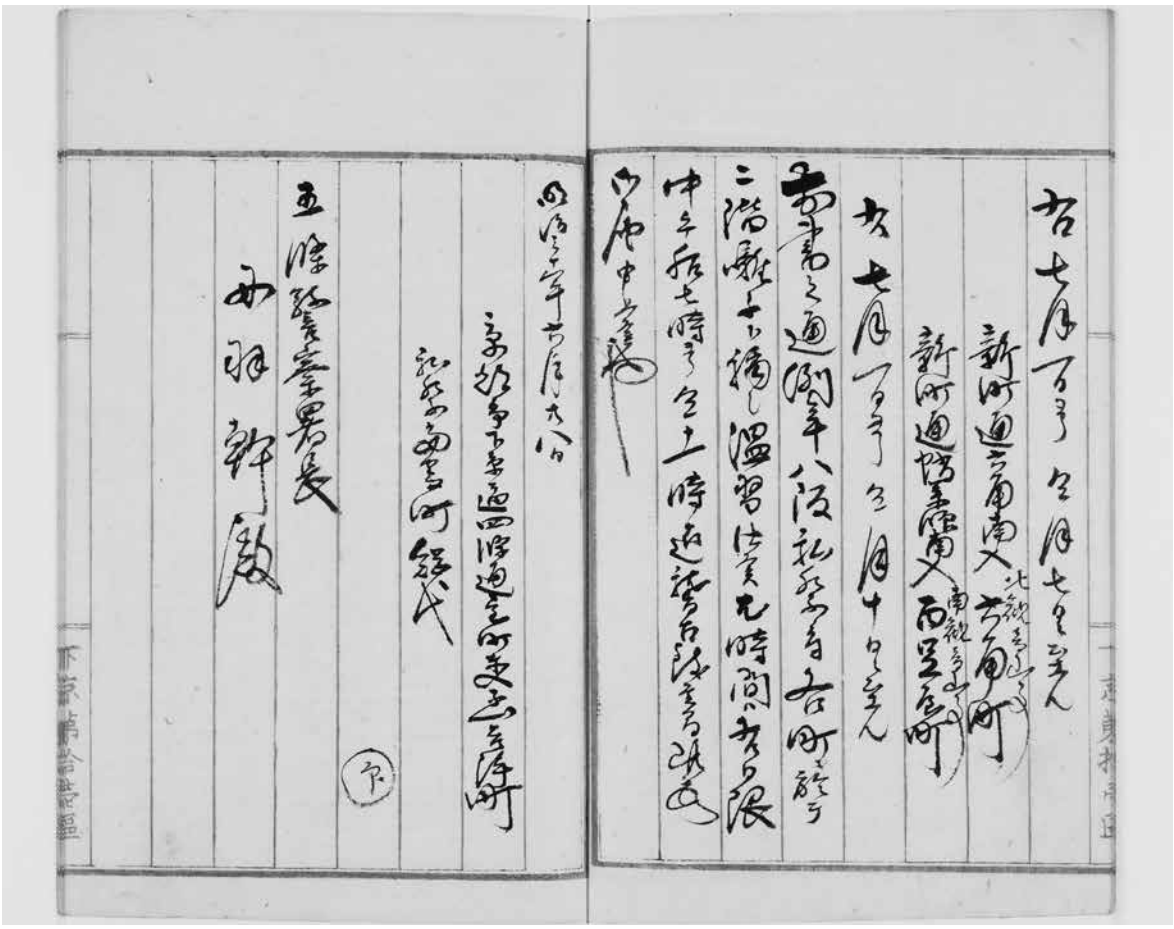


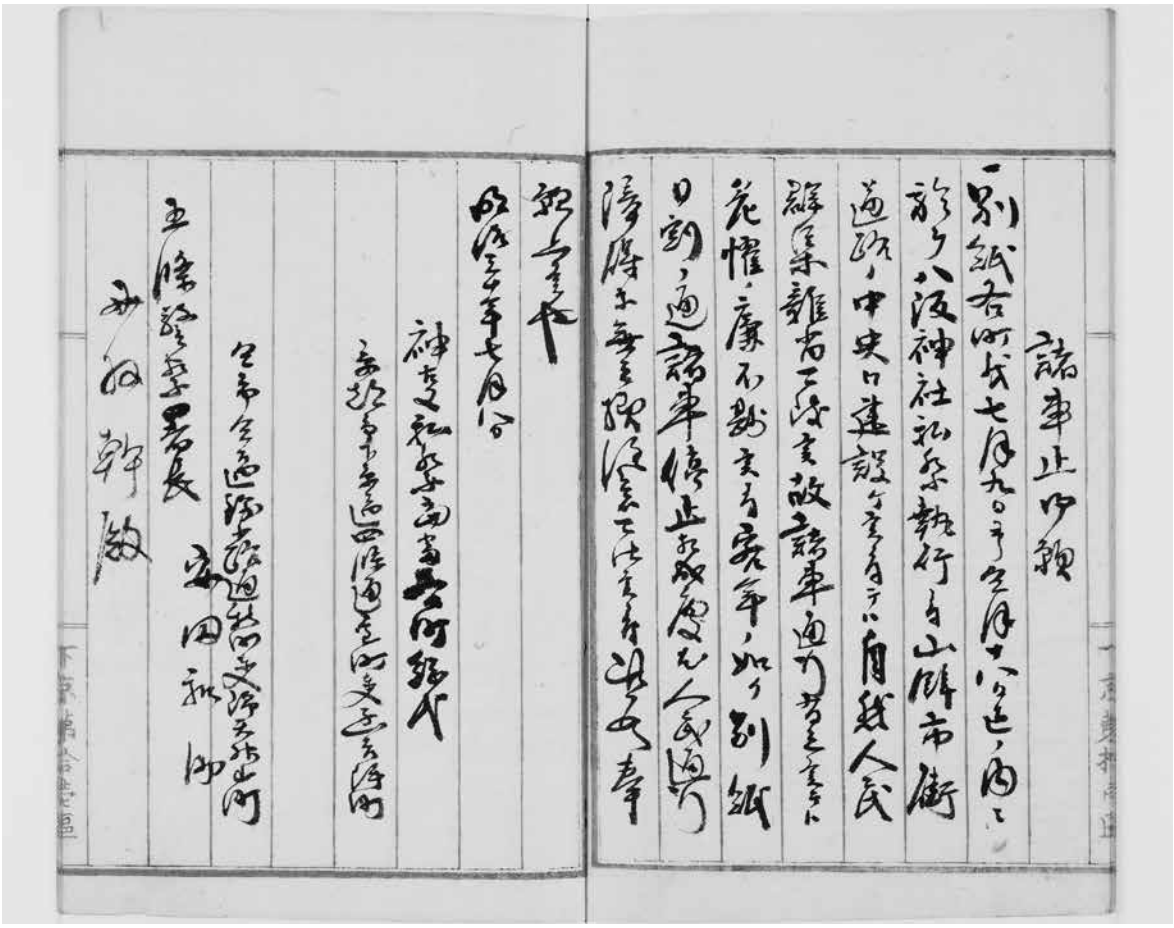


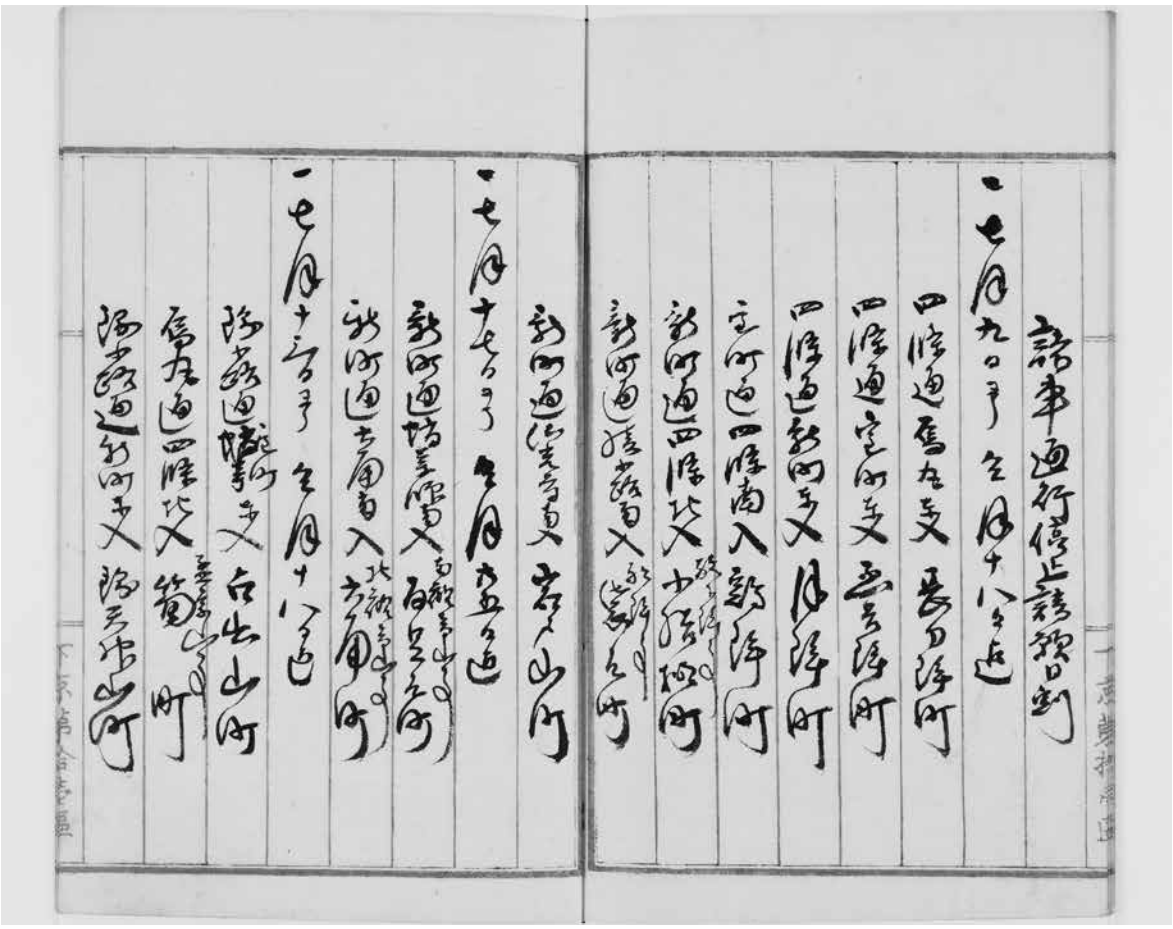


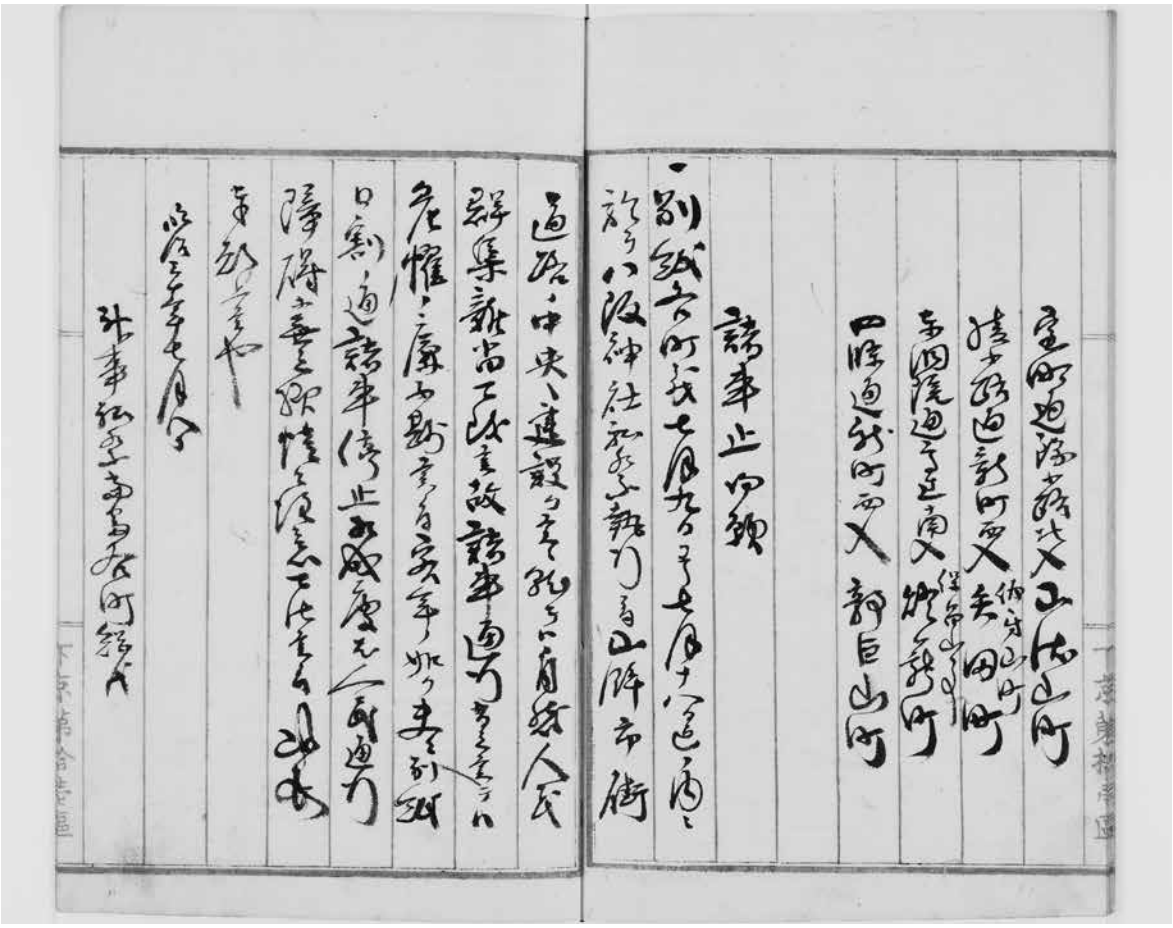


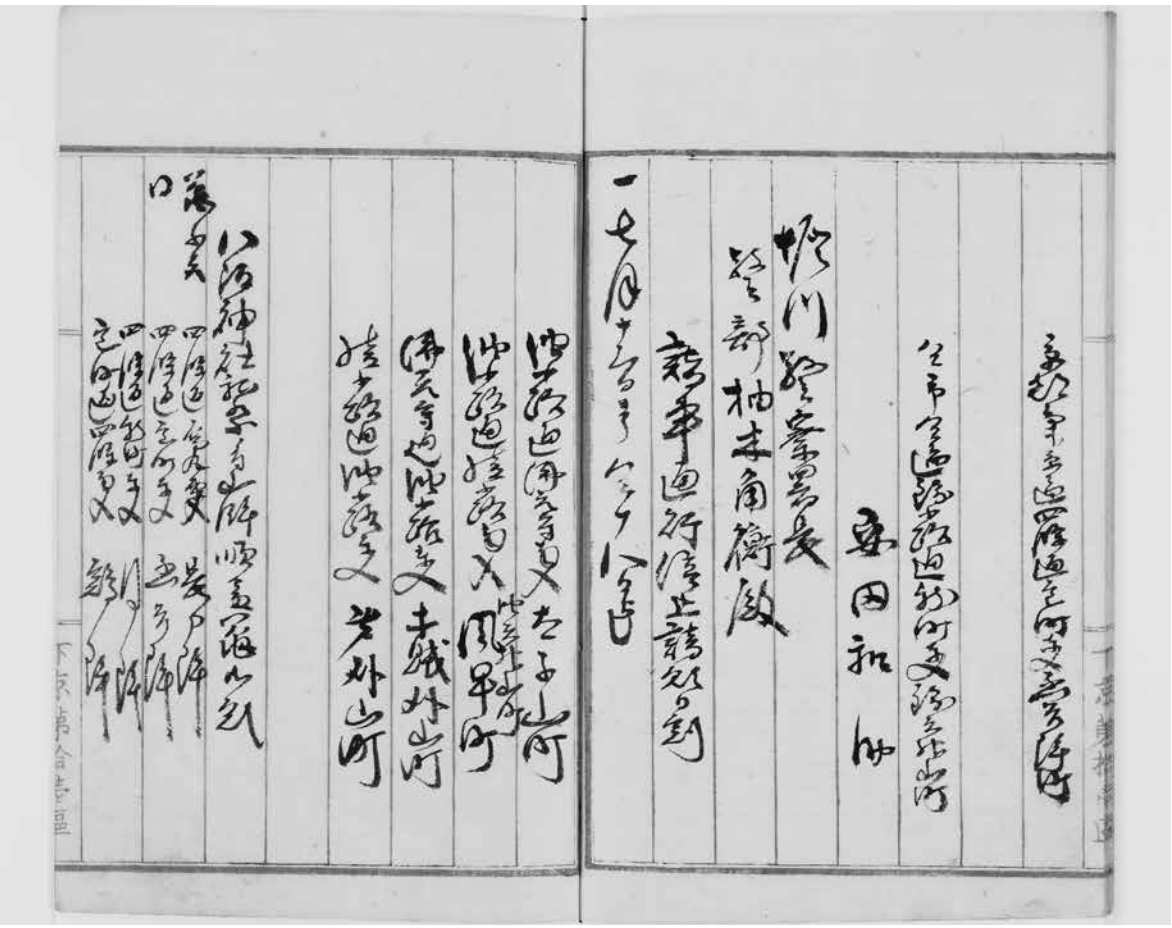


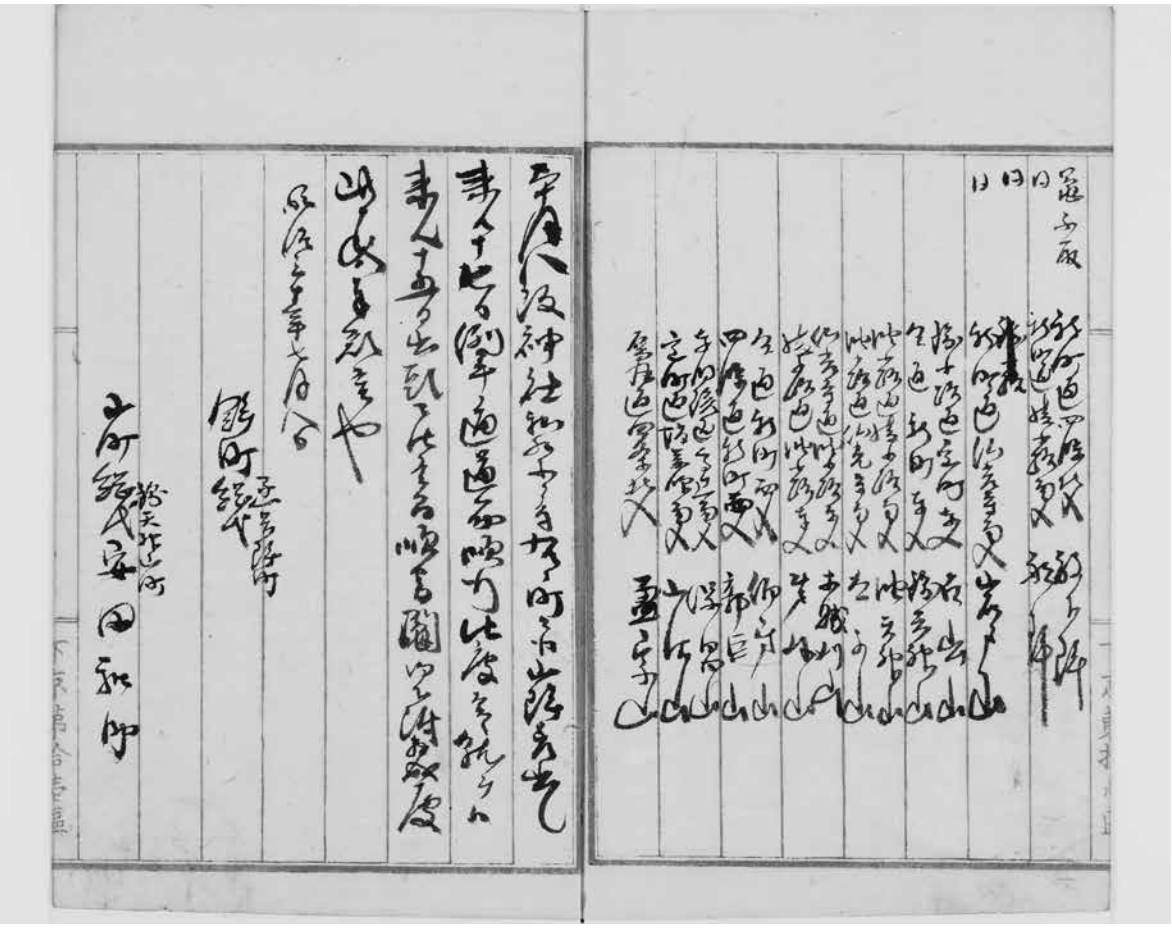


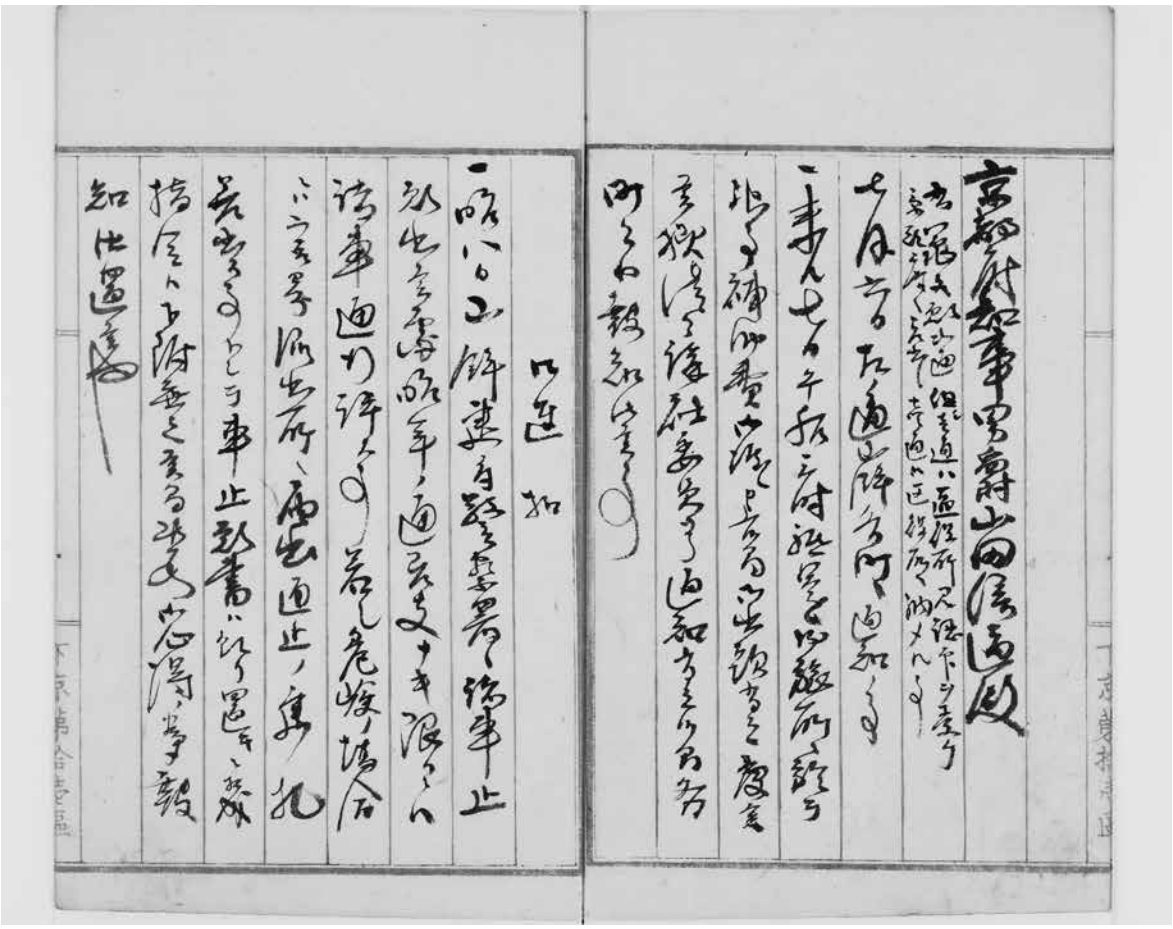


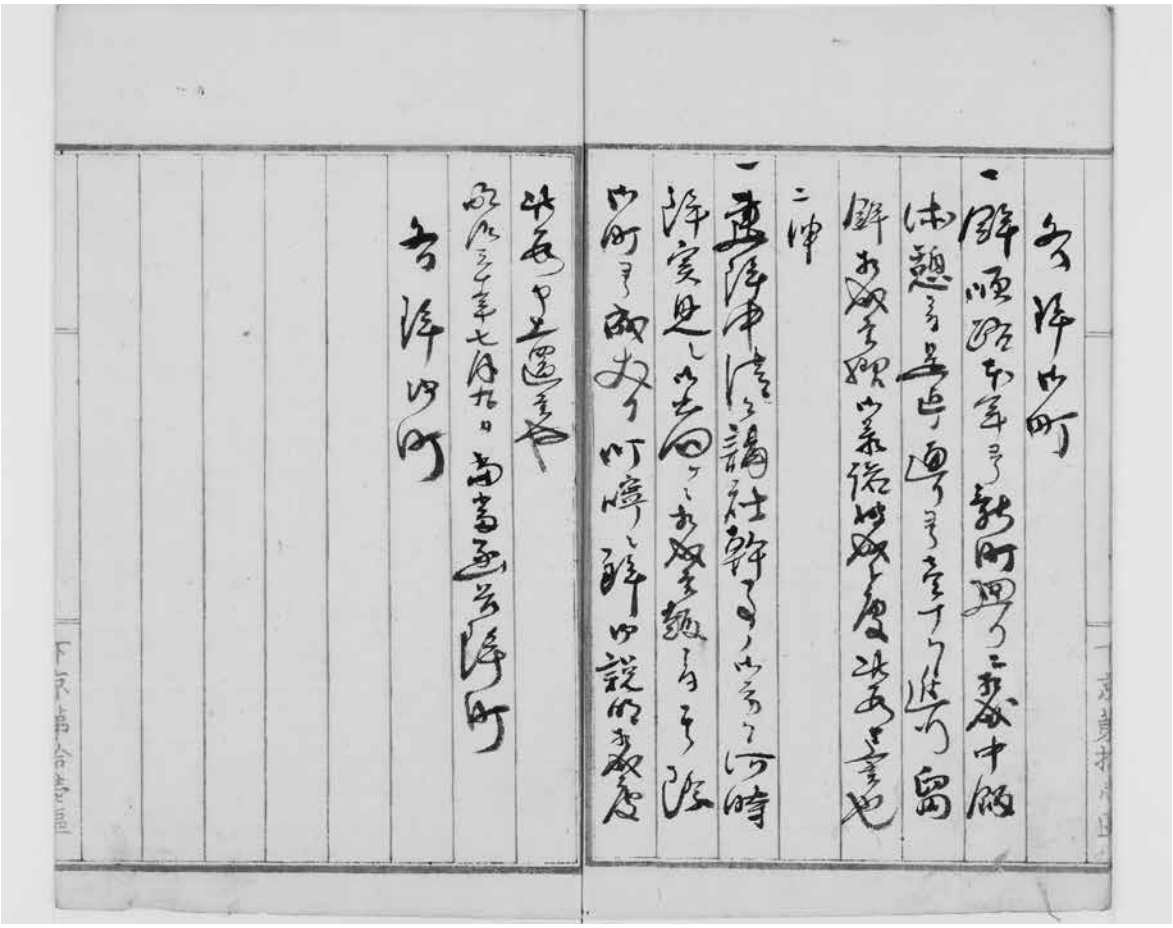


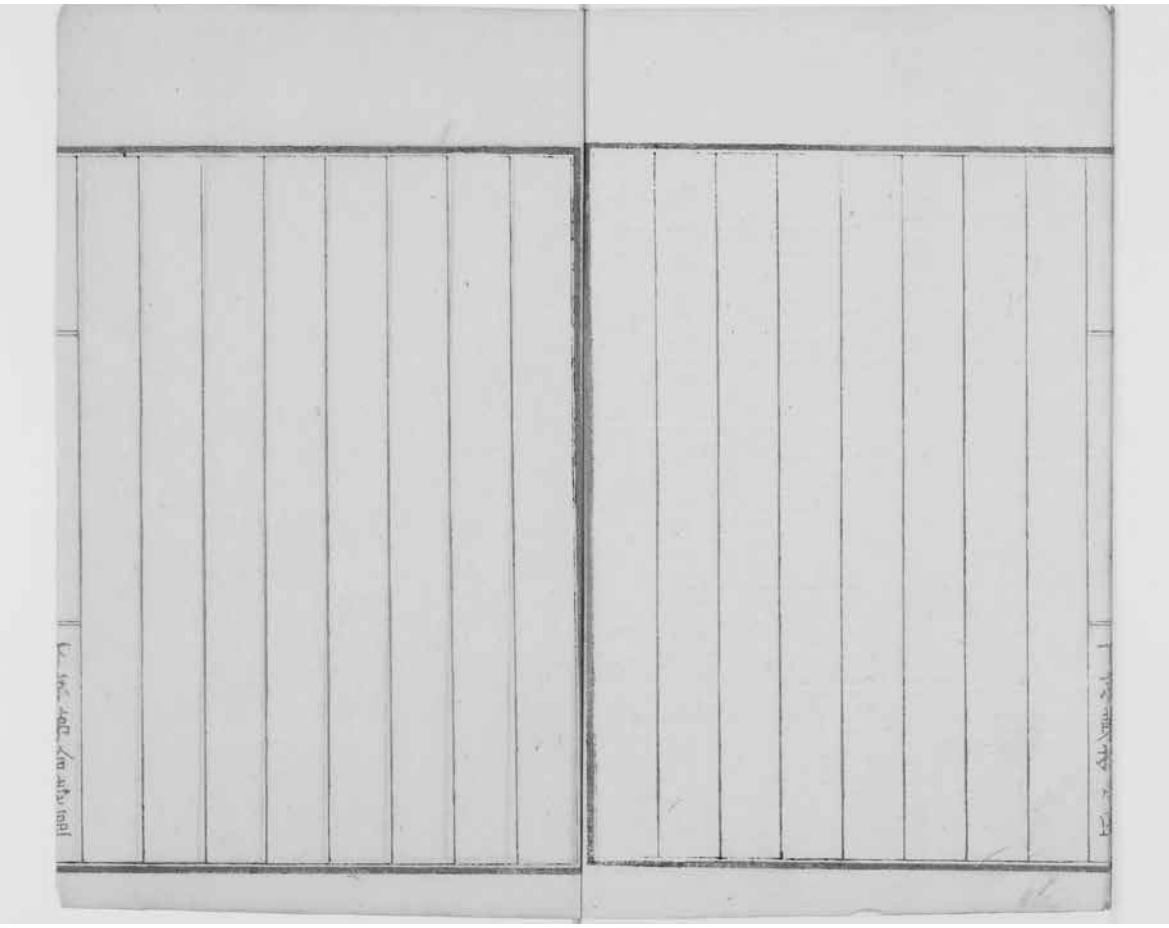


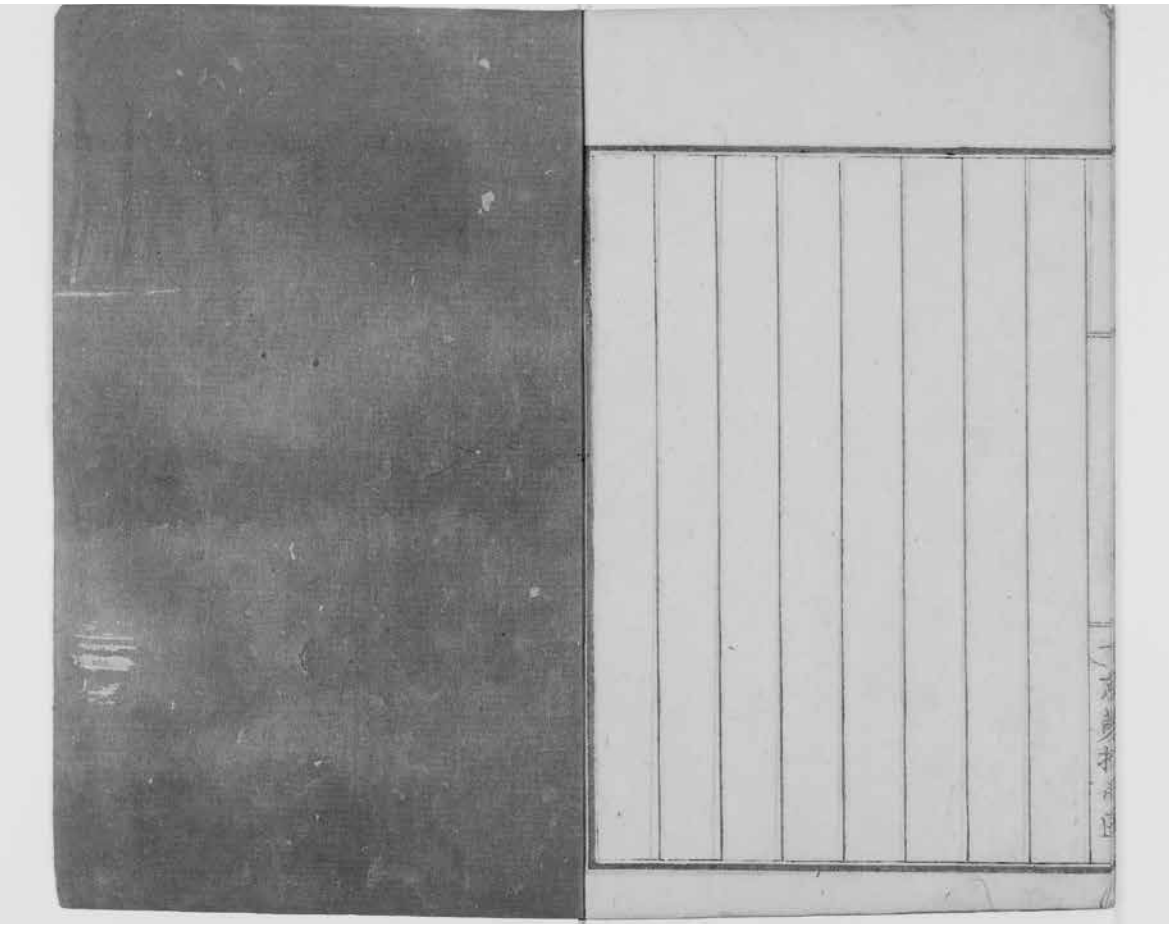












長刀鉾町
函谷鉾町
月鉾町
放下鉾町
鶏鉾町
岩戸山町